

学 修 要 覧

Academic Handbook

(学部編)

2025 年度入学生用

文学部

立命館憲章

立命館は、西園寺公望を学祖とし、1900年、中川小十郎によって京都法政学校として創設された。「立命」の名は、『孟子』の「尽心章句」に由来し、立命館は「学問を通じて、自らの人生を切り拓く修養の場」を意味する。

立命館は、建学の精神を「自由と清新」とし、第2次世界大戦後、戦争の痛苦の体験を踏まえて、教学理念を「平和と民主主義」とした。

立命館は、時代と社会に真摯に向き合い、自主性を貫き、幾多の困難を乗り越えながら、広く内外の協力と支援を得て私立総合学園への道を歩んできた。

立命館は、アジア太平洋地域に位置する日本の学園として、歴史を誠実に見つめ、国際相互理解を通じた多文化共生の学園を確立する。

立命館は、教育・研究および文化・スポーツ活動を通じて信頼と連帯を育み、地域に根ざし、国際社会に開かれた学園づくりを進める。

立命館は、学園運営にあたって、私立の学園であることの特性を活かし、自主、民主、公正、公開、非暴力の原則を貫き、教職員と学生の参加、校友と父母の協力のもとに、社会連携を強め、学園の発展に努める。

立命館は、人類の未来を切り拓くために、学問研究の自由に基づき普遍的な価値の創造と人類的諸課題の解明に邁進する。その教育にあたっては、建学の精神と教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努める。

立命館は、この憲章の本旨を踏まえ、教育・研究機関として世界と日本の平和的・民主的・持続的発展に貢献する。

2006年7月21日 学校法人 立命館

立命館大学学生育成目標

立命館大学は、「自由と清新」の建学の精神と「平和と民主主義」の教学理念に基づき、「未来を信じ、未来に生きる」の精神をもって、確かな学力の上に、豊かな個性を花開かせ、正義と倫理をもった地球市民として活躍できる人間の育成に努めることを教育的使命としています。

立命館大学は、多様なバックグラウンドや個性を持つ学生達が、「Creating a Future Beyond Borders 自分を越える、未来をつくる」ことができる主体として学び成長していくことを、様々な部署が連携することによって教職協働で支援しています。正課・課外など学生生活全体を通じて、「学びのコミュニティ」の中で相互に学び合い、切磋琢磨し、学部卒業時に次のようなことができる学生の育成を目指しています。

- (1) 多様な価値を尊重し、他者との対話と協働を重視し、「平和と民主主義」の価値観に裏打ちされた自律的な思考と行動ができる
- (2) 幅広い教養と専門性を有し、グローバルとローカルの視点を備え、既存の枠組みや境界を超えた「自由」で「清新」な思考と行動で問題発見・解決ができる
- (3) 自己を理解し、自らの役割や課題を踏まえた責任ある思考と行動ができる
- (4) 「未来を信じ、未来に生きる」高い志を持ち、生涯にわたって学び、行動し続けることができる

2018年3月2日制定

目次

I. 文学部の人材育成目的と教学ポリシー	1
1. 人材育成目的	2
2. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と教育目標	2
3. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）	2
4. 学域／専攻ごとの教育内容と特色	3
II. 文学部の履修	17
1. 文学部での学位取得（卒業）	18
2. 文学部での履修（卒業するための要件）	18
3. 受講登録上限単位数	19
4. 卒業見込証明書の発行基準	20
5. 科目ナンバリング	20
6. 基礎科目	23
7. 教養科目	24
8. 外国語科目	32
9. 専門科目	39
10. 2 回生以降に所属する専攻選択	79
III. 文学部の特色ある学び	81
1. 文学部における学び	82
2. 小集団科目	83
3. クロスメジャー	83
4. 英語アドヴァンスト・コース	86
5. エリアスタディ	87
6. 人文学特別研修	89
7. 卒業論文	90
IV. 学部横断プログラム	91
1. 海外留学	92
2. 大学間単位互換制度	94
3. 全学副専攻	96
4. 他学部受講	97
V. 教職課程	99
1. 教職課程について	100
VI. キャリア形成・資格取得	119
1. 大学院進学	120
2. 学芸員課程	121
3. 図書館司書課程	123
4. 学校図書館司書教諭課程	125
5. 地域研究学域で取得可能な資格など	126
6. 日本語教師養成課程	130
7. 日本語教育能力検定試験	131

VII. 学びの支援	133
1. オフィス・アワー	134
2. サブゼミ	134
3. 学生への援助制度	134
VIII. 施設・学会・校友会	137
1. コモンズ（愛称：RiLICC）	138
2. 共同研究室と人文系文献資料室	138
3. Beyond Borders Plaza (BBP)	140
4. 立命館大学人文学会	140
5. 文学部校友会	141
IX. 文学部学部則	143
1. 立命館大学文学部学部則	143

「学修要覧」の使い方

- ・本書は、「履修・登録の手引き」と合わせて、学びの指針として役立ててください。
- ・本書は、卒業まで使用します。再配付しませんので、大切に扱ってください。
- ・本書の記載内容に追加・変更があれば、manaba+R 文学部生のページで随時、発表します。定期的に確認を行ってください。

I. 文学部の人材育成目的と教学ポリシー

1. 人材育成目的
2. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と教育目標
3. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）
4. 学域 / 専攻ごとの教育内容と特色

I - 1. 人材育成目的

人材育成目的

文学部は、人文学の諸分野の教育研究を通じて、世界の様々な文化や人間についての幅広い知識を身につけ、広い視野のもと、人間や社会が抱える問題の究明・解決ならびに、世界の発展に主体的に貢献できる人材を育成することを目的とする。

I - 2. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）と教育目標

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

文学部では、「人材育成目的」をふまえて、学生が卒業時に身につけておくべき能力（＝教育目標）を定めている。学部則が規定する単位（卒業論文を含む）の修得によって、上記教育目標の達成と見なし、学士課程学位を授与する。

卒業論文の基本的な審査の観点は、以下の通りである。

- (1) 研究課題・テーマ
- (2) 先行研究・研究資料・註記
- (3) 論文の展開
- (4) 書式

教育目標

- (1) 人間や世界の様々な文化について幅広い知識を身につけ、人文学の方法論を用いて理解をすることができる（知識・理解）
- (2) 現代・過去の社会や文化に対して多面的な関心を持ち、自らの見解を形成できる（思考・判断）
- (3) 個人や文化の多様性を認め、社会の一員として行動できる（思考・判断）
- (4) 人間や文化について関心を持ち、自らの力で課題を設定し探求する意欲を持つ（関心・意欲）
- (5) 現代社会が抱える問題に対し、大学で学んだことをもとに主体的に解決しようとする態度を持つ（態度）
- (6) 自分の調査・研究の結果や、それらをふまえた自己の見解を、口頭あるいは文章や制作物の形で表現することができる（技能・表現）

I - 3. 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

文学部では上記「教育目標」を達成するために、「教養科目群」「基礎科目群」「外国語科目群」「専門科目群」「発展科目群」を相互に関連させながら学ぶ。

「教育目標」(1)の達成のために、「教養科目群」「外国語科目群」「専門科目群」「発展科目群」で学ぶ。

「教育目標」(2)(3)(4)(5)の達成のために、「教養科目群」「専門科目群」「発展科目群」で学ぶ。

「教育目標」(6)の達成のために、「基礎科目群」「専門科目群」「発展科目群」で学ぶ。

個々の科目群の概要は以下の通りである。

○教養科目群

人生を生きていく上での指針となる知性と知恵、価値観の獲得のために設置された科目群。「立命館科目」および「思想と人間」「現代と文化」「芸術と創造」「社会・経済と統治」「世界の史的構成」「自然・科学と人類」「数理と情報」の7分野からなる「教養基盤科目（A群）」と、「国際教養科目（B群）」「社会で学ぶ自己形成科目（C群）」「スポーツ・健康科目（D群）」「学際総合科目（E群）」からなる。

○基礎科目群

大学教育の基礎となるアカデミックリテラシーの獲得のために設置された科目群。

○外国語科目群

認識力・思考力を豊かにする人間形成に必要な教養として、また真の国際理解を得るために設置された科目群。「英語」「ドイツ語」「フランス語」「中国語」「スペイン語」「朝鮮語」「イタリア語」から構成されており、「第1外国語」「第2外国語」を1つずつ選択して履修する（学域によって選択できる語種が異なる）。

○専門科目群

自らの所属する学域・専攻の専門的履修を行い、かつ学域・専攻間の枠組みを超えた、横断型の履修も行えるように設置された科目群。総合的・学際的な知を追究するための「人文文学共通科目」と、学域・専攻別の「専門科目」からなる。学域・専攻別の「専門科目」は、「研究入門Ⅰ・Ⅱ」「基礎講読Ⅰ・Ⅱ」「専門演習Ⅰ～Ⅳ」「卒業論文」を基幹科目として、他に「概論」「講読」「特殊講義」などから編成される。

専門科目群の個別の科目が「教育目標」のどの項目に合致しているかは、各学域・専攻・クロスメジャーで定めたカリキュラムマップに記載する。

○発展科目群

人文学・外国語はもとより社会科学・自然科学などを幅広く修得・経験することで、専門性を広い視点から高めていくために設置された科目群。「全学副専攻科目」「他学部受講科目」「教職発展科目」などの単位が算入される。

I - 4. 学域／専攻ごとの教育内容と特色

学 域

人間研究学域

本学域では、現代の切迫した問題を、表面的、流行的、一時的な見方にとらわれず、より根本的な次元に立ちかえって捉え直し、そこから人間の可能性、人知の可能性を創造的に切り拓いていくことを目指す。「哲学・倫理学専攻」と「教育人間学専攻」から成り立ち、両専攻は、文学部人文学科の中心問題である〈人間〉を軸にして、いわば双方向的に学びを展開する。哲学・倫理学専攻は、〈人間〉を通して、存在、価値、美、自己、他者、社会、自然、生死、倫理などの事象を探究する。一方、教育人間学専攻は、人間形成、臨床教育、こころ、健康、意識、身体、病理、癒し、体験、物語などの事象を通して、〈人間〉を総合的に探究する。

日本文学研究学域

日本文学研究学域はその名称の通り、日本文学と日本語学を総合的に研究することを目指しています。更に詳しく述べるならば、「日本」とは何か、「日本文学」や「日本語学」とはどのような研究分野であるのか、その成果はいかにして発信されるべきなのか、という難問について根源的に考えることが重要であると考えています。その上で、進展する国際化の潮流において、「日本文学」や「日本語学」はどのように深化、拡充できるのかを模索すべきであると思っています。歴史学や美術史学などの隣接領域の成果を踏まえ、教員と学生が協同の場で真摯に学ぶことを願っています。学域での学びを通じて、我々が学生に涵養を期待する能力は以下の通りです。

- ① 日本文学や日本語学、文献学、図書館情報学に関わる専門的かつ広範な知識を獲得し、その概要を理解し、主体的に学ぶ力。
- ② 学習によって得られた知識をいかして、自分自身を取りまく文化、歴史、社会的動向などに関心を抱き、適切な分析ができる力。
- ③ 国際的視野に立って、日本文学や日本語学を幅広く学び、それらを的確に把握する能力。
- ④ 日本文学や日本語学で学んだ知識を創造的な態度でまとめ、主体的かつ正確に表現する力。
- ⑤ 日本文学や日本語学を学んだ方法論を、他の研究領域に援用し、発展させる応用力。

日本史研究学域

当学域は文書史料を主として研究する日本史学専攻と、遺跡・遺物などを主として研究対象とする考古学・文化遺産専攻の2専攻により構成されていますが、ともに歴史学的手法を中心に研究を進めていく点が共通しており、1回生時は歴史学としての日本史について、基本的な理念や手法を幅広く学んでいくことになります。歴史学はけっして過去の事象を学ぶことだけが目標ではありません。そうした研究を通じて、現在の日本社会が抱えるさまざまな構造的矛盾や問題に気づき、それを変えていくための大胆なアイデアを打ち出すことで、未来への展望を切り開く役割も担っています。また「世界」のあり方が歴史的にどう変化していき今があるのか、その中において「日本」はどのような役割を果たしていく必要があるのかなど、国際的視野を形成していくことも求められています。当学域で学んだ学生が、歴史的視点から物事を独自の見方でとらえられるようになること、問題点を長いタイムスパンの中で立体的にとらえ、鋭い解決策を提示していけるようになること、そうした能力を基に社会のさまざまな分野で活躍していくことを期待しています。

東アジア研究学域

東アジア研究学域は、中国文学・思想専攻、東洋史学専攻、現代東アジア言語・文化専攻の三専攻で構成されますが、本学域における教学は、中国・朝鮮・日本の三地域にかつて展開した漢字文化圏の伝統社会・文化の研究と、その基礎の上に地域ごとに独自に発展した中国・朝鮮半島の現代文化の研究を二本柱とし、これらが相互に密接に連携した形で展開されます。すなわち、伝統的な文化と前近代の歴史を研究対象とする中国文学・思想専攻と東洋史学専攻は常に現代東アジアの動向を踏まえ、一方、現代東アジア言語・文化専攻は常に伝統文化と歴史を踏まえた上で、それぞれの専攻教学が展開されるのです。東アジアの過去を見ながら現代を学び、現代を見ながら過去を学ぶ。本学域は、そのような学びを通して、これからのアジアを担ってゆく人材の育成を目指します。

本学域における教学の目標は次の通りです。

- ① かつて中国を中心として東アジア地域に存在した「漢字文化圏」において形成された伝統文化や、現在の東アジア諸地域において展開している現代文化に関する幅広い知識を身につける。
- ② 東アジア地域の人々と交流するための高度な語学力を身につける。
- ③ 東アジアの伝統文化・現代文化に関する豊かな知識や、東アジア諸言語の高度な運用能力を基礎として、この地域に存在するさまざまな問題を解決して東アジア地域の未来を切りひらく力を身につける。

国際文化学域

グローバル化の進む現代においては、世界各地の多種多様な民族や文化が相互に接触・交流しながら影響しあい、一つの運命共同体となりつつあります。このように世界が大きく変化していく中で、人々が他者を尊重しつつ、いかに共生できるかが、現代の人間にとって差し迫った問題となっています。それゆえ、世界の成り立ちを過去から歴史的に理解し、それを踏まえて多種多様な文化と向き合う態度を培うことは、きわめて重要な課題となります。

国際文化学域が展開する教学の最大の特徴は、芸術・文学・歴史・思想などの、人間文化・社会の諸領域に関連する諸学問を横断し、さまざまな時代と地域を視野に入れつつ、多様な価値観のもとに世界を深く理解することを目指す点にあります。そのためには、現代の人文諸科学の方法や成果を学び、自らの感性、歴史的・論理的思考力、表現力を高めると共に、英語を軸として、諸外国語の高度な運用能力を習得する必要があります。本学域では、以上のような専門的かつ先端的な人文学諸領域の学習・研究を通じて、国際的な視野と展望を持った人材を育成します。

地域研究学域

地域研究とは、国内外の様々な地域を研究し、その固有性や特性を総合的に把握することを目指して、地域の多様なあり方を理解しようとする学問領域です。領域横断的・学融合的・学際的な研究を通じて、近代知の限界性・細分化などを超えて総合知としての現代的な学問的知見を発展させることを目的とします。ある特定の地域を舞台に織り成される自然と人間界の動態を複合的にとらえる地域研究は、とりわけグローバル化を深めつつある現代世界において、異文化間の相互理解と共存を推進するために欠くことのできない学問といえます。

地域研究の特徴は、実際にその地域に足を運んで研究を行なうフィールドワークを通して、地域間の協働や相互理解することにあります。地域間の協働は、相手の地域で営まれている諸現象、さらにはそのメカニズムを正確に理解し、自身が居住する地域と比較したり、相手に対して説明したりすることによって生まれるものです。こうした姿勢は、地域間の相互理解にも発展します。机上での調査分析に加え、フィールドに赴いて観察を行なうことで、問題解決のための知識を蓄積し、社会に貢献します。

地域研究学域は、地理学と地域観光学の2専攻で構成されます。それぞれの学問領域の観点からフィールドにアプローチし、地域の特徴ある諸現象を捉えることとなります。空間スケールを自在に変え、多角的な研究視点・手法を交えることで、現代的な諸問題の理解と解決を目指します。そして、立命館大学文学部が掲げる人間や社会が抱える問題の究明・解決と世界の発展に主体的に貢献できる人材育成を目的とします。

国際コミュニケーション学域

国際コミュニケーション学域では、現代社会が持つ根源的な問いに対する答えを模索し、将来の世界を牽引する人材となるための知識や技能を身につけます。英語圏の文化と言語に関する諸科目や、それらと連携した学術英語（EAP、English for academic purposes）科目、短期・長期留学プログラムなどを通して、体系的な四年一貫教育を受けることができます。現在の国際社会において大きな影響力を保持している英語圏の文化に関する豊かな見識と英語に関する知識を身につけ、高い英語運用能力を養うことによって、将来、日英両言語を駆使しつつ広く国内外で活躍できる人材の育成を目指します。

言語コミュニケーション学域

《言語コミュニケーション学域》は、「コミュニケーション表現専攻」と「言語学・日本語教育専攻」の2つの専攻で構成されます。学域名称に掲げる「言語コミュニケーション」とは、皆さんがイメージする狭い意味でのことばのコミュニケーションだけを指すものではありません。英語や日本語などの個別言語に閉じることなく〈ことば〉の普遍的性質を明らかにする方法論としての「言語学」、そしてことばを用いてヒトが他者との共通基盤を生み出し、個々の〈やりとり〉を元に自己と他者との〈かかわり〉を創発し共生社会の実現を可能にしていくことを可能にするための方法論としての「コミュニケーション学」、の2つの基幹教学を貫くキーワードです。こうした観点からこの学域では、「コミュニケーション・音声表現」「言語表現メディア」「言語研究」「日本語教育」「異文化間コミュニケーション」といった、広くことばとコミュニケーションにかかわる多様な分野を学び、各人が関心を持った具体的な研究テーマについて分析や実践を究めることで、研究と実践の双方向的な学びを実現することを目指します。修学を終え、無事に卒業できた頃には、現代社会で生き抜くことのできる真の「コミュニケーション能力」を身につけることができるでしょう。

専攻**哲学・倫理学専攻**

哲学・倫理学専攻は、「人文学を教育研究し、人間や世界のさまざまな文化について、幅広い知識と豊かな表現力を身につけ、人間と社会が抱える問題を究明し解決しようとする人間を育成する」という文学部の人材育成目的を達成するために、以下のような内容と特色をもった教育を展開する。すなわち、「人間」とおとして、存在、価値、美、自己、他者、社会、自然、生死、倫理などの事象とともに探究する。その教育をとおして、学生は、これらの事象をめぐる2600年にわたってなされてきた哲学・倫理学の営み、そして現在進行中の哲学・倫理学の営みのなかから重要な手がかりを見つめるべく、文献を適確に理解し、哲学的・倫理的知見を深めることとなる。その教育内容の中心となるのは西洋哲学であるが、それを学ぶことをとおして、世界のさまざまな文化を理解するとともに、そこに横たわる人類普遍のありようをも理解し、国際化社会に適応できる人材が育成される。人間存在の深みにまで達する理解が可能となるために哲学・倫理学の文献を英語・ドイツ語・フランス語の原典に至るまで読解することができるよう督励すること、そして古典から現代の最新の哲学・倫理学研究にいたるまで幅広く探究心を涵養することが、本専攻の教育の特色である。

教育人間学専攻

「なぜ人間には教育が必要なのか」「こころとはいかなるもので、そのこころを育てるとはということなのか」「健康に生きるとはどのように生きることなのか」。現代教育の危機的状況に取り組むためには、こうした根源的な問いかけから始め、遠い過去から現代に至るまで連綿と続けられた人間探究の成果を辿りなおすと同時に、当今の現実から学ぶ必要がある。本専攻では、以上の問題意識に基づいて、基礎的理論に関わる領域としての「人間形成」、現代的課題もしくは実践的課題に関わる領域としての「臨床教育」、総合的な人間発達に関わる領域としての「心理健康」という緊密に連携した3つの領域から、「教育」と「人間」の総合的な探究を行う。

日本文学専攻

「日本文学専攻」という名称が示す通り、私たちの専攻では、古代から現代に至る主として日本で創作された文学作品について総合的に分析・検討を行い、先人の研究に学びつつ、自分自身の読みを構築し、深い読解に至ることを理念としています。作品を生み出した作家や時代状況、文学的思潮や地理的環境なども視野に入れながら多様な研究を模索します。また、海外で生まれた日本語による文学や、日本語に翻訳された作品、諸外国との関わりや文化的交流なども幅広く研究対象とします。文学作品を学ぶことは、作品の背後に存在する豊かな人間の文化を把握することと同義なのです。日本文学専攻が理想とする学生像は以下の

通りです。

- ① 日本文学・日本文化研究の基礎をなす知識を有し、他の人文学的知識と連携することができる学生。
- ② 日本文学・日本文化研究における専門的な知識を有し、さらにそれを高度化することができる学生。
- ③ 研究対象となる作品や専門的なテキスト・資料・資源を批判的に分析し、読解することができる学生。
- ④ 研究対象となる作品や専門的なテキスト・資料・資源の読解に関連する高度な表現や専門的コミュニケーションができる学生。
- ⑤ 専門的知識をもって、ひろく国際社会に参画しようとする意欲・行動力をもつ学生。
- ⑥ 先行研究や先賢の豊かな成果を学ぶことによって伝統・文化を発展的に継承しようとする責任感をもつ学生。

日本語情報学専攻

日本語情報学専攻は日本語学と図書館情報学という二つの研究領域で構成されており、これらを「情報」というキーワードで融合させた教育・研究を展開させています。

日本語学は、日本語という個別言語を対象とする言語研究の一領域です。日本語は、千数百年以上にわたる長い歴史を持つ言語であり、地域、世代、性別などによる違いがあるなど、多様な姿を見せています。この日本語の変遷、多様な実態を解明するために、「コーパス」(大規模な言葉のデータベース)を活用した日本語研究に取り組み、さらに日本語を相対化して捉える視点の獲得を目指します。

図書館は、人類の知的遺産を保存、継承するとともに、それらの利活用による新しい文化の創造に多大な貢献をしてきました。しかし情報化の進展する現代社会では図書館が担うべき役割も変わりつつあります。これまでの図書館の歴史的展開を理解した上で、高度情報化社会における出版メディアと図書館との関係といった今日的課題を図書館情報学の重要なテーマと位置付け、その課題の解決に取り組んでいます。

ところで、情報化が進んだ現代社会における問題の一つに「情報格差」があります。この問題には、日本語に関連しているもの、日本語学的知見が問題解決に寄与するものもあります。また、図書館がこの問題を是正する役割を担うことが期待されているため、図書館情報学の知見も問題解決に貢献します。日本語情報学専攻では、日本語学、図書館情報学の研究基盤となる情報技術の理解、習得を図るとともに、日本語学と図書館情報学とをつなぐことによって、高度情報化社会が抱える問題を発見し、その解決に取り組むことのできる人材の育成を教育の重要な目標として位置付けています。

日本史学専攻

立命館大学文学部日本史学専攻は、古代から現代にいたるすべての時代に対応して1名以上の教員、また時代をこえた分野を担当する専任教員も配置されるなど、学生の幅広い学びの希望に対応できるプログラム作りがなされています。古くから「立命史学」と呼ばれる歴史と伝統を持ち、学界で活躍する研究者を多数輩出してきた専攻であり、とくに思想史、社会史、文化史などに優れた研究成果を残してきましたが、近年は政治史、経済史などの分野においても新しい学問分野を切り開く研究が展開されています。本専攻では日本史学の研究方法や研究成果について、鋭い批判を加えつつ継承し、さらに新たな方向へ展開させられる有為な人材を育て、日本史学の発展に寄与したいと考えています。そのような教育環境のなかで、単に先行研究の成果をうのみにするのではなく、そのもとになった史料を再解釈し、その根拠を問う能力を身につけることができるようになります。また、短く狭い範囲の知識ではなく、できる限り時代や分野をこえた歴史的知識を身につけることによって、自らの見解を形成し、長期的な視野で思考・判断ができるようになります。それによって、現代の社会が抱える様々な課題について、歴史的経緯を踏まえてその原因を深く分析し、どのような対応を行うことで未来を変えていけるのか、きちんと考えることのできる人材を育て、社会へ送り出していきたいと考えています。そのために様々な専門科目が配置され、また卒業論文作成を通じて、4年間にわたる学問的修養の成果を、1つのオリジナリティーある作品に仕上げていく面白さと困難さを経験していただきます。学生諸君がこうした学びに積極的に取り組んでくれることを本専攻は期待しています。

とくに次の点が日本史学専攻の特色です。

1. 歴史的な視点でさまざまな事象の現在・過去・未来について長期的に考えられる人材を育てます。

こうした視点を持つ人材のニーズは、不透明さが喧伝される今後の日本社会において次第

に高まってくることが予想されます。日本史学専攻の学びを通じて、そうした思考力を養っていきます。

2. 日本史学の専門的知識やその手法を学び、独創的で新たな知見を切り開く研究者を養成します。

大学などの研究機関や博物館・資料館で研究者として活躍するための基礎的素養を身につけていきます。ただしこれら専門職を目指す学生諸君は、卒業後に大学院への進学が不可欠となります。

3. 日本史・社会科教員を養成します。

日本史学専攻における学びを通じて、将来中学社会科、高校地歴などを担当する教員となるための基礎的な教養を身につけます。また教職のプログラム科目を受講、単位取得することにより、教員の資格を取得することができます。本専攻からは多数の教員が輩出されており、OB・OGが全国各地で活躍しています。

考古学・文化遺産専攻

考古学・文化遺産専攻は人類が残した物質的資料を発掘・調査・研究することにより、日本の成り立ちや歴史を明らかにすることを目指しています。文字や言葉が残っていない過去を知り、文字や言葉ではわからない社会の側面を知れば、人間や世界の様々な文化について幅広い知識と豊かな表現力を身につけることができます。また、日本考古学の成果を理解するためには、日本という現在の領域に縛られず、周辺地域や世界に広く目を向け、日本を客観的に理解する必要があります。本専攻では日本考古学を通史的に学ぶだけでなく、東アジアや世界にも目を向けた教育を行っています。考古学が研究対象とする遺跡や遺物は、人類共有の「文化遺産」と呼ばれるものです。考古学の研究は文化遺産なしには成り立ち得ないので、文化遺産の社会的価値を認識し、その価値を社会に広く還元する必要があります。そのためには、文化遺産としての遺跡や遺物を調査する方法を身につけるだけでなく、それを社会に生かすために、人間と社会が抱える問題を究明し解決しようとする態度が求められます。本専攻では遺跡発掘や出土品の整理作業などを含む考古学実習などの授業を通じて、実践的な調査方法や自然科学的研究を学ぶことができます。また、学芸員課程の授業とも関連したカリキュラムの中で、博物館業務をはじめとする文化遺産の活用を必要とする様々な仕事に役立つ実践的な教育を行い、社会に積極的に働きかける人材を育成します。

中国文学・思想専攻

中国では古代から現代に及ぶまで、文学、思想あるいは文化・芸術の領域に興味深い人間の営みが多様に表現されています。人の世のことは、おおそ中国に備わると言えるほどです。伝統をよく理解し、今を見据えてこそ、未来の展望が開けるものです。ここに中国文学や思想を学ぶ大きな意義があります。

本専攻では、中国文学・思想の研究を通じて、中国を中心とした漢字文化圏の文学・思想・文化についての幅広い知識を身につけ、人間考察の力を養います。そして伝統・歴史を理解した上で、人間や社会が抱える様々な問題を究明・解決し、とりわけ東アジア地域の発展に主体的に貢献できる人材を育成することを目的とします。その方法として、「古典」の学習を縦軸として位置づけ、小集団教育においては「古典」を課しています。これは、悠久の歴史をもつ中国文学・思想の性質上、たとえ現代の作品を研究する場合においても、「古典」の学習が必須であるとともに、他国には見られない「漢文学」の良き伝統を活かし、独自の中国文学研究を発展させるためにも甚だ有益であるからです。それはまた、将来、教職などにつく場合は勿論のこと、一般に「日本文学」をはじめわが国の文化全般を考える上においても、中国の「古典」を学習することは最も重要であるからです。

「古典」を読むための基礎知識を習得する科目としては「漢文入門」、発展として「漢文文献読解」があり、「中国文学・思想講読演習」ではさらに正確な読解能力を養います。講義科目としては、「中国文学概論」「中国思想概論」では基礎知識を身につけるとともに、中国文学・思想が連続的に発展し相互に関連しているということを学びます。履修指定の「中国文学史」では文学についてのより深い知識と研究手法、「中国文献学」では研究に必要不可欠となる資料の知識習得を通じ、古代から現代にいたるまでの知識の伝播について学びます。また選択科目として「アジアの文学」「中国の文化」「中国文学・思想研究の展開と課題」があり、より知識を深め、多角的な視点を持ち、自らで問題を探求する力を養います。

本専攻では、(1) 中国の文学・思想を中心とする諸文化領域に対して深い関心と探究心を持つ者、(2) 中国文学・思想を学ぶために必要な文献読解能力を高めることを目指す者、(3) 中国文学・思想専攻の学びを通して、中国の悠久の歴史に育まれた文学や思想などの文化的営為についての広範な知識を習得し、豊かな表現力を身につけて、人間と社会が抱える諸問

題を主体的に探究しようとする意欲を持つ者、を求めます。

東洋史学専攻

東洋史学専攻は、現代アジア社会の歴史的形成過程を、その起源にさかのぼって研究し、総合的に理解することを目指す。西欧文明とは異なる独自の文明を古代から形成してきたアジアの歴史を解明する東洋史学の研究は、現代の東アジアが直面する課題に答える学問領域である。東洋史学は基本的に外国史研究に位置付けられるが、日本がアジアの東端に位置することを鑑みれば、単純に「外国史」とは言えない。特に東アジア世界の歴史の中核をなす中国は、古くから日本と交渉があり、わが国の文化の形成に強い影響を与えた。東洋史学は我々自身の歴史を問う営みでもある。また、東アジア地域は漢字を共通の基礎としつつ、多様な伝統文化を形成してきた。そうした個性的な文化や人々の生き方を学び、理解することで、現代社会に対する柔軟で多面的な視座を手に入れることを目指す。

現代東アジア言語・文化専攻

今世紀の東アジア地域では、ヒトやモノ、資本や技術、あるいは文化や情報が簡捷かつ恒常的に移動し、また、漢字文化圏に象徴される歴史的な共通性も相まって、東アジアという枠組みでの経済・文化圏の必要性が唱えられて久しいです。しかし、一方で、過去の戦争や戦後の構造によって生じた解決困難な問題も数多く存在します。

現代東アジア言語・文化専攻では、こうした東アジアの現状および背景を理解するための幅広い知識と視野を獲得し、東アジアが抱える諸問題を究明・解決し、ひいては世界の発展に主体的に貢献できる人材の育成を目指します。

こうした人材を育成するために、本専攻では、本学部が定める人材育成目的・3つのポリシーに準じて、以下4つの教育内容および目標を設定します。

第1に、概論・講義科目において、東アジア、とりわけ中国（台湾・香港および澳門などを含む）および朝鮮半島の言語・文化・歴史に関する広汎な知識およびその研究の方法論を身につける。

第2に、「基礎講読」や「現代中国研究」・「現代韓国研究」あるいは「現代東アジア言語・文化講読演習」の演習形式の授業では、中国語および朝鮮語の実践的かつ高度な運用能力を練成し、同時に、さまざまなテキストの講読を通して、東アジアの現代・過去に対する多面的かつ多様な関心を持ち、現代東アジアに対する自身の見解を自問しつつ発展させる。

第3に、「中国イニシエーション実習」・「韓国イニシエーション実習」・「東アジア現地実習（中国／韓国）」の実習科目にて、中国・韓国での現地調査を実践的に学び、その中で東アジアにおける諸問題を自らの目で認識し、＜現地＞の人々との対話を通じて問題を解決しようとする意欲と態度を涵養する。

第4として、以上3つの学びを集成すべく、「専門演習」にて、東アジアにおける自身の関心をさらに深めつつ、あわせて中国語や朝鮮語を駆使した現地調査や資（史）料調査を実践し、現代東アジアに対する自身の視座や見解を深く探求し、「卒業論文」にてそれを表現する。

本専攻における学びは、東アジアにおける＜今＞を、＜現地＞社会の生きた文化や伝統、習慣に即して、＜現地＞の言語を積極的に活用しながら思考することに力を置きます。換言すれば、それはつねに東アジアを瞩目することです。現代東アジアの社会や文化において、その考察対象およびその方法論は多岐にわたりますが、本専攻の特徴は、いかなる考察対象であれ、いかなる方法論であれ、絶えず意識の先に広い視野から東アジアの＜今＞を理解しようとする態度を持ち、そして、さまざまな文化現象から東アジアにおける文化の共通性を考察しつつ、その価値を創造しながら、現存する諸問題についても平和的に解決することを考え続けることにあります。そうした学びの先には、世界の発展にも主体的に貢献できる人材の輩出を実現できると確信しています。

英米文学専攻

英米文学専攻では、中世から21世紀の今日に至る、イギリスやアメリカに限定されない英語圏の詩・演劇・小説・散文作品を広く扱います。広範な英語文学作品の研究を通して、英語という言語の奥深さに触れ、その表現の可能性、作品世界を構築する文化的・歴史的・政治的背景、文学テキストの特性について理解を深めます。また、言語に対する感性を磨き、多様な視点や価値観を涵養するとともに、様々な時代や地域の違いを超えた人間の普遍性にも触れることを学びの基本理念としています。それは、英語リテラシーを基盤としつつ、多

彩な知識を自在に関連させ、自ら問題を見出して考察し、見解を言語化する総合的な人文学的叡智を獲得することを意味します。

「グローバル言語」としての英語の位置づけが決定的な今日、英語に対する需要はますます高まっています。しかし、外部からの要請に促されるまま性急に外国語スキルを習得しようとする姿勢は、英語優位を無批判に受け入れ、自らの主体性を放棄する状況を生み出しかねません。英米文学専攻では段階的にじっくりと文学テキストと向き合います。「基礎講読」「英書講読」といった講読科目や多様なテーマを扱う「英米文学特殊講義」では、個々の作品世界の特性や文化的背景について具体的に学びます。また、「英作文法」「英文演習」「英会話」「翻訳演習」「文芸翻訳演習」といった科目では、英語を「読む・書く・聞く・話す」運用能力を総合的に伸ばします。そして、「英米文学概論」「英文学史」「米文学史」の講義科目では、英語文学の豊かな伝統とその多様な側面に関する理解を深めます。このようなカリキュラムで培った広い視野と多面的な関心をもとに、「専門演習」では、他者の考えを正しく理解した上で、緻密な分析と深い学識に基づいて自らの考えを言語化する、高度な言語表現能力と論理的思考力の育成を目指します。

あまたの可能な読みの中から自らの読みを構築し、今度はそれを自らの言葉で肉付けしていく一文学研究の創造的な営為を通じて身につける高度なリテラシーは、人文学研究や英語教育分野のみならず、国際社会の様々な分野において、主体的に世界と向き合い、自らのキャリアを形成する支えとなることでしょう。

ヨーロッパ・イスラーム史専攻

ヨーロッパ・イスラーム史学では、時代と地域においても、またテーマにおいても、きわめて多様な範囲を扱っています。しかし、「なぜ学ぶか」という点では、次の二つのことが共通の目標となります。第一に、現代世界が歴史的にいかにして形成されたのかを、幅広い視野から理解すること。第二に、「過去」の時代を異なった社会・文化として認識し、それを「現在」の我々の社会・文化と対比することによって、人間の多様な在り方や可能性を知ること。この二つの視点から歴史を学ぶことによって、自らの思考と感性を磨き、現代社会に生きるための力を培っていくことが重要な目標です。とくにヨーロッパとイスラームの二つの文明・文化圏は長い歴史を有するだけでなく、交流と対立の歴史をくり返してきました。日本社会にとって「他者」であったこれらの文明・文化圏の歴史を理解することは、グローバル化が進む世界で生きていくために今後ますます必要不可欠となるでしょう。

以上の大きな目標に向かい、それぞれの問題意識から特定の時代、領域のテーマを見出し、そこから可能なかぎり全体を見渡せるような歴史的視野を広げていくことが大切です。専門としての歴史研究は、あくまで現代社会に生きるための広い視野を身につけ、変化に対応する鋭敏な感性を養い、異なった社会・時代への豊かな想像力を培うためにこそ、役立てなければなりません。

そのためには、以下に述べる専攻科目以外に、自分の関心や研究テーマにとって役立つ他専攻・他学域の科目も有機的に結びつけて学習していくことが必要です。

また、「ヨーロッパ・イスラーム」という異文化社会の歴史を学ぶ以上、「話す・聞く・読む」語学力を身に付けることが求められます。特に、外国語文献を読みこなす力は、現代社会のあらゆる分野・テーマにおいても十分な調査・研究を行うために必要不可欠です。外書講読などの授業に積極的に取り組み、慣れ親しむことで、これからの歴史研究の視野を広げていくことができます。

文化芸術専攻

20世紀は人類世界に大きな変化をもたらしました。かつて夢一杯に語られていた21世紀も、いまや先行きの見えない不安にみちた揺れ動く世界になってしまいました。このような状況下で、既成の価値観や生き方に疑問が投げかけられるのは必然といえるでしょう。大学における学問のあり方の問い直しも、そうしたラディカルな問題のひとつです。私たち文化芸術専攻は、すさまじい速度で流動し変化をとげていく世界がかかえる様々な問題に、これまでの学問の枠組みを超えて応えようとする領域です。そのため、「学際的」な立場からものごとアプローチすることを目的としています。すなわち、さまざまな言語で綴られた物語・宗教信仰・ファッション・暴力といった人間の営み自体や、そこで用いられる象徴・音楽・絵画・建築・マンガといった芸術による表象など、多様な文化の交渉や変容のあり方に対して、文化人類学、芸術学、社会学、歴史学、言語学、文学といった学問の中から、ある特定の専門分野を出発点におきながら、それとは別の分野の知見を取り入れ、より広く多様な視点からものごとを横断的にとらえ考察していこうという研究方法を重視します。そのようなアプローチを自らのものとするのは容易ではないかもしれませんが、しかし、自分が世界に

向きあうために必要な「ユニークな批判的経験」や、従来の学問分野からは生まれてこなかった「新しい発見」といった、かけがえのない成果は、こうした取り組みの先に出会うことができるはずです。

地理学専攻

地理学は、地表面の様々な自然現象・人文現象の状態およびそれらの相互関係を複合的な総合的な視点から考察する学問で、自然事象、人文事象、さらには特定地域の地域性など、いずれの解明に重点をおくかによって自然地理学、人文地理学、地誌学に大きく分けることができます。

地理学は、古くから、地球上の様々な地域や場所についての情報を多様な視点から総合的に収集、整理、記述、分析、解釈、表現して、社会に伝えてきました。そのようにして得られた知見を、環境保全、防災・減災、地域の持続可能な開発、社会的公正などに役立てることが地理学の目的です。

地理学に固有の視点の一つは、地表空間上における諸現象の多様性への関心であり、それが生じる理由を明らかにします。また、多面的な時空間スケールで様々な地域事象を把握し、地域的多様性の生じる原因を説明していく中で、地理学は人類社会と地表空間の関わり合いの解明を追究します。そのために地理学が伝統的に重視してきたアプローチには、フィールドワークに基づく現場主義のアプローチと、地表空間上の諸事象を地図化するアプローチとがあり、今日では地理情報システム（GIS）が活用されています。

情報社会に対応して GIS などを用いた情報整理や情報処理・分析の能力、そうした情報をよりの確に伝えるプレゼンテーション能力など、地理学を活かす多彩な実践的教養・技能の獲得を目指してもらいます。そして、立命館大学文学部が掲げる人間や社会が抱える問題の究明・解決と世界の発展に主体的に貢献できる人材育成を目的とします。

地域観光学専攻

産業革命以降の近代化とともに発展してきた観光関連の産業は、いまや世界最大の産業ともいわれており、年間 10 数億人の観光者が世界中を移動しています。このような世界規模での観光者の移動と拡大は、日本を含んだ先進国の農山村地域の再活性化のみならず、低開発国の貧困削減・国家発展などに大きな影響をあたえています。

「家を一時的に離れ、何か非日常的な刺激（喜び・楽しみなど）を得て、再び家に戻る行為」と定義される観光活動は、個人の福祉や健康の増大に貢献しています。しかし一方で、観光施設の建設にともなう自然環境の破壊、観光関連産業と地元住民との間での摩擦、観光者をターゲットにしたテロリズム発生の可能性など、様々な問題を発生させているのも事実です。

そこで地域観光学専攻では、人々が生活する集落のみならず、都市、さらには国家など様々な尺度から「地域」という空間的広がりをとらえ、地域社会に対して経済・社会文化・自然環境面において大きな影響力をあたえている観光現象について、おもに地理学的アプローチを中心に多面的な学問分野から考察を加えていきます。最終的には観光がもたらす様々な影響を浮き彫りにしたうえで、観光者およびそれを受け入れる地域住民、またこれら二つを結びつける観光関連産業の従事者すべてにとって有益な観光活動のあり方を模索することを地域観光学専攻は学びの最大の目標とします。そして、立命館大学文学部が掲げる人間や社会が抱える問題の究明・解決と世界の発展に主体的に貢献できる人材育成を目的とします。

英語圏文化専攻

英語圏文化専攻では、北米、ブリテン島および周辺地域、オセアニア地域といった英語圏の国々の文化と社会について学び、研究します。英語圏地域はグローバル化推進の重要な拠点の一つとして機能するなど、政治や経済において重要な役割を果たし、こうした地域の国々の文化は現代の国際社会に大きな影響を及ぼしています。英語圏地域の動きは世界の動きと極めて密接な関係があるのです。英語圏の文化や社会への深い理解は、英語によるコミュニケーションの充実をはかる上でも、国際社会が直面する諸問題を考えるためにも、今後ますます重要になります。本専攻では、英語圏地域を〈大西洋世界と黒人文化〉〈太平洋世界〉〈ブリテン諸島周辺と文化関連地域〉に分け、文化と歴史を通して深く学んでいきます。特定の研究領域にこだわらずに幅広い視野に立った学びを行います。また、学術英語（EAP）科目や英語で提供される専門科目の受講、留学プログラムへの参加により、英語の運用能力を高めます。卒業後は、英語圏に関する豊かな知見と英語力を駆使し、国内外で広く活躍できる人材として社会に貢献することをめざします。

国際英語専攻

国際英語専攻では、母国語や公用語としての英語・異なる母語や文化的背景を持つ人々が交流する国際的な場面で共通語として用いられる英語（国際英語 / Englishes）に焦点を当て、グローバル化社会における様々な英語使用現象を、応用言語学の最新の知見等を基盤にして考察します。さらに、英語によるコミュニケーション能力を基礎として、論理的思考力、情報収集能力、批判的分析能力を含んだ英語リテラシーを身につけます。英語使用者の多様性と言語および文化に関する知識を活用する国際対話能力を高め、それを実社会で応用できる人材になることを目指します。また、本専攻では、最新の応用言語学理論を用いた英語教育の研究を行い、かつ学校英語教育に必要な実用的な知識と技術を身につけることができます。中学校・高等学校などの教員志望者は、このような専門性を生かしてグローバル化時代の英語教育を牽引する教員になることを目指します。さらに、本専攻では学術英語（EAP）科目や英語で提供される専門科目の受講、留学プログラムへの参加により、高い英語運用能力を身につけます。卒業後は、社会において言語が関係する諸問題の解決に寄与できる人材を目指します。

コミュニケーション表現専攻

「コミュニケーション表現専攻」は、人文学に根ざしつつ、学際的な「コミュニケーション学」を基盤として、コミュニケーションと言語表現メディアの研究と実践を学ぶことのできる専攻です。

現代社会はグローバル化の進展とともに、多くの人々とのかかわりが増大し、そのなかで自身の考えや気持ちを効果的に伝えていく「コミュニケーション能力」が強く求められています。そうした背景から、本専攻では、日常的なコミュニケーション場面の分析から組織コミュニケーションや医療コミュニケーション等を包含する専門職コミュニケーションの実践的応用へとつなげる《コミュニケーション研究・実践》、そして、書き手／話し手から読み手／聞き手への情報伝達とその効果に焦点を当てた、ことばのメディアとしての文章表現や音声表現等の分析と実践を学ぶ《言語表現メディア研究・実践》、の二つを教学の柱としています。いずれも学術的な視点と方法論、及び専門的な技能の習得によって、大学という「学び」の場から「実践」の場としての社会へのつながりを体得することを目的としています。

具体的には、《コミュニケーション研究・実践》で対象とするのは、日常的な会話場面における音声・ジェスチャー・視線などさまざまな表現モダリティが織りなす相互行為の有様であり、さらにはプレゼンテーション・面接・接客・診療・演劇・スポーツなど、さまざまな制度的状況に制約されたコミュニケーションの様態とその構造です。こうした、人々が無意識的に行うコミュニケーションの営みをつぶさに観察し分析することを通じて、自己と他者との関係性の再発見と深化を促すこと。これこそが、単なる意思疎通能力としてのコミュニケーションスキルを超えた、実社会で活躍することを可能にする次世代型コミュニケーション能力の獲得につながるものです。

一方、文章創作も含めて言語や図像を用いて発信するという行為は、作り手と受け手の背景にある「人と人とのつながり」を意識しながら、作り手個人の人間観・社会観・芸術観・技術などをそこに合流させていく試みです。《言語表現メディア研究・実践》は、コミュニケーション学を傍らに、発信者と受信者とのつながりや相互作用を意識して文章創作やメディア表現研究を行うことで、コミュニケーション学を軸とした新しい表現実践・表現学の可能性を探るものであり、文章・音声・図像などさまざまな表現メディアの違いとその効果を意識した研究と実践を深めるものです。

言語学・日本語教育専攻

「言語学・日本語教育専攻」は、ことばを客観的に見つめるための様々なレベルの視点を学ぶことで、学術的な言語研究から言語教育の実践までを深めていく専攻です。

皆さんにとって、学問としての「言語学」はあまり馴染みのないものであり、大学で初めて触れる人が多いことでしょう。その結果、しばしば英語やフランス語などのいわゆる「語学」と混同されやすいのですが、実際の言語学の射程はそうした個別言語に閉じることなく、文法・意味・用法といった〈ことば〉の普遍的性質の解明に及ぶものです。言語学には、いわゆる文法を学ぶ「統語論」、語や文の意味がどうやって成立するかを学ぶ「意味論」、そしてことばが実際のコミュニケーションの中でどのように用いられ理解されるかを学ぶ「語用論」という3つの主要な分野があります。本専攻では、これらはもちろんのこと、日本語と他の言語を比較することで日本語の特色を学ぶ「対照言語学」、母語の獲得から第二言語の習得がいかになされるかを学ぶ「応用言語学」までを射程とした教学を行います。こうした多岐にわたる「言語学」という学問を基幹教学として据えることで、ことばを用いたコミュニケ

ーションとしての言語活動を学術的な観点で深めていく《言語研究》、そして日本語学習者としての外国人への言語教育であると同時に異文化間コミュニケーション実践としての意味合いを持つ《日本語教育・異文化間コミュニケーション》、のそれぞれを深めていく教学構成になっています。

ことばの持つ複雑な機能や構造を知ること、人々の考えや気持ちはことばでどのように表現されているのか、さらには異なる言語文化を持つ他者とのコミュニケーションはどのように行われているのか、などを明らかにすることが言語を研究する大きな意義であり、本専攻における《言語研究》の学習目標になります。

一方、こうした言語学に裏打ちされた教育実践としての《日本語教育・異文化間コミュニケーション》では、日本語を母語としない外国人学習者に対し、母語話者としての直観ではなく多言語との違いや共通点といった客観的な知見・視点から日本語を解説するという教育・実践能力を養成することを可能とします。それは、単に職業的な教員養成に留まらず、異なる言語・文化背景を持つ者同士を結びつける実践者としての「異文化間コミュニケーション能力」を涵養することにより、真の意味でのグローバル人材を輩出することを目指すものです。

このように、本専攻で言語学と日本語教育を並立的に学んでいくことで、言語と教育を有機的に結びつけることが可能となり、言語と社会、言語とアイデンティティといった多文化共生社会に必要な観点を身につけることになります。また、相手の国籍や使用言語を問わず、自身とは異なる価値観、習慣、コミュニケーションスタイルを乗り越え協働するという経験は、「異質な集団で交流する力」や「チームで働く力」といった次世代コミュニケーション能力を自分のものとすることができるでしょう。

【文学部における学びの流れ】

※下記以外にも様々な学びがありますので、

	1 回 生	2 回 生
教養科目	できるだけ1・2回生の間に履修することが望ましい	
基礎科目	リテラシー入門 ライティング入門 情報処理入門	人文学のための 情報処理Ⅰ 人文学のための 情報処理Ⅱ
外国語科目	第1外国語科目 第2外国語科目	第1外国語科目 第1外国語科目
専門科目	研究入門Ⅰ・Ⅱ 〈1回生小集団科目〉	基礎講読Ⅰ・Ⅱ 〈2回生小集団科目〉
	学域別入門講義	所属する学域・専攻の概論はできるだけ1・2回生の間に履修することが望ましい
		さまざまな学域・専攻の科目や人文学
希望者履修科目		全学副専攻 留学・APU 交流学生プログラム・大学コンソーシアム 教職・学芸員・図書館司書

各募集要項で確認してみてください。

3 回 生	4 回 生
専門演習Ⅰ・Ⅱ 〈3回生小集団科目〉	専門演習Ⅲ・Ⅳ 〈4回生以上小集団科目〉
	卒 業 論 文
共通科目の科目から選んで履修する	
クロスメジャー	
などの他大学での学修	
等の資格課程	

Ⅱ．文学部の履修

- 1．文学部での学位取得（卒業）
- 2．文学部での履修（卒業するための要件）
- 3．受講登録上限単位数
- 4．卒業見込証明書の発行基準
- 5．科目ナンバリング
- 6．基礎科目
- 7．教養科目
- 8．外国語科目
- 9．専門科目
- 10．2回生以降に所属する専攻選択

Ⅱ - 1. 文学部での学位取得（卒業）

文学部のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに従って卒業に必要な条件を満たすと、学士の学位を取得する（卒業する）ことができます。文学部で取得できる学位は、以下の通りです。

学士（文学）

Ⅱ - 2. 文学部での履修（卒業するための要件）

卒業するための要件 （卒業要件）

（1）卒業するための要件（卒業要件）

学士（文学）の学位を得る（卒業する）ためには、4年以上在学した上で、卒業に必要な単位を修得しなければなりません。

（2）卒業に必要な単位数・科目

①総単位数

総単位数として124単位以上を修得する必要があります。

②科目分野ごとの単位数

基礎科目、教養科目、外国語科目、専門科目の各科目分野で定められた単位数を修得する必要があります。単位数の詳細は下表を参照してください。

※外国語科目については通常学生と外国人留学生で履修方法が一部異なります。詳しくは下記（3）を確認してください。外国人留学生とは、大学教育を受ける目的で入国し、外国人留学生入試または海外推薦入試をもって本学に入学した外国人で、正規課程に在籍する学生のことです。

科目分野		卒業に必要な単位数	
		科目分野ごとの単位数	総単位数
基礎科目		24 単位以上	124 単位以上
教養科目			
外国語科目		14 単位以上	
うち、右記の 単位は必修	第 1 外国語	8 単位	
	第 2 外国語	6 単位	
専門科目		70 単位以上	
うち、右記の 単位は必修 ※	自専攻科目	10 単位以上	
	専門演習Ⅲ・Ⅳ	4 単位	
	卒業論文	4 単位	
発展科目		—	

※専攻によっては、上記に記載されていない必修の専門科目があります。詳しくは、「Ⅱ-9. 専門科目」を確認してください。

（3）各科目分野の詳細

基礎科目	詳細は「Ⅱ-6. 基礎科目」を参照してください。
教養科目	詳細は「Ⅱ-7. 教養科目」を参照してください。
外国語科目	外国語科目については、通常学生と外国人留学生で履修方法が異なります。詳細は「Ⅱ-8. 外国語科目」を参照してください。 【通常学生の場合】 ・第1外国語8単位・第2外国語6単位をそれぞれ必修としています。 ・第1外国語、第2外国語は入学前に選択した言語を履修します。入学後の変更はできません。 【外国人留学生の場合】 ・第1外国語8単位・第2外国語6単位をそれぞれ必修としています。 ・第1外国語は必ず日本語を履修します。修得した日本語の単位は、最大10単位を上限に卒業に必要な単位として算入することができます。 ・第2外国語は入学前に選択したものを履修します。入学後の変更はできません。

専門科目	専門科目のうち、自専攻科目の単位を 10 単位以上修得する必要があります（学域科目および小集団科目は除く。各専攻で定められた必修科目の修得単位数を含む）。自専攻科目は、「Ⅱ -9. 専門科目」に掲載されている「専門科目一覧」を参照してください。 各専攻の自専攻科目を含む文学部の専門科目は「Ⅱ -9. 専門科目」を参照してください。
発展科目	以下の科目を選択履修することができます。 1) 全学副専攻科目「外国語コミュニケーションコース」(2 回生以上・許可者のみ受講可) ・コース科目を 16 単位以上修得した場合に限り、20 単位を上限に卒業に必要な単位として、発展科目区分の単位に算入します。 ・詳細は「Ⅳ -3. 全学副専攻」を参照してください。 2) 教職発展科目 (3 回生以上のみ受講可) ・20 単位を上限に発展科目区分の単位に算入します。 ・詳細は「Ⅴ -1. 教職課程について」を参照してください。 3) 他学部受講科目 (3 回生以上のみ受講可) ・20 単位を上限に発展科目区分の単位に算入します。 ・詳細は「Ⅳ -4. 他学部受講」を参照してください。

Ⅱ - 3. 受講登録上限単位数

受講登録上限単位数

1 学期間の登録上限単位数

1 学期間に履修科目として登録することができる上限単位数は、以下のとおりです。
なお、入学後、最初の学期は第 1 学期であり、その後在学期間ごとに次の学期へ進行します。
自身の現在の学期は、CAMPUS WEB の履修状況確認画面に記載されている「現セメスター(現学期)」でも確認可能です。

1 回生		2 回生		3 回生		4 回生		5 回生以上
第 1 学期	第 2 学期	第 3 学期	第 4 学期	第 5 学期	第 6 学期	第 7 学期	第 8 学期	第 9 学期以降
22	22	22	22	22	22	24	24	24

登録上限外科目

登録上限単位数に含まれない科目の詳細については「履修・登録の手引き」を確認してください。

通年科目（春学期～秋学期を通して行われる科目）の取り扱い

通年科目を受講登録した場合、春学期と秋学期において 1/2 分の単位数をカウントします。
(例) 通年 4 単位科目を受講登録した場合、春学期に 2 単位、秋学期に 2 単位分をカウントします。

夏集中科目の取り扱い

夏集中Ⅰ～Ⅳの期間に開講される授業を受講登録した場合、春学期の単位としてカウントします。

上限単位数の緩和を行う場合（特例扱い）

学籍異動を伴う本学の留学プログラムに参加した者に限り、上限単位数を以下のとおり緩和します。

上限単位数：30 単位

特例扱いを行う時期：派遣終了後の翌学期

※学部共同学位プログラム (DUDP) 参加者は、派遣終了後の翌学期に加えて、派遣前の学期においても上記特例を適用します。

※ UBC プログラム参加者は、上記特例の対象外です。

※ APU 国内交流プログラム参加者は、上記特例の対象外です。

Ⅱ - 4. 卒業見込証明書の発行基準

卒業見込証明書発行基準

「卒業見込証明書」とは卒業見込日が記載された証明書であり、就職試験や大学院入試等で受験先から提出を求められます。

「卒業見込証明書」は証明書を発行する時点において以下①～③の基準全てを満たしている場合に、学内の証明書自動発行機およびコンビニエンスストアのマルチプリント機で発行できます。詳細については、大学ホームページ（大学ホームページトップ＞在学生の方＞証明書、証紙、学割証、通学定期券購入について）で確認してください。

※下記は「卒業見込証明書」を発行するための基準であり、この基準を満たした場合でも、卒業に必要な単位数・科目が修得できていない可能性があります。卒業に必要な単位数および科目については、「Ⅱ - 2. 文学部での履修（卒業するための要件）」を確認してください。

【発行基準】

①第7学期（7セメスター）以降であること。

※「履修状況確認」に表示されている「現セメスター」が、7セメスター以降であること。

※（「履修状況確認」画面は、manaba+R から CAMPUS WEB へログインの上確認のこと）

②「在学」中または「留学」中であること（休学中は発行できません）。

③以下の時期において、「修得済単位数」が下表の基準を満たしていること。

※第8学期（8セメスター）以降の場合は、修得単位数に応じて、証明書に記載される卒業見込日が異なります（卒業見込日を選択することはできません）。

証明書発行請求を行う時期	前学期末時点の修得単位数	証明書に記載される卒業日（下記参照）
第7学期（7セメスター） 学期開始日（*）～学期終了日	75 単位以下	（証明書発行不可）
	76 単位以上	翌学期卒業日
第8学期以降（8セメスター以降） 各学期開始日（*）～学期終了日	75 単位以下	（証明書発行不可）
	76 単位以上 99 単位以下	翌学期卒業日
	100 単位以上	当学期卒業日

*システムメンテナンスのため、学期開始数日後から証明書の発行が可能になります。

【卒業日 春学期：秋分の日／秋学期：3月20日】

Ⅱ - 5. 科目ナンバリング

科目ナンバリング

科目ナンバリングは、授業科目に当該科目のカリキュラム上の位置づけに対応する番号を付すことで、学生が科目の系統履修および卒業要件充足の自己管理を容易にするためのものです。番号を付した科目一覧は manaba+R に掲載しています。

科目ナンバリングの基本フォーマット

L	T	X	X	X	1	0	1	J
学部・横断科目		科目区分			配当 回生	分類番号		使用言語
①		②			③	④		⑤

① 2桁のアルファベットで学部・研究科・全学横断科目の区分を表しています。

【学部・研究科・全学横断科目の区分コード】

学部横断科目：LT、教養科目：GE、教職科目：TT、全学副専攻科目：SM

② 3桁のアルファベットで科目区分を表しています。

【科目区分コード】

科目区分		該当科目等
1 桁目	2・3 桁目	
基礎教養 (L)	基礎科目 (ID)	リテラシー入門、ライティング入門、情報処理入門、人文学のための情報処理Ⅰ / Ⅱ
	教養科目立命館科目群 (RA)	
	教養科目 A 群 (AA ～ AG)	詳細は manaba+R を参照
	教養科目 B 群 (BA ～ BC)	
	教養科目 C 群 (CA ～ CC)	
	教養科目 D 群 (DA ～ DB)	
	教養科目 E 群 (EA)	

科目ナンバリングの
基本フォーマット
(続き)

科目区分		該当科目等
1 桁目	2・3 桁目	
専門科目 (S)	人文学共通科目 (CC)	人文学共通科目 (クロスメジャー科目を除く)
	京都学クロスメジャー (KC)	京都学クロスメジャー科目
	デジタル人文学クロスメジャー (DC)	デジタル人文学クロスメジャー科目
	小集団科目 (SC)	研究入門Ⅰ／Ⅱ、基礎講読Ⅰ／Ⅱ、専門演習Ⅰ～Ⅳ
	卒業論文 (GT)	
	人間研究学域科目・学域共通専攻科目 (AP)	人間研究入門講義
	日本文学研究学域科目・学域共通専攻科目 (BP)	日本文学研究入門講義、日本文献学入門
	日本史研究学域科目・学域共通専攻科目 (CP)	日本史研究入門講義
	東アジア研究学域科目・学域共通専攻科目 (DP)	東アジア研究入門講義、東洋学のための言語入門、東アジアを知るための読解と表現、東アジア現地実習 (中国／韓国)、中国／韓国イニシエーション実習、東洋学のための情報処理
	国際文化学域科目・学域共通専攻科目 (EP)	国際文化入門講義、イスラーム学入門
	地域研究学域科目・学域共通専攻科目 (FP)	地域研究入門講義、地域調査入門、地誌 (世界)、地誌 (日本)、リモートセンシング学、GIS 理論および実習Ⅰ・Ⅱ
	国際コミュニケーション学域科目・学域共通専攻科目 (GP)	国際コミュニケーション入門講義、運用のための文法活用、国際コミュニケーション実習、Academic PresentationⅠ／Ⅱ、Academic Reading & DiscussionⅠ／Ⅱ、Academic WritingⅠ／Ⅱ、Thesis Writing
	言語コミュニケーション学域科目・学域共通専攻科目 (HP)	言語コミュニケーション入門講義、共生コミュニケーション演習
	哲学・倫理学専攻科目 (AM)	各専攻の専門科目
	教育人間学専攻科目 (BM)	
	日本文学専攻科目 (CM)	
	日本語情報学専攻科目 (DM)	
	日本史学専攻科目 (EM)	
	考古学・文化遺産専攻科目 (FM)	
	中国文学・思想専攻科目 (GM)	
	東洋史学専攻科目 (HM)	
	現代東アジア言語・文化専攻科目 (IM)	
	英米文学専攻科目 (JM)	
	ヨーロッパ・イスラーム史専攻科目 (KM)	
	文化芸術専攻科目 (LM)	
	地理学専攻科目 (MM)	
	地域観光学専攻科目 (NM)	
	英語圏文化専攻科目 (OM)	
	国際英語専攻科目 (PM)	
	コミュニケーション表現専攻科目 (QM)	
	言語学・日本語教育専攻科目 (RM)	
外国語 (F)	英語 (EN)	英語Ⅰ～Ⅷ
	英語単位回復 (RE)	英語単位回復科目
	ドイツ語 (GE)	ドイツ語・基礎、ドイツ語・表現Ⅰ／Ⅱ、ドイツ語・展開、ドイツ語・応用Ⅰ／Ⅱ
	ドイツ語既修者 (GA)	既修者プログラム科目

科目ナンバリングの
基本フォーマット
(続き)

科目区分		該当科目等
1桁目	2・3桁目	
外国語 (F)	フランス語 (FR)	フランス語・基礎、フランス語・表現Ⅰ / Ⅱ、 フランス語・展開、フランス語・応用Ⅰ / Ⅱ
	フランス語既修者 (FA)	既修者プログラム科目
	中国語 (CH)	中国語・基礎、中国語・表現Ⅰ / Ⅱ、 中国語・展開、中国語・応用Ⅰ / Ⅱ
	中国語既修者 (CA)	既修者プログラム科目
	スペイン語 (SP)	スペイン語・基礎、スペイン語・表現Ⅰ / Ⅱ、 スペイン語・展開、スペイン語・応用Ⅰ / Ⅱ
	スペイン語既修者 (SA)	既修者プログラム科目
	朝鮮語 (KO)	朝鮮語・基礎、朝鮮語・表現Ⅰ / Ⅱ、 朝鮮語・展開、朝鮮語・応用Ⅰ / Ⅱ
	朝鮮語既修者 (KA)	既修者プログラム科目
	イタリア語 (IT)	イタリア語・基礎、イタリア語・表現Ⅰ / Ⅱ、 イタリア語・展開、イタリア語・応用Ⅰ / Ⅱ
	初修語単位回復 (RF)	基本〇〇語Ⅰ / Ⅱ
	日本語 (JP)	日本語科目
資格 (Q)	学芸員 (CU)	学芸員課程科目
	図書館司書課程 (LI)	図書館司書課程科目
	学校図書館司書 (SL)	学校図書館司書課程科目
教職 (T)	教育の基礎的理解に関する科目等 (AR)	詳細は manaba + R を参照
	教育の基礎的理解に関する科目等 (AE)	
	各教科の指導法 (BE・BR)	
	大学が独自に設定する科目 (CE・CR)	
	教育の基礎的理解に関する科目等 (中学) / 大学が独自に設定する科目 (高校) (DD・DE)	
	各教科の指導法 (中学) / 大学が独自に 設定する科目 (高校) (EE)	
全学副専攻 (Z)	ドイツ語 (GE)	詳細は manaba + R を参照
	フランス語 (FR)	
	中国語 (CH)	
	スペイン語 (SP)	
	朝鮮語 (KO)	

- ③ 1桁の数字で配当回生を表しています。

【配当回生コード】

0	大学導入相当
1	学部1年次相当
2	学部2年次相当
3	学部3年次相当
4	学部4年次相当

- ④ 整理番号として2桁の数字で分類番号を表しています。ただし、科目区分の1桁目が「S」の科目（専門科目）のうち学域科目・学域共通専攻科目については、2桁の数字で自専攻科目（自専攻科目のうち、卒業までに10単位以上修得が必要な科目）であるかを表しています。

【自専攻科目】

01～09	自専攻科目に含まれない学域科目・学域共通専攻科目
10～99	自専攻科目に含まれる学域科目・学域共通専攻科目

- ⑤ 1桁のアルファベットで使用言語を表しています。

【使用言語コード】

J	日本語開講
E	英語開講
O	英語以外の外国語開講
B	複数言語での開講（クラスによって開講言語が異なる場合）
M	複数言語での開講（1授業内で複数言語を併用して授業を行う場合）

Ⅱ - 6. 基礎科目

基礎科目は、大学で学んでいくための基礎となる、アカデミックリテラシーを習得するために設定された科目です。「リテラシー」とはもとも、文字を読み書きする能力のことでしたが、今ではさまざまな情報を理解して、コミュニケーションに役立てる能力を幅広く指す言葉として、使われています。そのため基礎科目としては、「リテラシー」本来の意味に近い文章を読み、構想し、書く能力だけではなく、PCやインターネットなどを活用して情報を処理・獲得する能力をも身につけるための授業を展開しています。

科 目 名	単 位	配当回生	備 考
リテラシー入門	2	1 回生のみ	履修指定科目
ライティング入門	2	1 回生以上	
情報処理入門	2	1 回生以上	
人文学のための情報処理Ⅰ・Ⅱ	各 2	2 回生以上	

(1) リテラシー入門

「リテラシー入門」は文学部の1回生対象の科目で、全員が受講する履修指定科目です。授業は「日本語リテラシー」・「情報リテラシー」・「キャリアリテラシー」・「スチューデントリテラシー」の4要素から成り立っています。リテラシーとはもとも文字を読み書きする能力のことでしたが、今では様々な情報を理解して、自分と周りの人（社会）とのコミュニケーションに役立てる能力を幅広く指す言葉として使われるようになったものです。

「日本語リテラシー」はライティングスキルを涵養するためのもので、大学生としての日本語ライティング（作文）能力を身につけます。批判的視点を養う、自分の視点を客観的な証拠に基づいて立証する、論理的に文章を構成するスキルを学んだ上で、アカデミックな文章（論文）を書く力を養うことを目指します。

「情報リテラシー」はインフォメーションスキルを身につけるためのもので、立命館大学で必要不可欠なメールシステム、学習支援システム manaba+R、CAMPUS WEB などの情報環境を理解し、文学部生としてふさわしい口頭報告やレポート・論文を仕上げるための Microsoft Word、Excel、PowerPoint などの使用方法を学びます。これらのスキルを修得することで情報化社会で活躍するための基礎を得るとともに、インターネットを使用する時のマナー・倫理を身につけます。

「キャリアリテラシー」はキャリアスキルを早期に修得するためのもので、卒業後の自分の人生をイメージしながら、これからの4年間の大学生活を設計し、充実した学修や課外活動に取り組む能力を身につけます。単なる就職活動のコツを学ぶ授業ではありません。

「スチューデントリテラシー」はスチューデントスキルを身につけるためのもので、大学生として充実した学修・生活ができる能力を獲得します。具体的な授業の内容は、創作物（レポート・論文）作成にあたっての倫理的な注意事項、健康な生活を送るための諸注意などです。

「リテラシー入門」の到達目標は、以下の通りです。

- (1) 自分の考えを論理的な文章として表現できる。
- (2) コンピューターを大学での学修のツールとして使うことができる。
- (3) 自分のキャリアを設計するという目的意識を持って学修と課外活動を行うことができる。
- (4) 大学生として学修上・生活上の倫理を身に付け、充実した学修・生活ができる。

(2) ライティング入門

「考える力」の涵養を目標にライティングを発展的かつ実践的に学修する科目です。この科目では演習形式でアカデミックな文章の基本的な作法を学んだうえで、様々な論説文を批判的かつ分析的に読むことによって論の進め方を習得しながら、自身の考えを文章化できる力をつけることを目指します。

具体的には、課題に対して自身が作成した文章をもとに、議論と修正を繰り返し、アカデミック・スキル全般を修得します。

(3) 情報処理入門

リテラシー入門の情報リテラシーパートを補完し、発展させる位置付けの科目です。文学部のレポート・論文を作成する際によく利用するアプリケーションの使用方法を学習し、修得することを目的とします。文書作成（Word）・表計算（Excel）・プレゼンテーシ

ョンスライド（PowerPoint）の使い方を中心に演習を行う。一般的な使い方の演習に加えて、人文系科目のレポート・論文作成を見据えた内容も学習する。

（４）人文学のための情報処理Ⅰ

各人文学分野の専門的な学びと関連した情報技術や情報処理の知識・技能を学び、人文学研究の新たな地平を開くための方法論の習得を目指す。春semesterに開講する。

（５）人文学のための情報処理Ⅱ

各人文学分野の専門的な学びと関連した情報技術や情報処理の知識・技能を学び、人文学研究の新たな地平を開くための方法論の習得を目指す。秋semesterに開講する。

Ⅱ - 7. 教養科目

本学の教養教育の理念および目標

本学の教養教育は、総合大学の特長を活かして、専門教育と往還しながら自らの専門性を相対化し、物事を総合的に捉える視野を身につけ、人生の指針となる知性と知恵、価値観、考え方を涵養し、主体的かつ自律的な思考や行動、ならびに他者との対話や協働ができる力の育成を目指しています。

この理念のもと、3つの目標を掲げています。

<教養教育の目標>

【目標Ⅰ】 知識・理解	学部固有の専門教育とは異なる知的体系や方法論による学習によって、自らの専門性を相対化し考察する能力の習得を目指す。
【目標Ⅱ】 思考・判断・意識	豊かな教養と深い洞察力の獲得によって、人生の指針となる知性と知恵、価値観、考え方の涵養を目指す。
【目標Ⅲ】 態度・行動	他者と実践をともにする中で多様な価値観を踏まえて主体的に学習する姿勢を身につけ、現代社会を切り拓く力の育成を目指す。

教養教育の到達目標とカリキュラム・マップについて

「本学の教養教育の理念および目標」で掲げた3つの目標に対応する、より具体的な到達目標を定めています。各科目がどの到達目標と合致しているかを示したのがカリキュラム・マップです。バランスよく履修できるようカリキュラム・マップを活用してください。

<教養教育の目標および到達目標>

目標	到達目標
【目標Ⅰ】 知識・理解	【Ⅰ-a】 知識 幅広い知識を習得し、自らの専門や日常生活に活用できる
	【Ⅰ-b】 科学的考察力 科学的方法論に基づき、事象を考えることができる
	【Ⅰ-c】 総合的解釈力 物事を総合的に考えることができる
【目標Ⅱ】 思考・判断・意識	【Ⅱ-d】 洞察力 論理的・批判的に事象を洞察することができる
	【Ⅱ-e】 指針の確立 倫理観・正義感を持ち、多様な選択肢から適切な意思決定を行うことができる
	【Ⅱ-f】 創造性 既成の概念に拘らず、創造的に考えることができる
【目標Ⅲ】 態度・行動	【Ⅲ-g】 多様性・国際性 多様な価値観が異なる意味、対立する意味を考えることができる
	【Ⅲ-h】 自己表現力 問題を発見し、その解決に向けて自分の考えを他者へ伝えることができる
	【Ⅲ-i】 共創する力 他者やコミュニティへ関心を持ち、能動的で責任ある行動を取ることができる

教養科目の群・分野 構成と卒業に必要な 単位数

科目	群	分野、科目区分など	卒業に必要な単位数
教養科目	立命館科目	—	基礎科目と教養科目を あわせて 24 単位以上 ※立命館科目および A 群科目より 16 単位以上、 また、B～E 群の各科 目群より少なくとも 1 科目以上の履修を推奨 する。
	教養基盤科目 (A 群)	第 1 分野 思想と人間	
		第 2 分野 現代と文化	
		第 3 分野 芸術と創造	
		第 4 分野 社会・経済と統治	
		第 5 分野 世界の史的構成	
		第 6 分野 自然・科学と人類	
		第 7 分野 数理と情報	
	国際教養科目 (B 群)	国際教養科目区分	
		異文化交流科目区分	
		海外留学科目区分	
	社会で学ぶ自己形成科目 (C 群)	キャリア教育科目	
		サービスラーニング科目	
	スポーツ・健康科目 (D 群)	—	
	学際総合科目 (E 群)	—	
基礎科目 (「リテラシー入門」など)			

各科目群の概要

(1) 立命館科目

立命館科目は、学生自らが立命館大学で学ぶ意義を理解し、未来を描き、未来を創る人間への成長に向けて、その礎を築くための科目群です。大学における学びのスタイルを身につけ、高校までの学習観の「転換」を図り、自らの専門性を発展させる学びの展開と選択ができるようになるために、入学後早い段階（おおむね第 3 セメスターまで）で 1 科目以上履修することが望ましいです。

13 の科目から構成される立命館科目は、次の 3 つの特徴をもって構成されています。

第 1 に、立命館大学が経験してきた学問の自由と大学の自治の歴史、社会問題への向き合い方、大学創造の歴史の学びを通して、大学とは何かについて考える自校史科目、教学理念である「平和と民主主義」とこれらを支えるために必要な「人権」について学ぶ科目を置いています。

第 2 に、立命館大学の学生として必要な現代社会を生きる知恵を磨きます。地球市民の大前提となるシチズンシップを身につける必要があります。それを基礎にして、現代が直面する科学・技術・安全等の課題を見極める力、歴史的な視野で世界を俯瞰する力、多様化するメディア環境を批判的にみつめ活用する力、ビッグデータを実践的に扱い理解する力を身につけ、現代社会を生きる羅針盤となる知性を育みます。

第 3 に、自らの人生を切り拓く修養の場としての立命館で、知識を他者との出会いや対話のなかで自分のものにすることができるよう、自律と協働の力を養います。人々のいのち・生活・尊厳を脅かすものとそれを克服しようとする人々に学ぶフィールドスタディ、学生相互の学びあいとしてのピア・サポートの実践と理論を通して他者とともに社会のなかで学ぶ力を身につけるアクティブラーニングを重視しています。

(2) 教養基盤科目 (A 群)

学問や社会生活を営む上で必然とされる文化・芸術に関する幅広い知識を通して得られる理解力、洞察力及び創造的活力の獲得を目的とした分野別基盤科目群です。人類が培ってきた知的体系や先端的知識、現代的諸課題を多様な視点から学び、芸術における創造力、社会に対する問題意識や問題解決のための発想力の涵養を目指します。

教養基盤科目 (A 群) は、「思想と人間」「現代と文化」「芸術と創造」「社会・経済と統治」「世界の史的構成」「自然・科学と人類」「数理と情報」の 7 つの分野から成り立っています。

第 1 分野 思想と人間	哲学や倫理学は、古代ギリシャの時代からそれぞれの時代ごとに論議の主要課題を変えつつ考察され、深められてきました。この分野では、社会思想史の成果を踏まえながら、人間存在がどのように考えられてきたかということについて哲学および倫理的に考察します。さらに単に哲学史などの学問の歴史を学ぶだけではなく、21 世紀を生きる者に求められる哲学と倫理についての考察を促し、それらの課題や問題に関し主体的に思考します。また、現代社会が抱える宗教や心の問題についても、世界的な視野から多面的に考察します。
-----------------	---

各科目群の概要（続き）

第2分野 現代と文化	人間を政治、経済、社会、文化の4側面から捉えたとき、文化的な観点から見ることの重要性から、この分野では、現代日本の特徴を世界の中に位置付けながら、社会および文化的存在としての人間を考察します。また、社会問題に対する考察を含みつつ、主に文化的存在としての人間について考察します。
第3分野 芸術と創造	人間の文化的活動の中には芸術が大きな役割を果たしています。表現芸術には絵画、音楽、演劇、文学、映像などがありますが、この分野では、人間の多様な表現能力や芸術理論についても考察します。芸術に関する広い知識や鑑賞力は、想像力の問題を喚起します。さらに異文化理解に役立ち、グローバル社会において、文化、芸術の総合的理解をもとにした思考力、創造力、感性を高めることが求められます。日本文化の深い理解にも資するような分野です。
第4分野 社会・経済と統治	この分野は、経済社会の維持とその発展を促してきた諸学問分野を中心とし、それに関連する科目を幅広く包含します。現代社会は、政治と経済の関係だけでなく、社会システム全体が変化しています。世界のボーダレス化はいっそう進展しており、今や世界のどの国や地域も政治経済上の再編の枠外に留まることはできない事態となっています。そのため、これまでの日本社会の在り様を法律、政治、経済、経営等の多面的な側面から検討する必要性が生じ、また、国際社会における地域主義の台頭などによって、国家統治の基礎となってきた法律や諸制度も変化しています。そうした社会構造を説明します。
第5分野 世界の史的構成	現代社会を理解する際の基礎的方法のひとつは、世界を歴史的に把握することです。この分野は、社会科学的な発想を基調としつつ人文科学の見方も包含して、社会を歴史的な観点から考察します。この分野では、分野全体の基礎概念等を説明する科目によって、歴史を見る際の見方と、世界を地域の観点から眺める際の見方を学習します。そして、それを基に世界を大きく5地域（日本、日本を除くアジア、ヨーロッパ、アメリカ、そしてイスラーム圏）に区分して、それぞれの主要課題を考察します。さらに、こうした理解に加えて本学に入学した学生諸君が身近な視点から歴史的存在としての自己の認識を深めることができるような科目を配置しています。
第6分野 自然・科学と人類	この分野は、主に自然科学および科学技術に関する諸分野を対象とし、その歴史や到達点を学ぶとともに、現在および今後の課題について分析・考察する力を養うことを目標とします。現代社会においては、自然科学や科学技術が及ぼす影響は極めて大きくなっており、科学技術と社会の関わりに関心を持つことは不可欠です。とくに宇宙科学、地球科学、生命科学など最先端の科学技術や環境空間、生命倫理などを理解し、自然・科学分野での思考の方法と方向性を養います。問題への関心の強さと学ぶ意欲が求められます。
第7分野 数理と情報	この分野は、主に数理的なものの見方と考え方の涵養をはかりつつ、合わせて情報関連科学に注目します。数理の世界について学ぶことは、どのような分野を専門的に学習する際にも必要である、論理的で合理的な思考方法を身に付けることにつながります。ここで重要なのは、例えば代数学を学ぶ際には方程式の解法を学習するのではなく、方程式という数理的世界の思考方法の特徴を学習することによって現象を論理的に把握することを学ぶことです。代数学、幾何学、解析学など数理の世界は多様ですが、ここではその歴史的発展の経緯、数理的思考法の特徴とその応用などを学習します。さらに、数理の世界の応用として、情報理論とコンピュータ、および情報科学についての、広範な学習を学生に期待します。情報科学の進展は、多様な回路から社会に大きな影響を及ぼしつつありますが、情報技術と社会の諸活動との連関にまで考察の範囲を広げます。

（3）国際教養科目（B群）

グローバル化社会において必要となる異文化の相互理解の基礎となる科目群です。英語など日本語以外を授業言語とし、人文・社会・自然科学の基礎的学びを通した幅広い教養とコミュニケーション能力を涵養し、確かな人間観・世界観の構築を目指す科目や、留学を視野に入れた学生のための科目など、外国語運用能力を活用し異文化理解を実践する科目で構成されます。

国際教養科目（B群）は、「国際教養科目区分」「異文化交流科目区分」「海外留学科目区分」の3つの科目区分から成り立っています。

国際教養科目区分	人文・社会・自然科学などについて、英語など日本語以外を授業言語として学ぶ講義科目および演習科目を配置しています。もしくは初修外国語で学ぶ講義形式の科目を配置しています。「Liberal Arts Seminar」は、テーマに基づき、グループディスカッションやプレゼンテーションを積極的に取り入れた20～35人規模の小集団授業で、学部や回生、文化的な背景の異なる学生同士の学びあいを重視しています。
----------	--

各科目群の概要（続き）

異文化交流科目区分	文化や歴史など多様な異文化背景を持った学生同士のコミュニケーションを通じて、国際的な感覚を涵養する科目を配置しています。母語と外国語の視点からのコミュニケーションや価値観の違いを通じて、異文化間コミュニケーションや他者理解を学ぶ科目「Cross-cultural Encounters 1」「Cross-cultural Encounters 2」や、グローバルなキャリア形成につながるテーマ設定のもとグループワーク等を通じて学びあい異文化理解を促進する科目「Cross-cultural Seminar」などがあります。
海外留学科目区分	主に、半年から1年程度の海外留学を目指す学生や留学が決定した学生を対象として、海外の大学での学びに必要な学習スキルを学ぶ留学準備科目を配置しています。語学の4技能（読む・聞く・書く・話す）を総合的に用いて留学リテラシーを集中的に学ぶ「Academic Skills 1」「Academic Skills 2」のほか、海外派遣プログラム単位授与科目があります。

（4）社会で学ぶ自己形成科目（C 群）

実社会（企業・公益団体・地域社会等）との連携・協働・相互理解を通して、現代社会を生きる上で求められる市民としての倫理観・正義感・責任感の必要性を理解するとともに、問題発見や創造的課題解決を行う能力を身につける科目群です。この科目群では、実社会の人々や受講生同士との対話や協働を通じて学ぶ「アクティブラーニング」の形式がとられ、特徴の異なる「キャリア教育科目」と「サービ斯拉ーニング科目」に分けられています。

キャリア教育科目	キャリア教育科目では、「自らの学びを活かして、どのように社会や世界と関わるか」を深く省察することにより、自らの将来を構想していきます。学部や専門領域が異なる学生が一つのクラスに集う「多様性」を活かし、全ての科目で受講生同士のグループワークを実施しています。また、多くの産業界の方々からの講演や学生の発表に対するコメントなどを通じて、大学での学びの意義を社会との関わりの中で考え、社会に出るまでに学ぶべきことに気づく機会を提供しています。 1 回生春 semester から学生のキャリア発達段階に応じた科目が配置されているので、初年次から系統的に履修することが望まれます。
サービ斯拉ーニング科目	主に NPO・NGO や地域の市民団体、行政機関と共働して、まちづくり・伝統文化・地域福祉・環境保護・地域防災・災害復興などの身近な社会の課題や問題を地域の人々と一緒に考え、汗を流し、解決していくことを通じてシチズンシップを学ぶ科目です。この学び方の手法を「サービ斯拉ーニング」といいます。地域の人々の生活リズムに寄り添いながら授業を行うため、時間割以外の活動期間があります。主体的に取り組み、新たな視野を得るきっかけとしてください。

（5）スポーツ・健康科目（D 群）

スポーツに親しみ健康に関する意識を高めることは、若者の人間形成と健康づくりに大きな役割を果たします。この認識のもとに、スポーツ実践そのものを学びの対象とする実技科目と、スポーツを題材としたスポーツの歴史、スポーツの現代社会との関り、スポーツの科学的な研究ならびに健康づくりを題材としたヘルスケア、地域コミュニケーションをテーマとする講義科目によって構成される科目群です。特に実習については、学部・回生を超えた組織・集団づくりを通じて、スポーツ技術やその知識、分析能力の習得のみならず集団に関する幅広い知識と分析能力の涵養を目指しています。

（6）学際総合科目（E 群）

現代社会に必要な課題をテーマとし、学際的・総合的な知の構築を目指し、とりわけ学生の主体的な授業参加を重視する科目群です。既存の学問分野を超えた、また各分野にまたがるテーマで、講義だけでなくグループ学習などを取り入れた多様な授業方法で展開する参加型の授業を目指しています。小集団での調査・研究・討議・発表などを通じて学生が主体となって学びあうことを目指す「教養ゼミナール」、異なるバックグラウンドを持つ学生同士の協働学習を通じて他文化・多文化についての理解を深める「異文化間テーマ演習」、3 回生以上を対象とする「超領域リベラルアーツ」から成り立っています。

教養科目における各 科目の位置付けにつ いて

教養科目一覧および カリキュラム・マッ プ

配当回生に基づき、教養科目を「導入」「形成」「先端」に位置付けています。履修計画を立てる際に参考にしてください。

導入	低回生に受講を強く推奨する科目です。配当回生は、1回生のみ、もしくは、1・2回生とし、3回生以上の履修は認めませんので、注意してください。具体的には以下の科目です。 ■ 1回生のみ：「社会と学ぶ課題解決」 ■ 1・2回生：「日本の近現代と立命館」「ピア・サポート論」「メディアと図書館」「学びとキャリア」「国の行政組織」「Cross-cultural Encounters 1」「地域参加学習入門」「現代社会とボランティア」
形成	教養教育の多様性を実現する科目です。「導入」「先端」以外の科目は全て「形成」です。配当回生は1回生以上、もしくは、2回生以上です（一部例外あり）。
先端	学部での専門教育を経た3回生以上を対象とする科目です。 具体的には、人類が直面する課題に対し、学問分野の枠にとらわれず、分野の壁を越えた先進的・学際的・学融合的アプローチを行う科目「超領域リベラルアーツ」のみです。

群	分野、 科目区分等	科目名	単 位 数	授 業 方 法	配 当 回 生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ（教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特にあてはまるものに○、あてはまるものに◎）									
							Ⅰ－a	Ⅰ－b	Ⅰ－c	Ⅱ－d	Ⅱ－e	Ⅱ－f	Ⅲ－g	Ⅲ－h	Ⅲ－i	
立命館科目		日本の近現代と立命館	2	講義	1・2回生	導入	◎	○	○	◎			○			
		ピア・サポート論	2	講義	1・2回生	導入			○		○		○	○	◎	
		ジェンダーとダイバーシティ	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○		○	○	◎		○	
		メディアと現代文化	2	講義	1回生以上	形成	○	○	◎	◎		○	○	○		
		市民と政治	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○		◎					
		日本国憲法	2	講義	1回生以上	形成	○			○	◎					
		災害と安全	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	◎	○	○	○	○			
		歴史観の形成	2	講義	1回生以上	形成		◎	○	○	○		○	○		
		科学・技術と社会	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○	◎		○	◎	○		
		実践データ科学	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	◎	○				○	◎	
		現代平和論	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○	◎		○		○	
		戦争の歴史と思想	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○	◎	○		
教養基盤科目（A群）	第1分野 思想と人間	平和人権フィールドスタディ	2	演習	2回生以上	形成		○	○	◎	○		◎		○	
		哲学と人間	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○		○	○	○		
		人間性と倫理	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○	○		○			
		心理学入門	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○		○		○			
		論理と思考	2	講義	1回生以上	形成		◎	○		○			◎		
		科学技術と倫理	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○	◎		○	◎		
		宗教と社会	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○			○		○	
		メンタルヘルス	2	講義	1回生以上	形成	◎	○	◎	○						
	第2分野 現代と文化	（留）日本の文化・地理・歴史	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○			◎			
		メディアと図書館	2	講義	1・2回生	導入	◎		○	○			○		○	
		社会学入門	2	講義	1回生以上	形成	◎	○	◎	○		○	○	○	◎	
		文化人類学入門	2	講義	1回生以上	形成	○	○	◎	◎			◎			
		文学と社会	2	講義	1回生以上	形成	◎		◎	○		◎		○		
		現代の教育	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○	○					
		世界の言語と文化	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○			◎			
		世界と日本の食文化	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○	◎			
		観光学	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	◎			○	○	○	
		京都学	2	講義	1回生以上	形成	○		◎				○			
		（留）日本語学	2	講義	2回生以上	形成	○	◎								

群	分野、科目区分等	科目名	単位数	授業方法	配当回生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ(教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特にあてはまるものに○、あてはまるものに◎)								
							【Ⅰ-a】知識	【Ⅰ-b】科学的考察力	【Ⅰ-c】総合的解釈力	【Ⅱ-d】洞察力	【Ⅱ-e】指針の確立	【Ⅱ-f】創造性	【Ⅲ-g】多様性・国際性	【Ⅲ-h】自己表現力	【Ⅲ-i】共創する力
教養基盤科目(A群)	第3分野 と創造 芸術	美と芸術の論理	2	講義	1回生以上	形成	○		◎	◎			○		
		音楽原論	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	◎	○					
		映像と表現	2	講義	1回生以上	形成	◎					○			
		映像メディア実践入門	2	講義	1回生以上	形成						○		○	◎
		文芸創作論	2	講義	1回生以上	形成	○					◎	○	◎	○
	第4分野 社会・経済と統治	国の行政組織	2	講義	1・2回生	導入	○		◎						○
		現代社会と法	2	講義	1回生以上	形成	○		○		◎				
		経済と社会	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	◎	○		○	○	○	
		企業と社会	2	講義	1回生以上	形成			◎				○		○
		現代日本の政治	2	講義	1回生以上	形成	○			◎	○				
		現代の国際関係と日本	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○			◎		○
		日本経済概説	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	
		現代の世界経済	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	
		現代の経営	2	講義	1回生以上	形成		○	◎	○					
		社会と福祉	2	講義	1回生以上	形成	○	○	◎	○		○	◎		○
		ソーシャルデザイン論	2	講義	1回生以上	形成	○	○	◎	○		○	◎		○
		(留)日本の社会・政治	2	講義	1回生以上	形成	◎		○		○		○		○
		(留)日本の経済・経営	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	◎	○		○	○	○	
	第5分野 史的構成 世界の	エリアスタディ入門	2	講義	1回生以上	形成	○	○	◎	○			○		
		新しい日本史像	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○	○			○	○	
		東アジアと朝鮮半島	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○			◎		○
		ヨーロッパの歴史	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○	○	○	◎		
		アメリカの社会と文化	2	講義	1回生以上	形成	◎		○	○	○	○	◎		
	第6分野 自然・科学と人類	イスラーム世界の多様性	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○			◎		○
		科学的な見方・考え方	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	◎	○	○	○	○		
		宇宙科学	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎				○			
		地球科学	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎				○			
		生命科学(分子と生命)	2	講義	1回生以上	形成	◎	○							
		生命科学(生物と生態系)	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○						
		材料と化学	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○						
		現代環境論	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	◎	○	○				
		科学と技術の歴史	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○	○			○		
		生命科学と倫理	2	講義	1回生以上	形成	◎	○	○				○		
		近現代の科学技術	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎		○	◎	○	○		
		(留)日本の自然・科学技術	2	講義	1回生以上	形成	○	◎			○	○	◎		
	第7分野 数理と情報	数理の世界	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	◎			
		情報の数理	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	◎			
		情報科学	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○			
		情報技術と社会	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○	○		○
		データサイエンス・AI基礎	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○		○	○
		データエンジニアリング基礎	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○	○	○		○	○
		統計学	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	◎	◎	○	○		○	

群	分野、 科目区分等	科目名	単位数	授業方法	配当回生	科目の位置付け	カリキュラム・マップ（教養教育の目標Ⅰ～Ⅲに対応する9つの到達目標のうち、特にあてはまるものに◎、あてはまるものに○）									
							【Ⅰ-a】知識	【Ⅰ-b】科学的考察力	【Ⅰ-c】総合的解釈力	【Ⅱ-d】洞察力	【Ⅱ-e】指針の確立	【Ⅱ-f】創造性	【Ⅲ-g】多様性・国際性	【Ⅲ-h】自己表現力	【Ⅲ-i】共創する力	
国際教養科目（B群）	国際教養科目区分	Liberal Arts Seminar	2	演習	1回生以上	形成			○				◎	○		
		Introduction to Law	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○	
		Modern World History	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○	○		◎		○	
		Japan and the West	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○	○		◎		○	
		Kyoto and the Japanese Arts	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○			◎		○	
		Special Lecture	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○			◎		○	
		Introduction to Linguistics	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○	
		Introduction to Anthropology	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○	
		Introduction to Natural Science	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○	○	○		○			
		Introduction to Humanities	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○	
		Introduction to the United Nations	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○			◎		○	
		Introduction to Peace Studies	2	講義	1回生以上	形成	○		○	○	◎		○		○	
		Introduction to Gender Studies	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○	○	◎		○		○	
		Understanding Visual Culture	2	講義	1回生以上	形成	◎		○				○			
		Playing with Playfulness	2	講義	1回生以上	形成	○		○			○	◎	○	◎	
		Introduction to Global Justice	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○		○		◎		○	
		Sustainable Development Goals(SDGs)in a Nutshell	2	講義	1回生以上	形成	○	◎	○		○	○	◎		◎	
	異文化交流科目区分	Cross-cultural Encounters 1	2	演習	1・2回生	導入			○		○	○	◎	◎	◎	
		Cross-cultural Encounters 2	2	演習	1回生以上	形成			○		○	○	◎	◎	◎	
		Cross-cultural Studies	2	講義	1回生以上	形成	○					◎	◎		◎	
		Cross-cultural Seminar	2	演習	1回生以上	形成	○					◎	◎		◎	
	海外留学科目区分	Academic Skills 1	2	演習	1回生以上	形成						○	◎	○		
		Academic Skills 2	2	演習	1回生以上	形成						○	◎	○		
		グローバル社会の体験と理解	2	実習・講義	1回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）							◎			
		Intensive Language Workshop	2	講義	1回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）	○						◎	○		
		Language for Academic Communication	2	講義	1回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）	○						◎	○	○	
		Global Project-Based Learning	2	講義・実習	1回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）			○	○	○		◎	○	○	
		Academic Communication（Online Learning）	2	講義	1回生以上	形成（海外派遣プログラム単位授与科目）	○						◎	○	○	
社会で学ぶ自己形成科目（C群）	キャリア教育科目	社会と学ぶ課題解決	2	演習	1回生のみ	導入				◎		○	○	◎	◎	
		学びとキャリア	2	講義	1・2回生	導入				◎	○			◎	◎	○
		仕事とキャリア	2	講義	2回生以上	形成				◎	○			◎	◎	○
		コーオプ演習（理論）	2	講義	2回生以上	形成				◎	○			○	◎	◎
		コーオプ演習（実践）	2	演習	2回生以上	形成					◎		○	○	◎	◎
	サービスラーニング科目	地域参加学習入門	2	講義	1・2回生	導入	○	○	○			◎	○	◎	○	○
		現代社会とボランティア	2	講義	1・2回生	導入	○	○	○			◎	○	◎	◎	○
		現代社会のフィールドワーク	2	講義	1回生以上	形成	○	○	○			◎	○	○	◎	◎
	シチズンシップ・スタディーズ	2	演習	2回生以上	形成		○	○	○	◎	○	◎	○	◎	◎	
スポーツ・健康科目（D群）	スポーツ・健康科目	スポーツの歴史と発展	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	○	○			○			
		スポーツと現代社会	2	講義	1回生以上	形成	◎	◎	◎	○			○			
		スポーツのサイエンス	2	講義	1回生以上	形成	○	◎								
		現代人とヘルスケア	2	講義	1回生以上	形成	◎	○								
		スポーツ方法実習Ⅰ	1	実技	1回生以上	形成	○	○			○			◎	◎	
		スポーツ方法実習Ⅱ	1	実技	1回生以上	形成	○	○			○			◎	◎	
学際総合科目（E群）	学際総合科目	教養ゼミナール	2	演習	1回生以上	形成			○	○	○	○	◎	◎	◎	
		異文化間テーマ演習	2	演習	1回生以上	形成				○			◎	○		
		超領域リベラルアーツ	2	講義	3回生以上	先端	○	◎	◎	◎		○	○	○	○	

教養科目一覧および カリキュラム・マップ (続き)

【注意事項】

- ・科目名に「(留)」とある科目は、日本に対する理解を様々な角度・視点から深めることを目的とした「日本事情等に関する科目」で、正規留学生・短期留学生のみが受講できます。
- ・国際教養科目(B群)は科目ごともしくは授業ごとに、4段階の「Stage」を設定しています。「Stage」とは、授業で前提とする言語レベルや国際交流の関わり度合いのことです。受講にあたっては「Stage」に相当する語学力を身につけている必要があります。「Stage」はシラバスで確認してください。なお、初修外国語開講のクラスは、各言語の検定4級以上相当の語学力が必要です。

＜英語開講の授業における言語レベル＞

Stage	TOEIC [®] LISTENING AND READING テスト	TOEFL ITP [®] テスト	TOEFL iBT [®] テスト	IELTS
Stage1	380 未満	400 未満	32 未満	4.5 未満
Stage2	380～580	400～480	32～55	4.5～5.0
Stage3	580～630	480～530	55～71	5.0 以上
Stage4	630 以上	530 以上	71 以上	5.5 以上

* TOEIC[®] および TOEFL[®] は Educational Testing Service (ETS) の登録商標です。

- ・海外留学科目区分のうち、海外派遣プログラムについては、各プログラムの募集要項で詳細を確認してください。

データサイエンス +R プログラムについて

本学の教養教育では、“デジタル社会の基礎知識”である数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能を修得できる教育プログラム「データサイエンス + R プログラム」があります。

プログラムは数理・データサイエンス・AIを活用するための基礎的な知識・スキルを修得する「基礎」と、自らの専門分野への数理・データサイエンス・AIの応用基礎力を修得する「応用基礎」の2種類で構成されており、要件を満たすと履修証明書が発行されます。

デジタル社会が進展するなかで、データサイエンスやAIに関する知識は、従来の「読み・書き・そろばん」的な素養として位置づけられ、在学中に履修、修得することが望ましいです。

(1) データサイエンス +R プログラム (基礎)

対象科目	配当回生	単位
情報技術と社会	1 回生以上	2 単位

(2) データサイエンス +R プログラム (応用基礎)

対象科目	配当回生	単位
データサイエンス・AI 基礎	1 回生以上	2 単位
データエンジニアリング基礎	1 回生以上	2 単位

※ 上記2科目の単位取得により応用基礎に求められる知識・技能を修得することができます。

(3) データサイエンス +R プログラムの修了について

上記、データサイエンス +R プログラム (基礎) ならびにデータサイエンス +R プログラム (応用基礎) 双方の要件を満たした学生へは、その証として履修証明書 (オープンバッジ) が付与されます。オープンバッジについての詳細は以下の HP から確認してください。

教養科目の詳細は、「教養教育」ホームページで確認してください。
・右の QR コードから、アクセスできます。

・manaba+R からは、
「文学部生のページ」→「文学部の履修」→「【履修】教養科目」をクリック。



II - 8. 外国語科目

外国語教育の意義

「外国語を知らぬ者は、母語を知らない。」(ゲーテ) 現代社会の発展は、あらゆる分野において国際的な交流と、グローバルな視野の拡大がますます必要となっており、そのため、外国語の高度な学力が要求されています。

本学では、外国語は、それ自体、人間形成に必要な不可欠な一般教養として位置づけられています。外国語を学習することが人間形成上必要な一般教養であるということは、言語のもつ本質の機能から生まれます。言語は単に情報伝達の手段であるばかりではなく、「もの」や「こと」の本質そのものでもあります。ですから、言語を学習するということは、人間的存在とそのもろもろの営み、文化を、いわばその原点において学ぶということなのです。

ところで、それぞれの民族の言語の根底にはこれを使用している民族内部の共通の認識や思考、つまり「もの・こと」と言語との対応関係の共通性があります。そしてどの民族の言語も、一つの言語としての体系を具えています。それゆえ、「もの・こと」—認識・思考—と言語の関係には、それぞれの民族の独自性が具現されています。しかしまた、それとともに民族的異質性の底には人間としての共通性もあります。それぞれの民族の使用する言語を学び、それぞれの民族の異質性を学ぶことによってはじめて、人間としての共通性を認識することができるのです。ここにこそ真の国際理解と交流があります。このように外国語を学習することによって言語の種類を豊富にするということは、認識力や思考力を豊かにし、人間としての視野を広げ、人類の文化遺産を正しく継承していく姿勢と真の国際連帯感を身につけることに直接つながっています。大学において、英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語・イタリア語のうち2つの言語を必修科目として学ぶ意義は、ここにあります。

このことから、外国語教育はそれぞれの学問領域の専門教育にたいして、基本的できわめて奥深い関係をもつものであるといえます。すなわち、外国語学習は、すべての学問の基礎条件である「ことば」の修得を目指す過程で、その言語を使っている民族の文化・思考を吸収しながら視野を拡大し、同時に厳密な科学的にして総合的なものの見方・考え方の体得を目指すものであり、このことが専門の学問領域の深化につながります。また逆に、専門の学問領域で得られた知識や技能が、外国語の学習に幅広い視野をあたえることになります。このように外国語学習は、専門教育とは緊密な相補関係にあります。「読む・書く・聞く・話す」の4技能の円満な習熟、言語の総合的な運用能力を身につけることは、もちろん基本的な課題ですが、以上述べてきた言語の本質に迫る取り組みなしには、いわゆる「社会に通用する学力」として、学問研究の場で、あるいは市民・職業人としての活動領域において真に生きた語学力とはならないでしょう。

学力到達目標と学力検証

立命館大学の外国語教育は、これまでの成果と到達点を踏まえ、「外国語に強い、高度な総合的運用能力を持つ学生」のいっそうの育成を目指しています。個々の授業・科目における到達目標を設定し、高度な運用能力を持った学生が国際教育プログラム(DUDP、交換留学をはじめとする各種留学のプログラム)や、学部専門科目に連携する取り組みを強化し、国際社会で活躍できる人材を養成する一方、本学を卒業するにふさわしい、あるいは確かな学力の保証として、外国語運用能力としてのミニマム・レベルとしての到達目標を設定します。本学で外国語を学ぶ学生は、英語もしくは初修外国語のいずれかで、この到達目標をクリアする必要があります。ただし、クリアすること自身が目的ではなく、通常授業の中で総合的運用能力が保障されるものであり、到達目標に達しない場合には自学自習や学力回復のためのクラスや学習相談の機会を用意しています。

学力到達度を確認するために、英語については1回生時に到達度検証のテストを実施します。また、初修外国語については、ミニマム設定科目を設定しています。

外国語のミニマムレベル

英語：TOEIC® L&R テスト 400 点相当

ドイツ語、フランス語、中国語、朝鮮語、イタリア語：初修検定 4 級相当

スペイン語：初修検定 5 級相当

※ TOEIC® は Educational Testing Service (ETS) の登録商標です。

※ TOEIC® L&R テストの「L&R」は LISTENING AND READING の短縮形です。

外国語カリキュラムの概要

(1) 卒業に必要な単位数

第1外国語：8 単位 (1 回生時 6 単位、2 回生時 2 単位)

第2外国語：6 単位 (1 回生時 6 単位)

以上の合計 14 単位が必要です。

外国語カリキュラム
の概要（続き）

(2) 履修できる外国語

外国語は「英語」と「初修外国語」の2種類に大別されます。「初修外国語」は「英語」以外の外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語・イタリア語）を指します。

所属する学域によって、第1外国語・第2外国語で選択できる語種は異なります（下表参照）。第1外国語と第2外国語について、同一の語種を選択することはできません。また、入学前に選択した外国語を入学後に変更することはできません。

① 通常学生

「◎」がついている語種は各学域が指定している外国語です。その他は「○」がついている外国語から選択します。

学域	科目	第1外国語							第2外国語						
		英 語	ド イ ツ 語	フ ラ ン ス 語	中 国 語	ス ペ イ ン 語	朝 鮮 語	イ タ リ ア 語	英 語	ド イ ツ 語	フ ラ ン ス 語	中 国 語	ス ペ イ ン 語	朝 鮮 語	イ タ リ ア 語
人間研究学域 ※1		○	○	○					○	○	○	○	○	○	○
日本文学研究学域		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日本史研究学域		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
東アジア研究学域					○		○		○	○	○	○	○	○	○
国際文化学域		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
地域研究学域		◎								○	○	○	○	○	○
国際コミュニケーション学域		◎								○	○	○	○	○	○
言語コミュニケーション学域		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※1 人間研究学域は第1外国語もしくは第2外国語で、必ずドイツ語またはフランス語を選択しなければなりません。

② 外国人留学生

「◎」がついている語種は各学域が指定している外国語です。第1外国語は必ず日本語を履修します。第2外国語は「○」がついている外国語から選択します。

学域	科目	第1外国語	第2外国語						
		日本語	英語	ドイツ語	フランス語	中国語	スペイン語	朝鮮語	イタリア語
人間研究学域		◎		○	○				
日本文学研究学域		◎	○	○	○	○	○	○	○
日本史研究学域		◎	○	○	○	○	○	○	○
東アジア研究学域		◎				○		○	
国際文化学域		◎	○	○	○	○	○	○	○
地域研究学域 ※2		◎	◎	△	△	△	△	△	△
国際コミュニケーション学域 ※2		◎	◎	△	△	△	△	△	△
言語コミュニケーション学域		◎	○	○	○	○	○	○	○

※2 地域研究学域、国際コミュニケーション学域は、第2外国語において学域指定の「◎」の語種が母語の場合のみ、「△」の中から選択する必要があります。

(3) 通常の履修方法

通常の外国語の履修方法は、次の通りとなっています。特別な履修プログラム（次頁（5）を参照）を選択する場合は、手続きや履修方法が異なりますので注意してください。

① 英語を第1外国語とする場合

回生	授業開講期間	第1外国語：英 語（8単位）			第2外国語：初修外国語（6単位）	
1 回 生	春semester	英語Ⅰ (週1回)①	英語Ⅱ (週1回)①	英語Ⅲ (週1回)①	○○語・基礎 (週2回)②	○○語・表現Ⅰ (週1回)①
	秋semester	英語Ⅳ (週1回)①	英語Ⅴ (週1回)①	英語Ⅵ (週1回)①	○○語・展開 (週2回)②	○○語・表現Ⅱ (週1回)①
2 回 生	春semester	英語Ⅶ (週1回)①			(※)	
	秋semester	英語Ⅷ (週1回)①				

(※) 初修外国語の学習機会を増やすため、初修外国語を第2外国語として選択した学生は、必修の6単位に加えて、応用Ⅰ・Ⅱの履修を認めます。履修を希望する学生は「時間割表」を確認し、登録してください。

・○の中の数字は各科目の単位数を表しています。

外国語カリキュラム の概要（続き）

②初修外国語を第1外国語とする場合

回生	授業開講期間	第1外国語：初修外国語（8単位）	第2外国語：英語（6単位）
1 回 生	春semester	〇〇語・基礎 (週2回)②	英語Ⅰ (週1回)①
	秋semester	〇〇語・展開 (週2回)②	英語Ⅱ (週1回)①
2 回 生	春semester	〇〇語・応用Ⅰ (週1回)①	英語Ⅲ (週1回)①
	秋semester	〇〇語・応用Ⅱ (週1回)①	英語Ⅳ (週1回)①

・英語を第2外国語で選択した場合は、単位の修得が認められるのは6単位までなので注意してください。

・〇の中の数字は各科目の単位数を表しています。

（4）【外国人留学生対象】第1外国語での日本語科目の履修について

①概要

日本語を母語としない外国人留学生のみなさんが大学での学修に必要とされる高い日本語運用能力を修得することができるように、第1外国語として、日本語科目の履修を必修としています。また、日本語運用レベルに応じて、必修の8単位を超えて10単位の履修を求める場合があります。

日本語による講義を理解し、授業の中での議論に参加し、レポートを書くために必要とされる日本語運用能力を身につけるために、必ず1・2回生の間に日本語科目を履修してください。

【日本語科目一覧】

配当回生	科目名	単位数	授業開講期間
1 回 生	(留) 日本語Ⅶ（文章表現 a）	1	春semester
	(留) 日本語Ⅶ（文章表現 b）	1	秋semester
	(留) 日本語Ⅶ（読解 a）	1	春semester
	(留) 日本語Ⅶ（読解 b）	1	秋semester
	(留) 日本語Ⅶ（聴解口頭 a）	1	春semester
	(留) 日本語Ⅶ（聴解口頭 b）	1	秋semester
2 回 生 以 上	(留) 日本語Ⅷ（アカデミック日本語 a）	1	春semester
	(留) 日本語Ⅷ（アカデミック日本語 b）	1	秋semester
	(留) 日本語Ⅷ（キャリア日本語 a）	1	春semester
	(留) 日本語Ⅷ（キャリア日本語 b）	1	秋semester

②クラス編成について

新入生は、1回生で履修する日本語科目（「日本語Ⅶ」の6科目）がクラス指定されます。

③日本語科目の単位を修得できなかった場合

日本語科目で単位を修得できなかった場合は、次年度に修得できなかった科目を再度履修してください。「日本語Ⅶ」を履修した後に「日本語Ⅷ」を履修することが原則ですが、2回生以降、1回生配当科目を再履修しながら2回生配当科目を履修することは認められます。

（5）外国語の様々な科目・プログラム

通常の外国語履修の他に、以下のような様々な科目・プログラムがあります。

1)外国語の代わりとして履修するプログラム

① 初修外国語・既修者対応プログラム

高校や海外在住経験で、初修外国語をある程度身に付けている人の為のプログラム。希望者は1回生4月オリエンテーション期間中のガイダンスに参加し、申し込み手続きをする必要があります。

2)外国語科目に加えて履修できるプログラム

① 全学副専攻外国語コミュニケーションコース

衣笠4学部で募集される全学副専攻（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、朝鮮語）の科目です。

② 英語アドヴァンスト・コース

文学部生のみを対象に募集するプログラムです。

外国語カリキュラム
の概要（続き）

英 語

- ③ 人文学のための〇〇語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・イタリア語・朝鮮語）
2回生以上で受講することができます。
- ④ 外国語文献リーディング（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、イタリア語）、英書リーディング
外国語文献リーディングは1回生以上、英書リーディングは2回生以上で受講することができます。
- ⑤ 言語習得センター（CLA）〔正課外〕
正課の外国語教育に加え、更に発展させる為の各種プログラムが用意されています。

（1）内 容

英語のクラスは習熟度別編成をしています。各クラスに目標グレードを表示して、全員がミニマムレベル（TOEIC® L&R テスト：400点）をクリアするとともに、特に高度なレベル（TOEIC® L&R テスト：730点）を獲得することを目標とするよう、積極的な援助を行います。

① 英語Ⅰ／Ⅳ（Reading & Study Skills）

日本人教員かネイティブスピーカー教員担当による授業で、1セメスター毎に完結して、各1単位を授与します。基礎教育としての学問諸分野から興味深い様々なテーマを取り上げたテキストを読み、語彙力、読解力、内容要約力などリーディングの養成に重点を置きます。またテーマに基づいたライティングをするなど書く力も養成します。第1セメスター、第2セメスターとも内容は同じですが、第2セメスターはレベルが少し高くなります。

② 英語Ⅱ／Ⅴ（Listening & Speaking Skills）

原則としてネイティブスピーカー教員担当による授業で、1セメスター毎に完結して、各1単位を授与します。身近なトピック、興味深いテーマや問題を焦点にしてリスニングとスピーキングの養成に重点を置きます。第1セメスター、第2セメスターとも内容は同じですが、第2セメスターは第1セメスターで養成されたコミュニケーション能力をベースにレベルが少し高くなります。

③ 英語Ⅲ／Ⅵ（Research, Presentation & Writing）

原則としてネイティブスピーカー教員担当による授業で、1セメスター毎に完結して、各1単位を授与します。身近なトピック、興味深いテーマや問題を英語でリサーチし、プレゼンテーションしたり、ライティングしたものを提出したりすることに重点を置きます。

第1セメスター、第2セメスターとも内容は同じですが、第2セメスターはレベルが少し高くなります。

④ 英語Ⅶ／Ⅷ（English Development）

2回生（第3セメスター、第4セメスター）では、第一外国語として英語を選択した学生のみが、必修となります。週1回、1セメスター毎に各1単位を授与します。クラスは3つのグレードに分けられ、習熟度別に編成します。

【回生別科目配当表】

英 語		
1 回生	第1セメスター	英語Ⅰ・英語Ⅱ・英語Ⅲ（各週1回授業、各1単位）
	第2セメスター	英語Ⅳ・英語Ⅴ・英語Ⅵ（各週1回授業、各1単位）
2 回生	第3セメスター	英語Ⅶ（週1回授業、各1単位）
	第4セメスター	英語Ⅷ（週1回授業、各1単位）

（2）英語の単位が修得できなかった時

英語の卒業に必要な単位数を修得していない場合、未修得単位数分の「単位回復科目」を履修します。これらの科目は受講登録上限単位数に含まれます。いずれも成績評価は合格の場合「C」、不合格の場合「F」となります。各科目の詳細についてはシラバスを確認してください。

「英語読解演習1（単位回復）」「英語読解演習2（単位回復）」

「英語音声演習1（単位回復）」「英語音声演習2（単位回復）」

※各1単位

※各科目は重複履修（過去に履修・単位修得済科目を再度履修すること）が可能です。

英語団体受験

初修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語・イタリア語）

※外国語単位回復科目の履修上の注意点

第1外国語、第2外国語でそれぞれ修得できなかった単位数を超えて単位回復科目を履修することはできません。誤って外国語科目の必修単位数（第1外国語：8単位、第2外国語：6単位）を超えて単位回復科目を履修・修得してしまった場合、超過分については卒業に必要な単位として認められませんので注意してください。

団体受験について

立命館大学では、正課授業の到達度を測るため、また主体的な外国語学習の自己検証を目的として、学内で年に数回、TOEFL ITP®テストとTOEIC®L&R IPテストを団体受験として実施しています。

■ TOEFL ITP® テスト

TOEFL®テストは、英語を母国語としない人の英語能力を測る世界共通のテストです。TOEFL ITP®テストは、学校などの団体向けプログラムで、主にTOEFL®テストで過去に出された問題から出題されます。このスコアは、本学の英語副専攻プログラムや、各種留学プログラムなどへの応募に利用することができます。

■ TOEIC®L&R IP テスト

TOEIC®L&Rテストは、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。IPテストは、大学などの団体向けプログラムで、TOEIC®L&Rテストの過去問題を中心に出版されます。このスコアは、就職活動などで提示を求められることも多いため、学内団体受験をぜひ活用してください。

※団体受験で発行されるスコアは公式スコアではありませんが、公式テストと同等の評価として、多くのケースで利用できます。利用の可否については、提出先に必ず確認してください。

※団体受験はTOEFL ITP®テスト、TOEIC®L&R IPテスト、もしくはその他のテストで実施されます。実施形態はオンライン形式あるいはキャンパスの教室を利用した集合形式のいずれかとなります。

※実施日程・試験種別・実施形態など詳細については、言語教育センターのホームページで公開していますので、必ず確認のうえ受験してください。

「言語教育センター」ホームページ

(manaba + Rの「文学部生のページ」→「学び支援サイト」→「留学・外国語学習」→「英語団体受験」をクリック)

※ TOEIC®, TOEFL® は Educational Testing Service (ETS) の登録商標です。

※ TOEIC®L&R テストの「L&R」は LISTENING AND READING の短縮形です。

(1) 内 容

① 〇〇語・基礎 1回生/第1 Semester (春 Semester・週2回)、2単位。

「表現Ⅰ」の授業と連携しつつ、当該言語の基本的な語彙や文法を中心に学び、平易な文構造を理解し、運用できる能力を養うことを目指します。

② 〇〇語・展開 1回生/第2 Semester (秋 Semester・週2回)、2単位。

「〇〇語・基礎」で学んだ基本的な語彙や文法事項、文構造の理解を定着させるとともに、「表現Ⅱ」の授業と連携しつつ、より複雑な文構造を理解し、発展的に応用できる能力を養うことを目指します。

③ 〇〇語・表現Ⅰ／Ⅱ 1回生/表現Ⅰ：第1 Semester (春 Semester・週1回)、表現Ⅱ：第2 Semester (秋 Semester・週1回)、各1単位。

「基礎」・「展開」の授業と連携しつつ、発音規則を学び、正しく発音できる力を養うとともに、日常会話をはじめとする基本的な文からより複雑な文構造を聴いたり、話したりする能力を養うことを目指します。

④ 〇〇語・応用Ⅰ／Ⅱ 2回生/応用Ⅰ：第3 Semester (春 Semester・週1回)、応用Ⅱ：第4 Semester (秋 Semester・週1回)、各1単位。

1回生時に習得した基礎的な〇〇語運用能力をしっかりと定着させるとともに、より高いレベルの語学力を涵養していきます。

初修外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語・イタリア語）
（続き）

【回生別科目配当表】

初修外国語			
1 回生	第1 セメスター 第2 セメスター	基礎（週2回授業、2単位） 展開（週2回授業、2単位）	表現Ⅰ（週1回授業、1単位） 表現Ⅱ（週1回授業、1単位）
2 回生	第3 セメスター 第4 セメスター	応用Ⅰ（週1回授業、1単位） 応用Ⅱ（週1回授業、1単位）	

（2）初修外国語の単位が修得できなかった時

① 1 回生配当科目

1 回生配当科目（基礎・展開・表現Ⅰ・表現Ⅱ）の初修外国語の卒業に必要な単位数を修得していない場合、以下の「単位回復科目」を履修します。これらの科目は受講登録上限単位数に含まれます。いずれも成績評価は合格の場合「C」、不合格の場合「F」となります。各科目の詳細についてはシラバスを確認してください。

「基本〇〇語（表現）Ⅰ」「基本〇〇語（表現）Ⅱ」

「基本〇〇語（文化）Ⅰ」「基本〇〇語（文化）Ⅱ」

「基本〇〇語（社会）Ⅰ」「基本〇〇語（社会）Ⅱ」

「基本〇〇語（生活）Ⅰ」「基本〇〇語（生活）Ⅱ」

※各1単位

※イタリア語については、各科目、隔年開講となります。

※各科目は重複履修（過去に履修・単位修得済科目を再度履修すること）できません。

② 2 回生配当科目

2 回生配当科目（応用Ⅰ・応用Ⅱ）の単位を修得できなかった場合は、次年度以降に同一科目を履修することになります。〇〇語・応用Ⅰ、応用Ⅱについては、単位回復科目で単位を補うことはできませんので注意してください。

※外国語単位回復科目の履修上の注意点

第1外国語、第2外国語でそれぞれ修得できなかった単位数を超えて単位回復科目を履修することはできません。誤って外国語科目の必修単位数（第1外国語：8単位、第2外国語：6単位）を超えて単位回復科目を履修・修得してしまった場合、超過分については卒業に必要な単位として認められませんので注意してください。

（1）意義と目的

初修外国語・既修者対応プログラムは、高校の授業や海外生活などで既に初修外国語を学んだ人（既修者）が継続して学習できるよう設定しており、これまで培ってきた力を一層伸ばすことを目的としています。

このプログラムを受講する学生は、通常の正課初修外国語の科目に代えて既修者対応プログラム用の科目を履修し、初修外国語の卒業に必要な単位を修得していくことになります。

（2）対象言語

ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語

（3）受講資格

- ① 高等学校等で、当該言語について4単位相当以上履修し、一定のレベルに到達している学生【参考：1単位は45分授業を週1回・1年間学習するものとする】
- ② 原則として、当該の言語圏で1年間以上在住し帰国した学生
- ③ 上記①・②と同等レベルの語学力がある学生

（4）受講申込

このプログラムを履修するためには、「新入生のためのスタートアップサイト」に掲載されるプログラムの説明をよく確認し、締切までにWEBから申し込みをする必要があります。その上で、新入生オリエンテーション期間中に実施する既修者対応プログラムガイダンスに出席してください。オリエンテーション時に、履修の適性を判断します。

受講許可後、各自 manaba+R から CAMPUSWEB にログインし、受講登録を行います（このプログラムは、原則として第1セメスターから受講します）。

初修外国語・既修者
対応プログラム（衣笠）

初修外国語・既修者 対応プログラム（衣 笠）（続き）

（５）履修方法

文学部の必修初修外国語科目（「〇〇語・基礎」…、「〇〇語・表現Ⅰ」…等）を履修せず、下記の既修者用科目を、初修外国語必修科目として履修します。

第１外国語として初修外国語・既修者受講科目を履修する場合は、１回生以上配当の中級科目、２回生以上配当の上級科目から合わせて８単位を修得することが必修となります。

一方、第２外国語として初修外国語・既修者受講科目を履修する場合は、１回生以上配当の中級科目、２回生以上配当の上級科目から合わせて６単位を修得することが必修となります。ただし、履修を希望する場合は、８単位までの履修および修得を認めます。

初修外国語・既修者受講科目は、第１外国語、第２外国語ともに、１回生次に６単位までの履修および修得が可能です。

配当 回生	授業開講期間	学部正課科目 (①②は単位数)	既修者受講科目
１回生 以上	春semester	〇〇語・基礎 ② 〇〇語・表現Ⅰ ①	〇〇語 中級 コミュニケーション 各科目 〇〇語 中級 表現読解 各科目※
	秋semester	〇〇語・展開 ② 〇〇語・表現Ⅱ ①	
２回生 以上	春semester	〇〇語・応用Ⅰ ①	〇〇語 上級 コミュニケーション 各科目 〇〇語 上級 表現読解 各科目※
	秋semester	〇〇語・応用Ⅱ ①	

※スペイン語・朝鮮語の留意事項

- ・スペイン語・朝鮮語については、許可通知の際に履修科目を指示する場合があります。
- ・スペイン語・朝鮮語の「〇〇語 中級表現読解Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」、「〇〇語 上級表現読解Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は、全学副専攻コミュニケーション科目との合同授業で２単位のため、履修科目数は上記表の記載とは異なります。必ず時間割を見て、自身に必要な履修科目数を確認してください。

※初修外国語・既修者対応プログラムの単位が修得できなかった時

卒業に必要な単位数を修得していない場合、未修得単位数分の既修者対応プログラム科目を次年度に再度履修します。「初修外国語単位回復科目」で単位を補うことはできません。

（６）受講辞退について

既修者対応プログラムは、通常の正課初修外国語科目に代えて必修科目として受講する科目のため、受講辞退はできません。

（７）全学副専攻特別履修（既修者対応プログラムのアドヴァンストクラス）について

既修者対応プログラムの受講生は、申請により、プログラムで履修している言語の全学副専攻２年次配当科目（通常３回生が履修する科目）を２回生時から「特別履修」することができます。「全学副専攻」コースを履修するのではなく、既修者対応プログラムのアドヴァンストクラスとして、全学副専攻の科目を１単位から特別に受講できるものです。

①対象者

既修者対応プログラム受講生

②「全学副専攻」との違い

通常の全学副専攻…履修するコースを１６単位以上修得した場合に限り、卒業に必要な単位として認定。

全学副専攻特別履修…１単位から（８単位以内）卒業に必要な単位として認定。

※単位の認定区分は全学副専攻と同様に発展科目に算入されます。

③「全学副専攻特別履修」の申請時期

１回生の１１月頃の予定です。同時期に実施する説明会に参加の上、申請してください。

Ⅱ - 9. 専門科目

専門科目（人文学共通科目）

(1) 人文学共通科目

人文学共通科目は、学域・専攻の壁を越えた視点で人文学の学びに資する基礎概念・知識を修得するための科目群として、開講しています。

○の中の数字は各科目の単位数を表しています。

＃のついた科目は重複受講ができます。

【人文学共通科目一覧】

1 回生以上配当科目	
# 人文学講座② # Lecture for Humanities ② 宗教学② 仏教論② ギリシア語Ⅰ・Ⅱ各② キリスト教思想② ラテン語Ⅰ・Ⅱ各②	神話学② 日本演劇論② 民俗学② 史学論② 社会学概論② 書道② 地理学②
2 回生以上配当科目	
# 人文学のためのドイツ語② # 人文学のためのフランス語② # 人文学のための中国語② # 人文学のためのスペイン語② # 人文学のためのイタリア語② # 人文学のための朝鮮語② # 人文学特別研修①～④	# 海外エリアスタディ実習（短期）② # 海外エリアスタディ実習（長期）④ 論理と言語Ⅰ・Ⅱ各② フランス現代思想② ドイツ現代思想② 華道文化演習① 茶道文化演習①
3 回生以上配当科目	
# 人文学のための情報処理・応用②	
その他科目群	
クロスメジャー科目群	英語アドヴァンスト・コース科目群 海外派遣プログラム単位授与科目群

①人文学のための〇〇語

この科目は、初中級レベルの初修外国語運用能力を前提とし、当該言語を用いた人文学分野のさまざまな形式の資料を的確に理解し応用できる、中上級レベルの言語能力、および人文学的基礎知識の習得、当該言語圏地域のアクチュアルな文化および社会事情に精通することをめざします。多様な資料解説および表現スタイルを学ぶことを通じて、当該言語および社会、歴史や政治、文化に対する幅広い知見を深めます。また、テキストに関するディスカッションを行うことで、各自の専門研究の学びと当該言語の表現能力の向上に役立てます。

〈受講条件〉

当該言語を外国語として学んだことがあり、初中級程度のレベルを有していることが望ましいです。具体的な目安については、各科目のシラバスを確認してください。

②人文学特別研修

文学部で募集する学外実習科目です。詳しくはⅢ-6. 人文学特別研修を参照してください。

③エリアスタディ

文学部が独自に展開している科目群です。詳細についてはⅢ-5. エリアスタディを参照してください。

④クロスメジャー科目群

学域・専攻での学びを基盤に、新領域を応用的に学ぶためのコースです。「京都学」と「デジタル人文学」の2コースを設置しており、各分野を体系的に履修します。各科目は許可者のみ受講することができます。科目一覧および詳細については、Ⅲ-3. クロスメジャーを参照してください。

専門科目（人文学共通科目）（続き）

⑤英語アドヴァンスト・コース科目群

1 回生で学んだ英語学習を英語の実践的スキル向上に特化して、総合的、体系的にステップアップさせるための科目群（コース）です。許可者のみ受講することができます。科目一覧および詳細についてはⅢ-4. 英語アドヴァンスト・コースを参照してください。

⑥海外派遣プログラム単位授与科目群

科目名	単位数	配当回生
Area Study I	2	1 回生以上
Area Study II	4	1 回生以上
Area Study (Online Learning)	2	1 回生以上
Global Study	4	1 回生以上

海外派遣プログラムの参加学生を対象とした科目です。許可者のみ受講することができます。また、それぞれの科目は重複受講ができます。

専門科目（学域・専攻科目）

（2）学域・専門科目

各学域・専攻に属する専門科目は、文学部生全員が受講できるものもあれば、所属学生のみが受講できる科目もあります。学修要覧では「文学部生全員が受講できる科目」「各学域・専攻の学生のみ受講できる科目」「3回生以上の専門演習・卒業論文」に分けて専門科目を掲載しています。

所属の学域・専攻の枠を超えて受講できる専門科目も多数設けていますので、自身の学域・専攻科目にとらわれすぎずに受講してください。

①文学部生全員が受講できる科目

下記の科目は各学域・専攻に属している科目ですが、**文学部生全員が受講できます**。

【専門科目（文学部生全員が受講できる科目）一覧】

○の中の数字は各科目の単位数を表しています。#のついた科目は重複受講ができます。

学域・専攻	科目区分	1回生以上配当科目	2回生以上配当科目	3回生以上配当科目
人間研究学域	哲学・倫理学専攻	概論	哲学概論Ⅲ②	
		講義	哲学史Ⅰ～Ⅵ各② 倫理思想史Ⅰ・Ⅱ各② 応用倫理Ⅰ・Ⅱ各② 身体論② 現象学② 正義論②	
		特殊講義	#現代哲学特殊講義② #哲学特殊講義② #倫理学特殊講義②	
	教育人間学専攻	概論	教育人間学概論（人間形成）Ⅰ② 教育人間学概論（臨床教育）Ⅱ② 教育人間学概論（心理健康）Ⅲ②	教育人間学概論（人間形成）Ⅳ② 教育人間学概論（臨床教育）Ⅴ② 教育人間学概論（心理健康）Ⅵ②
		講義	文化の人間学② 意識の人間学② 自己の人間学② 変容の人間学② 超越の人間学② 教育臨床の人間学② 学校カウンセリング論②	
日本文学研究学域	日本文学専攻	概論	日本文学概論Ⅰ・Ⅱ各②	日本文学概論Ⅲ・Ⅳ各②
		講義		日本文学の内と外Ⅰ・Ⅱ各② 日本文学の光と陰Ⅰ・Ⅱ各② 日本文学応用研究Ⅰ・Ⅱ各② 日本文学の伝統と現代Ⅰ・Ⅱ各② 日本文化の周辺Ⅰ・Ⅱ各②
	日本語情報学専攻	概論	日本語学概論②	日本語史概論②
		講義		コーパス日本語学入門②* ¹ 現代日本語研究② 日本語史研究② 日本語の諸問題②
日本史研究学域	日本史学専攻	概論	日本史概論Ⅰ・Ⅱ各②	日本史学総説Ⅰ～Ⅴ各②
		講義		日本文化史Ⅰ・Ⅱ各② 日本思想史Ⅰ・Ⅱ各② 日本社会史Ⅰ・Ⅱ各②
		特殊講義		#日本史特殊講義②
	考古学・文化遺産専攻	概論	考古学・文化遺産概論Ⅰ・Ⅱ各②	
		講義		考古学・文化遺産総説Ⅰ～Ⅲ各② 世界の考古学・文化遺産② 考古科学② 文化遺産の保護と活用②
		特殊講義		#考古学特殊講義②

* 1 この科目は、日本語情報学専攻学生の受講が優先されます。

（続く）

【専門科目（文学部生全員が受講できる科目）一覧（続き）】

学域・専攻		科目区分	1 回生以上配当科目	2 回生以上配当科目	3 回生以上配当科目
東アジア研究学域	中国文学・思想専攻	概論	中国文学概論Ⅰ② 中国思想概論Ⅰ②	中国文学概論Ⅱ② 中国思想概論Ⅱ②	
		講義	漢文入門②	中国文学史Ⅰ・Ⅱ各② アジアの文学② 中国の文化Ⅰ・Ⅱ各② # 中国文学・思想研究の展開と課題② 中国文献学②	
		講読		漢文文献読解② # 中国文学・思想講読演習②	
		実習	韓国イニシエーション実習①* ² 中国イニシエーション実習①* ²	東アジア現地実習（韓国）② 東アジア現地実習（中国）④	
	東洋史学専攻	概論	東洋史概論Ⅰ・Ⅲ各②	東洋史概論Ⅱ・Ⅳ各②	
		講義	漢文入門②	東洋史学史② # 東洋史学研究の方法② 東アジア文化史の基礎知識② 東アジア民族史の基礎知識②	
		講読		漢文文献読解② # 東洋史資料講読②	
		実習	韓国イニシエーション実習①* ² 中国イニシエーション実習①* ²	東アジア現地実習（韓国）② 東アジア現地実習（中国）④	
	現代東アジア言語・文化専攻	概論	現代東アジア言語・文化概論Ⅰ②	現代東アジア言語・文化概論Ⅱ・Ⅲ各②	
		講義		東アジア現代文化論Ⅰ・Ⅱ各② 東アジア現代史論Ⅰ・Ⅱ各② 東アジア言語論② 現代中国研究Ⅰ・Ⅱ各② 現代韓国研究Ⅰ・Ⅱ各② アジアの文学②	
		実習	韓国イニシエーション実習①* ² 中国イニシエーション実習①* ²	東アジア現地実習（韓国）② 東アジア現地実習（中国）④	
		特殊講義		# 現代東アジア言語・文化特殊講義②	
国際文化学域	学域科目		イスラーム学入門②		
	英米文学専攻	概論	英米文学概論Ⅰ②	英米文学概論Ⅱ②	
		講義		英文学史Ⅰ・Ⅱ各② 米文学史Ⅰ・Ⅱ各②	
		特殊講義		# 英米文学特殊講義②	
	ヨーロッパ・イスラーム史専攻	概論	ヨーロッパ史概論Ⅰ② イスラーム史概論Ⅰ②	ヨーロッパ史概論Ⅱ② イスラーム史概論Ⅱ②	
		講義		ヨーロッパ古代史研究② ヨーロッパ中世史研究② ヨーロッパ近代史研究Ⅰ・Ⅱ各② ヨーロッパ現代史研究Ⅰ・Ⅱ各② イスラーム前近代史研究Ⅰ・Ⅱ各② イスラーム近現代史研究Ⅰ・Ⅱ各② アラビア語入門② ヨーロッパ・イスラーム関係史②	
		講読	ヨーロッパ・イスラーム史基礎 文献講読②		# アラビア語文献講読②
		演習		デジタル歴史研究②	

* 2 配当回生は1・2 回生です。

（続く）

【専門科目（文学部生全員が受講できる科目）一覧（続き）】

学域・専攻	科目区分	1 回生以上配当科目	2 回生以上配当科目	3 回生以上配当科目
国際文化学域	文化芸術専攻	概論	文化芸術概論②	
		講義	キリスト教文化史② 現代ヨーロッパ論② 説話文学論② 比較文学論② 日本・東洋美術史② 仏教と美術② 西洋美術史② ヨーロッパの建築・デザイン② 西洋音楽史② ポストコロニアル文化論② グローバルヒストリー② 宗教とイメージ② テクノロジーと文化変容② 言語と社会② 民族と芸術② 文化交流論② ジェンダーと文化② 地域と移動② 音楽と社会② 現代美術論② 表象とメディア② ヨーロッパ文化史② フランス語圏の文学② ドイツ語圏の文学② パフォーマンス・アート論② 文化人類学② 翻訳と文化② 色彩文化論②	
		特殊講義	# 文化芸術特殊講義②	
		講読	# 外国語文献リーディングⅠ・Ⅱ各② 英書リーディングⅠ・Ⅱ各② # 外国語文献リーディングⅢ・Ⅳ各②	英書リーディングⅢ・Ⅳ各②
		エリアスタディ （イタリア）	イタリアの文化とエクスプレッションⅠ・Ⅱ各② イタリアの文化とコミュニケーションⅠ・Ⅱ各② イタリア文化研究② イタリア文化講義Ⅰ・Ⅱ各②	イタリアの文化とエクスプレッションⅢ・Ⅳ各② イタリアの文化とコミュニケーションⅢ・Ⅳ各②
地域研究学域	地理学専攻	概論	自然地理学概論② 人文地理学概論② 地域観光学概論Ⅰ②	
		講義	地誌（世界）② 地誌（日本）② 環境地理学② 歴史地理学② 村落地理学② 都市地理学② 経済地理学② 文化地理学② 地域統計学② 地理情報学②	
		特殊講義		# 地理学特殊講義②
	地域観光学専攻	概論	自然地理学概論② 人文地理学概論② 地域観光学概論Ⅰ②	
		講義	地誌（世界）② 地誌（日本）② ツーリズム地域論② 地域観光文化論②	
		特殊講義		# 地域観光学特殊講義②

（続く）

【専門科目（文学部生全員が受講できる科目）一覧（続き）】

学域・専攻		科目区分	1 回生以上配当科目	2 回生以上配当科目	3 回生以上配当科目
国際コミュニケーション学域	英語圏文化専攻	概論	Introduction to the Culture of English-Speaking Regions and Societies ② Introduction to Multicultural Society in English-Speaking Regions ② Cultural History of the English Language ②		
		講義		日米関係史② 大西洋世界の文化移動と展開② ブリテン諸島周辺文化の多様性② 英語圏文化探究Ⅰ・Ⅱ各② Popular Culture in English-Speaking Regions ② Dynamism of the Pacific World ② Culture and History of English-Speaking Regions ② Introduction to Vernacular Culture ②	
	国際英語専攻	概論	Introduction to Multilingualism ② Introduction to Language Studies ②	英語学概論②	
		講義		英語文法論② 英語音声学② Englishes in Contact ② English in Society ② Issues in Language Education ② Innovations in Language Teaching ② Language and Technology ② Teaching English to Young Learners ②	
言語コミュニケーション学域	コミュニケーション表現専攻	概論	言語表現メディア概論② コミュニケーション学概論②		
		講義		コミュニケーション論② コミュニケーション表現リサーチデザイン② 言語表現メディア作品研究② マルチモーダルコミュニケーション② 文章表現基礎研究② 共生コミュニケーション演習②*3 コミュニケーション探究Ⅰ・Ⅱ各② 言語表現メディア探究②	
	言語学・日本語教育専攻	概論	言語学概論② 日本語教育学概論②		
		講義		異文化間コミュニケーション② 応用言語学② 対照言語学② 言語学探究Ⅰ・Ⅱ各② 言語科学特論②	
		演習		日本語教育事情演習②*4 共生コミュニケーション演習②*3 日本語教授法演習Ⅰ・Ⅱ各②*4	

* 3 この科目は言語コミュニケーション学域学生の受講が優先されます。

* 4 この科目は言語学・日本語教育専攻学生の受講が優先されます。

専門科目（学域・専攻科目）（続き）

②各学域・専攻の学生のみ受講できる科目

下記の学域・専攻に属する科目は、当該学域・専攻に所属している学生のみ受講できます。

【専門科目（各学域・専攻の学生のみ受講できる科目）一覧】

○の中の数字は各科目の単位数を表しています。#のついた科目は重複受講ができます。

学域・専攻	1 回生以上担当科目	2 回生以上担当科目	3 回生以上担当科目
人間研究学域	研究入門Ⅰ・Ⅱ各② 人間研究入門講義②		
	哲学・倫理学専攻	基礎講読Ⅰ・Ⅱ各② # 哲学・倫理学外書講読② # 哲学・倫理学文献講読②	
	教育人間学専攻	基礎講読Ⅰ・Ⅱ各② 教育人間学研究法Ⅰ～Ⅵ各② 教育人間学実習Ⅰ・Ⅱ各① # 教育人間学外書講読②	教育人間学実習Ⅲ・Ⅳ各①
日本文学研究学域	研究入門Ⅰ・Ⅱ各② 日本文学研究入門講義② 日本文学入門②		
	日本文学専攻	基礎講読Ⅰ・Ⅱ各② # 日本文学作品研究② # 日本語情報学文献講読②	
	日本語情報学専攻	基礎講読Ⅰ・Ⅱ各② # 日本文学作品研究② # 日本語情報学文献講読② 図書館概論② 図書館情報技術論② 図書館制度・経営論② 図書館サービス概論② 情報サービス論② 図書館情報資源概論② 情報資源組織論②	
日本史研究学域	研究入門Ⅰ・Ⅱ各② 日本史研究入門講義②		
	日本史学専攻	基礎講読Ⅰ・Ⅱ各② # 古文書学② # 日本古代史料講読演習② # 日本中世史料講読演習② # 日本近世史料講読演習② # 日本近代史料講読演習② # 日本現代史料講読演習②	
	考古学・文化遺産専攻	基礎講読Ⅰ・Ⅱ各② 考古学実習Ⅰ・Ⅱ各① 考古学実習Ⅲ② 博物館概論② 博物館経営論② 博物館資料論② 博物館資料保存論② 博物館展示論② 博物館情報・メディア論② 博物館教育論② 博物館・学内実習Ⅰ①	# 考古学・文化遺産外書講読② 博物館・館園実習①*1
東アジア研究学域	研究入門Ⅰ・Ⅱ各② 東アジア研究入門講義② 東洋学のための言語入門② 東アジアを知るための読解と表現②		
	中国文学・思想専攻	基礎講読Ⅰ・Ⅱ各② 東洋学のための情報処理②	
	東洋史学専攻	基礎講読Ⅰ・Ⅱ各② 東洋学のための情報処理②	
	現代東アジア言語・文化専攻	基礎講読Ⅰ・Ⅱ各② 東洋学のための情報処理② # 現代東アジア言語・文化講読演習②	

* 1 この科目は 4 回生以上担当科目です。

（続く）

【専門科目（各学域・専攻の学生のみ受講できる科目）一覧（続き）】

学域・専攻	1 回生以上配当科目	2 回生以上配当科目	3 回生以上配当科目
国際文化学域	研究入門Ⅰ・Ⅱ各② 国際文化入門講義②		
	英米文学専攻	英書講読（Intermediate）②* ² 基礎講読Ⅰ・Ⅱ各② 英作文法② 英文演習② 英会話Ⅰ・Ⅱ各② # 英書講読（Advanced）②	# 英語論文演習② 翻訳演習② 文芸翻訳演習②
	ヨーロッパ・イスラーム史専攻	基礎講読Ⅰ・Ⅱ各② #ヨーロッパ・イスラーム史文献講読Ⅰ・Ⅱ各②	
	文化芸術専攻	基礎講読Ⅰ・Ⅱ各②	
地域研究学域	研究入門Ⅰ・Ⅱ各② 地域研究入門講義② 地域調査入門②		
	地理学専攻	基礎講読Ⅰ・Ⅱ各② 地理学調査法② 地理学フィールドワークⅠ・Ⅱ各② 製図学および実習Ⅰ・Ⅱ各② リモートセンシング学② GIS 理論および実習Ⅰ・Ⅱ各②	測量学および実習Ⅰ・Ⅱ各③
	地域観光学専攻	基礎講読Ⅰ・Ⅱ各② 地域観光学フィールドワーク（日本）② 地域観光学フィールドワーク（世界）② 地域観光学調査法② 地域観光学のための製図② リモートセンシング学② GIS 理論および実習Ⅰ・Ⅱ各②	地域観光学フィールドワーク（発展）②
国際コミュニケーション学域	研究入門Ⅰ・Ⅱ各② 国際コミュニケーション入門講義②		
	英語圏文化専攻	基礎講読Ⅰ・Ⅱ各② # 英語文献講読② 国際コミュニケーション実習④ Academic PresentationⅠ・Ⅱ各① Academic Reading & DiscussionⅠ・Ⅱ各① Academic WritingⅠ・Ⅱ各①	翻訳研究② 通訳研究② Thesis Writing②
	国際英語専攻	基礎講読Ⅰ・Ⅱ各② 英語教育リサーチ入門② 英語科教育概論② 英語科指導法Ⅰ② 第二言語習得論② 国際コミュニケーション実習④ Academic PresentationⅠ・Ⅱ各① Academic Reading & DiscussionⅠ・Ⅱ各① Academic WritingⅠ・Ⅱ各①	英語科授業発展演習② 英語科指導法Ⅱ② 英語科授業法② Thesis Writing②
言語コミュニケーション学域	研究入門Ⅰ・Ⅱ各② 言語コミュニケーション入門講義②		
	コミュニケーション表現専攻	基礎講読Ⅰ・Ⅱ各② コミュニケーション表現法応用Ⅰ・Ⅱ各② コミュニケーション分析② 音声表現実践演習② ライティングの技法② 文章表現の編集技法②	
	言語学・日本語教育専攻	基礎講読Ⅰ・Ⅱ各② 日本語教育のための日本語文法演習② 言語学・日本語教育リサーチデザイン②	# 日本語教育研修Ⅰ② 日本語教育研修Ⅱ② 日本語教授法演習Ⅲ②

* 2 この科目は国際文化学域に所属する1回生が履修できます。

* 3 この科目は言語コミュニケーション学域に所属する1回生が履修できます。ただし、2回生以上はコミュニケーション表現専攻所属の学生のみ履修することが可能です。

専門科目（学域・専攻科目）（続き）

③ 3 回生以上専門演習・卒業論文

文学部では3回生から所属専攻の小集団科目である「専門演習」を全学生が受講し、卒業論文執筆に向けて研究を進めていきます。3回生時は「専門演習Ⅰ・Ⅱ」、4回生時は「専門演習Ⅲ・Ⅳ」を履修することが基本です。この「専門演習」のことを、通称「ゼミ」と呼びます。

上記科目の受講には、2回生の秋セメスターに事前のクラス申請が必要です。申請方法の詳細は、2回生秋セメスター時に manaba+R で公開される情報や、同時期に専攻ごとに開催される「ゼミ説明会」で確認してください。また、専攻によって3回生から4回生への進級時に再度クラス申請が必要な場合がありますので、3回生秋セメスター時に manaba+R で公開される情報を確認してください。また、希望者は専門演習の複数選択制度「2つ目の演習（ゼミ）」を活用し、自身の研究を深めていくことも可能です。

【「2つ目の演習（ゼミ）」について】

「2つ目の演習（ゼミ）」は、自分の所属専攻もしくは他専攻で開講されている他の専門演習を受講することができる制度です。本来の所属専攻のゼミを主たる専門としつつ、2つ目の演習（ゼミ）を選択・履修することによって、学問的関心や理解をいっそう深めることを目的としています。

受講にあたっては、事前の受講申請が必要です。制度および申請方法の詳細は2回生秋セメスター時に manaba+R で公開される情報を確認してください。

なお、クロスメジャーと所属専攻の両方の「専門演習」を履修した場合は、「2つ目の演習（ゼミ）」は履修できません。

【専門演習】

所 属	3 回生のみ配当科目	4 回生以上配当科目
全専攻	専門演習Ⅰ・Ⅱ各②	専門演習Ⅲ・Ⅳ各②

【卒業論文】

所 属	4 回生以上配当科目
全専攻	卒業論文④

・○の中の数字は各科目の単位数を表しています。

各専攻のカリキュラム マップ

教育目標

- ① 人間や世界の様々な文化について幅広い知識を身につけ、人文学の方法論を用いて理解をすることができる（知識・理解）
- ② 現代・過去の社会や文化に対して多面的な関心を持ち、自らの見解を形成できる（思考・判断）
- ③ 個人や文化の多様性を認め、社会の一員として行動できる（思考・判断）
- ④ 人間や文化について関心を持ち、自らの力で課題を設定し探求する意欲を持つ（関心・意欲）
- ⑤ 現代社会が抱える問題に対し、大学で学んだことをもとに主体的に解決しようとする態度を持つ（態度）
- ⑥ 自分の調査・研究の結果や、それらをふまえた自己の見解を、口頭あるいは文章や制作物の形で表現することができる（技能・表現）

人間研究学域 哲学・倫理学専攻

科目区分			科目名	配当回生	重複受講可能	コア科目	専攻学生のみ受講可	単位数	教育目標						履修方法
	学域科目	入門科目 (初年次科目)							①	②	③	④	⑤	⑥	
専門科目			人間研究入門講義	1 回生のみ		○	○	2	◎	○	○	○			履修指定
	小集団科目		研究入門Ⅰ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			研究入門Ⅱ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			基礎講読Ⅰ	2 回生のみ		○	○	2	○	○		○		◎	履修指定
			基礎講読Ⅱ	2 回生のみ		○	○	2	○	○		○		◎	履修指定
			専門演習Ⅰ	3 回生のみ	○	○		2	○	○		○		◎	履修指定
			専門演習Ⅱ	3 回生のみ	○	○		2	○	○		○		◎	履修指定
			専門演習Ⅲ	4 回生以上	○（注1）	○		2	○	○		○		◎	4 単位必修 （注2）
			専門演習Ⅳ	4 回生以上	○（注1）	○		2	○	○		○		◎	
	卒業論文		卒業論文	4 回生以上		○		4	○	○	○	○	○	◎	必修
	自専攻科目	概論	哲学概論Ⅰ	1 回生以上		○		2	◎	○		○	○		4 単位以上 履修指定
			哲学概論Ⅱ	1 回生以上		○		2	◎	○		○	○		
			哲学概論Ⅲ	2 回生以上		○		2	◎			○	○		
			倫理学概論Ⅰ	1 回生以上		○		2	◎	○		○	○		
			倫理学概論Ⅱ	1 回生以上		○		2	◎	○		○	○		
		講義	哲学史Ⅰ	2 回生以上				2	○	◎	○	○			4 単位以上 履修指定
			哲学史Ⅱ	2 回生以上				2	○	◎	○	○			
			哲学史Ⅲ	2 回生以上				2	○	◎	○	○			
			哲学史Ⅳ	2 回生以上				2	○	◎	○	○			
			哲学史Ⅴ	2 回生以上				2	○	◎	○	○			
			哲学史Ⅵ	2 回生以上				2	○	◎	○	○			
			倫理思想史Ⅰ	2 回生以上				2	○	◎	○	○			4 単位以上 履修指定
			倫理思想史Ⅱ	2 回生以上				2	○	◎	○	○			
			応用倫理Ⅰ	2 回生以上				2	○	○		○	◎		
			応用倫理Ⅱ	2 回生以上				2	○	○		○	◎		
			身体論	2 回生以上				2	○	◎	○	○			
			現象学	2 回生以上				2	○	◎		○	○		
			正義論	2 回生以上				2	○	○	○		◎		
		講読	哲学・倫理学文献講読	2 回生以上	○		○	2	○	○	○	◎		○	2 単位必修
			哲学・倫理学外書講読	2 回生以上	○		○	2	○	○	○	◎		○	4 単位必修
		特殊講義	現代哲学特殊講義	2 回生以上	○			2	○	○		○	◎		4 単位以上 履修指定
			哲学特殊講義	2 回生以上	○			2	○	◎	○	○			
			倫理学特殊講義	2 回生以上	○			2	○	◎		○	○		

1 回生配当の「人間研究入門講義」・「研究入門Ⅰ・Ⅱ」は、学域に所属する学生のみ受講可能とします。

注1) 重複受講が可能となるのは、年度を越えて同一セメスターで履修する場合に限りです。

注2) 専門演習Ⅲ・Ⅳについては合計で4単位までしか履修できません。

人間研究学域 教育人間学専攻

科目区分			科目名	配当回生	重複受講可能	コア科目	専攻学生のみ受講可	単位数	教育目標						履修方法
									①	②	③	④	⑤	⑥	
専門科目	学域科目	入門科目 (初年次科目)	人間研究入門講義	1 回生のみ		○	○	2	◎	○	○	○			履修指定
	小集団科目		研究入門Ⅰ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			研究入門Ⅱ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			基礎講読Ⅰ	2 回生のみ		○	○	2	○	◎	○	○			履修指定
			基礎講読Ⅱ	2 回生のみ		○	○	2	○	◎	○	○			履修指定
			専門演習Ⅰ	3 回生のみ	○	○		2				○	◎	○	履修指定
			専門演習Ⅱ	3 回生のみ	○	○		2				○	◎	○	履修指定
			専門演習Ⅲ	4 回生以上	○ (注1)	○		2				○	○	◎	4 単位必修 (注2)
			専門演習Ⅳ	4 回生以上	○ (注1)	○		2				○	○	◎	
	卒業論文		卒業論文	4 回生以上		○		4	○	○	○	○	○	◎	必修
	自専攻科目	概論	教育人間学概論 (人間形成)Ⅰ	1 回生以上		○		2	◎	○	○	○			4 単位履修 指定
			教育人間学概論 (臨床教育)Ⅱ	1 回生以上		○		2	◎	○	○	○			
			教育人間学概論 (心理健康)Ⅲ	1 回生以上		○		2	◎	○	○	○			
			教育人間学概論 (人間形成)Ⅳ	2 回生以上		○		2	◎	○	○	○			4 単位履修 指定
			教育人間学概論 (臨床教育)Ⅴ	2 回生以上		○		2	◎	○	○	○			
			教育人間学概論 (心理健康)Ⅵ	2 回生以上		○		2	◎	○	○	○			
		講義	教育人間学研究法Ⅰ	2 回生以上			○	2	○	◎		○	○		4 単位履修 指定
			教育人間学研究法Ⅱ	2 回生以上			○	2	○	◎		○	○		
			教育人間学研究法Ⅲ	2 回生以上			○	2	○			○	◎	○	
			教育人間学研究法Ⅳ	2 回生以上			○	2		○		○	◎	○	
			教育人間学研究法Ⅴ	2 回生以上			○	2	◎	○		○	○		
			教育人間学研究法Ⅵ	2 回生以上			○	2	◎			○	○	○	
			文化の人間学	2 回生以上				2	○	◎	○	○			4 単位履修 指定
			意識の人間学	2 回生以上				2	◎	○	○	○			
			自己の人間学	2 回生以上				2	◎	○	○	○			
			変容の人間学	2 回生以上				2	◎	○	○	○			
			超越の人間学	2 回生以上				2	◎	○	○	○			
			教育臨床の人間学	2 回生以上				2	○	○	○	○	◎		
			学校カウンセリング論	2 回生以上				2	○	○	○	◎			
		講読	教育人間学外書講読	2 回生以上	○	○	○	2	○	○	◎	○			2 単位必修
		実験実習	教育人間学実習Ⅰ	2 回生以上		○	○	1		◎				○	必修
			教育人間学実習Ⅱ	2 回生以上		○	○	1		◎				○	必修
			教育人間学実習Ⅲ	3 回生のみ		○	○	1		◎				○	履修指定
			教育人間学実習Ⅳ	3 回生のみ		○	○	1		◎				○	履修指定

1 回生配当の「人間研究入門講義」・「研究入門Ⅰ・Ⅱ」は、学域に所属する学生のみ受講可能とします。

注1) 重複受講が可能となるのは、年度を越えて同一セメスターで履修する場合に限ります。

注2) 専門演習Ⅲ・Ⅳについては合計で4単位までしか履修できません。

日本文学研究学域 日本文学専攻

科目区分			科 目 名	配当回生	重複受講 可能	コア 科目	専攻学 生のみ 受講可	単 位 数	教育目標						履修方法
									①	②	③	④	⑤	⑥	
専門科目	学域	入門科目 (初年次科目)	日本文学研究入門講義	1 回生のみ		○	○	2	◎	○		○			履修指定
			日本文献学入門	1 回生のみ		○	○	2	◎	○		○			履修指定
	小集団科目		研究入門Ⅰ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			研究入門Ⅱ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			基礎講読Ⅰ	2 回生のみ		○	○	2	○	○		◎		○	履修指定
			基礎講読Ⅱ	2 回生のみ		○	○	2	○	○		◎		○	履修指定
			専門演習Ⅰ	3 回生のみ	○	○		2	○	○		◎	○	○	履修指定
			専門演習Ⅱ	3 回生のみ	○	○		2	○	○		◎	○	○	履修指定
			専門演習Ⅲ	4 回生以上	○（注 1）	○		2	○	○		○	○	◎	4 単位必修 （注 2）
			専門演習Ⅳ	4 回生以上	○（注 1）	○		2	○	○		○	○	◎	
	卒業論文		卒業論文	4 回生以上		○		4	○	○	○	○	○	◎	必修
	自専攻科目	概論	日本文学概論Ⅰ	1 回生以上		○		2	◎	○					2 単位以上 履修指定
			日本文学概論Ⅱ	1 回生以上		○		2	◎	○					
			日本文学概論Ⅲ	2 回生以上				2	◎	○					
			日本文学概論Ⅳ	2 回生以上				2	◎	○					
		講義	日本文学の内と外Ⅰ	2 回生以上				2	○	◎	○				
			日本文学の内と外Ⅱ	2 回生以上				2	○	◎	○				
			日本文学の光と陰Ⅰ	2 回生以上				2	○	◎	○				
			日本文学の光と陰Ⅱ	2 回生以上				2	○	◎	○				
			日本文学応用研究Ⅰ	2 回生以上				2	○	◎	○				
			日本文学応用研究Ⅱ	2 回生以上				2	○	◎	○				
			日本文学の伝統と現代Ⅰ	2 回生以上				2	○	◎	○				
			日本文学の伝統と現代Ⅱ	2 回生以上				2	○	◎	○				
			日本文化の周辺Ⅰ	2 回生以上				2	◎	○		○			
			日本文化の周辺Ⅱ	2 回生以上				2	◎	○		○			
		講読	日本文学作品研究	2 回生以上	○	○	○ 学域学 生のみ	2	○	○		◎		○	6 単位以上 必修 (8 単位以上 履修指定)
			日本語情報学文献講読	2 回生以上	○	○	○ 学域学 生のみ	2	○	◎				○	

1 回生配当の「日本文学研究入門講義」・「研究入門Ⅰ・Ⅱ」は、学域に所属する学生のみ受講可能とします。

注 1) 重複受講が可能となるのは、年度を越えて同一セメスターで履修する場合に限ります。

注 2) 専門演習Ⅲ・Ⅳについては合計で 4 単位までしか履修できません。

日本文学研究学域 日本語情報学専攻

科目区分			科目名	配当回生	重複受講可能	コア科目	専攻学生のみ受講可	単位数	教育目標						履修方法
									①	②	③	④	⑤	⑥	
専門科目	学域	入門科目 (初年次科目)	日本文学研究入門講義	1 回生のみ		○	○	2	◎	○		○			履修指定
			日本文献学入門	1 回生のみ		○	○	2	◎	○		○			履修指定
	小集団科目		研究入門Ⅰ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			研究入門Ⅱ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			基礎講読Ⅰ	2 回生のみ		○	○	2		◎		○		○	履修指定
			基礎講読Ⅱ	2 回生のみ		○	○	2		◎		○		○	履修指定
			専門演習Ⅰ	3 回生のみ	○	○		2			○	◎	○	○	履修指定
			専門演習Ⅱ	3 回生のみ	○	○		2			○	◎	○	○	履修指定
			専門演習Ⅲ	4 回生以上	○ (注1)	○		2			○	◎	○	○	4 単位必修 (注2)
			専門演習Ⅳ	4 回生以上	○ (注1)	○		2			○	◎	○	○	
			卒業論文	卒業論文	4 回生以上		○	4	○	○	○	○	○	◎	必修
	自専攻科目	概論	日本語学概論	1 回生以上		○		2	◎	○					履修指定
			日本語史概論	2 回生以上		○		2	◎	○					履修指定
		講義	コーパス日本語学入門	2 回生以上		○		2	◎	○					履修指定
			現代日本語研究	2 回生以上		○		2	○	◎	○	○			
			日本語史研究	2 回生以上		○		2	○	◎	○	○			
			日本語の諸問題	2 回生以上				2		○	◎	○	○		
		講読	日本文学作品研究	2 回生以上	○	○	学域学生のみ	2	○	○		◎		○	
			日本語情報学文献講読	2 回生以上	○	○	学域学生のみ	2	○	◎				○	4 単位以上必修
		図書館 司書課程	図書館概論	2 回生以上		○	○	2	◎	○					履修指定
			図書館情報技術論	2 回生以上			○	2	○	◎			○		
			図書館制度・経営論	2 回生以上			○	2	○	◎			○		
			図書館サービス概論	2 回生以上			○	2	◎	○					履修指定
			情報サービス論	2 回生以上			○	2	○	◎			○		
			図書館情報資源概論	2 回生以上		○	○	2	◎	○					
			情報資源組織論	2 回生以上			○	2	○	◎			○		

1 回生配当の「日本文学研究入門講義」・「研究入門Ⅰ・Ⅱ」は、学域に所属する学生のみ受講可能とします。

図書館司書課程科目について、当該専攻所属者には専門科目として開講します。

注1) 重複受講が可能となるのは、年度を越えて同一セメスターで履修する場合に限ります。

注2) 専門演習Ⅲ・Ⅳについては合計で4単位までしか履修できません。

日本史研究学域 日本史学専攻

科目区分			科 目 名	配当回生	重複受講 可能	コア 科目	専攻学 生のみ 受講可	単 位 数	教育目標						履修方法
									①	②	③	④	⑤	⑥	
専門科目	学域	入門科目 (初年次科目)	日本史研究入門講義	1 回生のみ		○	○	2	◎	○	○	○			履修指定
	小集団科目		研究入門Ⅰ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			研究入門Ⅱ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			基礎講読Ⅰ	2 回生のみ		○	○	2			○	◎	○	○	履修指定
			基礎講読Ⅱ	2 回生のみ		○	○	2			○	◎	○	○	履修指定
			専門演習Ⅰ	3 回生のみ	○	○	2				○	◎	○		履修指定
			専門演習Ⅱ	3 回生のみ	○	○	2				○	○	◎		履修指定
			専門演習Ⅲ	4 回生以上	○（注 1）	○	2				○	○	◎		4 単位必修 （注 2）
			専門演習Ⅳ	4 回生以上	○（注 1）	○	2				○	◎	○		
	卒業論文		卒業論文	4 回生以上		○		4	○	○	○	○	○	◎	必修
	自専攻科目	概論	日本史概論Ⅰ	1 回生以上		○		2	◎	○	○	○			履修指定
			日本史概論Ⅱ	1 回生以上		○		2	◎	○	○	○			履修指定
		講義	日本史学総説Ⅰ	2 回生以上				2	○	○	◎				
			日本史学総説Ⅱ	2 回生以上				2	○	○	◎				
			日本史学総説Ⅲ	2 回生以上				2	○	○	◎				
			日本史学総説Ⅳ	2 回生以上				2	○	○	◎				
			日本史学総説Ⅴ	2 回生以上				2	○	○	◎				
			日本文化史Ⅰ	2 回生以上				2	○	◎	○				
			日本文化史Ⅱ	2 回生以上				2	○	◎	○				
			日本思想史Ⅰ	2 回生以上				2	○	◎	○				
			日本思想史Ⅱ	2 回生以上				2	○	◎	○				
			日本社会史Ⅰ	2 回生以上				2	○	◎	○				
			日本社会史Ⅱ	2 回生以上				2	○	◎	○				
			古文書学	2 回生以上	○	○	○	2				◎	○	○	4 単位以上 履修指定
		講読	日本古代史料講読演習	2 回生以上	○	○	○	2				○	○	◎	4 単位以上 必修
			日本中世史料講読演習	2 回生以上	○	○	○	2				○	○	◎	
日本近世史料講読演習			2 回生以上	○	○	○	2				○	○	◎		
日本近代史料講読演習			2 回生以上	○	○	○	2				○	○	◎		
日本現代史料講読演習			2 回生以上	○	○	○	2				○	○	◎		
特殊講義		日本史特殊講義	3 回生以上	○			2	○	◎	○					

1回生配当の「日本史研究入門講義」・「研究入門Ⅰ・Ⅱ」は、学域に所属する学生のみ受講可能とします。

注1) 重複受講が可能となるのは、年度を越えて同一セメスターで履修する場合に限ります。

注2) 専門演習Ⅲ・Ⅳについては合計で4単位までしか履修できません。

日本史研究学域 考古学・文化遺産専攻

科目区分			科目名	配当回生	重複受講可能	コア科目	専攻学生のみ受講可	単位数	教育目標						履修方法
									①	②	③	④	⑤	⑥	
専門科目	学域	入門科目 (初年次科目)	日本史研究入門講義	1 回生のみ		○	○	2	◎	○	○	○			履修指定
	小集団科目		研究入門Ⅰ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			研究入門Ⅱ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			基礎講読Ⅰ	2 回生のみ		○	○	2		○	○	○		◎	履修指定
			基礎講読Ⅱ	2 回生のみ		○	○	2		○	○	○		◎	履修指定
			専門演習Ⅰ	3 回生のみ	○	○		2		○	○	○		◎	履修指定
			専門演習Ⅱ	3 回生のみ	○	○		2		○	○	○		◎	履修指定
			専門演習Ⅲ	4 回生以上	○ (注1)	○		2			○	○	◎	○	4 単位必修 (注2)
			専門演習Ⅳ	4 回生以上	○ (注1)	○		2			○	○	◎	○	
	卒業論文		卒業論文	4 回生以上		○		4	○	○	○	○	○	◎	必修
	自専攻科目	概論	考古学・文化遺産概論Ⅰ	1 回生以上		○		2	◎	○	○		○		履修指定
			考古学・文化遺産概論Ⅱ	1 回生以上		○		2	◎	○	○		○		履修指定
		講義	考古学・文化遺産総説Ⅰ	2 回生以上		○		2	◎	○	○		○		4 単位履修 指定
			考古学・文化遺産総説Ⅱ	2 回生以上		○		2	◎	○	○		○		
			考古学・文化遺産総説Ⅲ	2 回生以上		○		2	◎	○	○		○		
			世界の考古学・文化遺産	2 回生以上				2	○	○	◎	○			
			考古科学	2 回生以上				2	◎	○	○		○		
			文化遺産の保護と活用	2 回生以上				2		○	○	○	◎		
		実習	考古学実習Ⅰ	2 回生以上		○	○	1			○	○	○	◎	必修
			考古学実習Ⅱ	2 回生以上		○	○	1			○	○	○	◎	必修
			考古学実習Ⅲ	2 回生以上		○	○	2	○		○		◎	○	履修指定
		講読	考古学・文化遺産外書講読	3 回生以上	○		○	2	○	○	◎			○	履修指定
		特殊講義	考古学特殊講義	3 回生以上	○			2	○	◎	○	○			
		学芸員課程科目	博物館概論	2 回生以上			○	2		○	○	◎	○		
			博物館経営論	2 回生以上			○	2		○	○	◎	○		
			博物館資料論	2 回生以上			○	2		○	○	◎	○		
			博物館資料保存論	2 回生以上			○	2		○	○	◎	○		
			博物館展示論	2 回生以上			○	2		○	○	◎	○		
			博物館情報・メディア論	2 回生以上			○	2		○	○	◎		○	
			博物館教育論	2 回生以上			○	2		○	○	◎	○		
			博物館・学内実習Ⅰ	2 回生以上			○	1			○	○	○	◎	
			博物館・館園実習	4 回生以上			○	1			◎	○	○	○	

1 回生配当の「日本史研究入門講義」・「研究入門Ⅰ・Ⅱ」は、学域に所属する学生のみ受講可能とします。

注1) 重複受講が可能となるのは、年度を越えて同一セメスターで履修する場合に限ります。

注2) 専門演習Ⅲ・Ⅳについては合計で4単位までしか履修できません。

東アジア研究学域 中国文学・思想専攻

科目区分			科 目 名	配当回生	重複受講 可能	コア 科目	専攻学 生のみ 受講可	単 位 数	教育目標						履修方法
									①	②	③	④	⑤	⑥	
専門科目	学域	入門科目 (初年次科目)	東アジア研究入門講義	1 回生のみ		○	○	2	◎	○		○			履修指定
			東洋学のための言語入門	1 回生以上		○	○	2	○			○		◎	履修指定
			東アジアを知るための読解と表現	1 回生のみ		○	○	2	◎	○				○	履修指定
	小集団科目		研究入門Ⅰ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			研究入門Ⅱ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			基礎講読Ⅰ	2 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			基礎講読Ⅱ	2 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			専門演習Ⅰ	3 回生のみ	○	○	2		○		○	○	◎	4 単位必修 (注 2)	
			専門演習Ⅱ	3 回生のみ	○	○	2		○		○	○	◎		
			専門演習Ⅲ	4 回生以上	○ (注 1)	○	2		○		○	○	◎		
			専門演習Ⅳ	4 回生以上	○ (注 1)	○	2		○		○	○	◎		
			卒業論文	卒業論文	4 回生以上		○	4	○	○	○	○	○	◎	必修
	自専攻科目	概論	中国文学概論Ⅰ	1 回生以上		○	2	◎	○	○		○		履修指定	
			中国文学概論Ⅱ	2 回生以上		○	2	◎	○	○		○		履修指定	
			中国思想概論Ⅰ	1 回生以上		○	2	◎	○	○		○		履修指定	
			中国思想概論Ⅱ	2 回生以上		○	2	◎	○	○		○		履修指定	
		講義	漢文入門	1 回生以上		○	2	◎		○	○	○	○	履修指定	
			中国文学史Ⅰ	2 回生以上		○	2	○	○	○	◎			履修指定	
			中国文学史Ⅱ	2 回生以上		○	2	○	○	○	◎			履修指定	
			アジアの文学	2 回生以上			2	○	◎	○	○				
			中国の文化Ⅰ	2 回生以上			2	○	○	○	◎				
			中国の文化Ⅱ	2 回生以上			2	○	○	○	◎				
			中国文学・思想研究の展開と課題	2 回生以上	○		2	○	○	○	◎				
			中国文献学	2 回生以上		○	2	◎	○	○	○			履修指定	
		講義・ スキル系科目	東洋学のための情報処理	2 回生以上			○	2	○			○		◎	
		講読	漢文文献読解	2 回生以上		○	2	○		○	○		◎	履修指定	
			中国文学・思想講読演習	2 回生以上	○	○	2		○	○	○		◎	8 単位以上 必修	
		実習 エリアスタディ	韓国イニシエーション実習	1・2 回生の み				1		○	◎	○			
			中国イニシエーション実習	1・2 回生の み				1		○	◎	○			
			東アジア現地実習 (韓国)	2 回生以上				2			○	◎	○	○	
	東アジア現地実習 (中国)		2 回生以上				4			○	◎	○	○		

1 回生配当の「東アジア研究入門講義」・「研究入門Ⅰ・Ⅱ」は、学域に所属する学生のみ受講可能とします。

注 1) 重複受講が可能となるのは、年度を越えて同一セメスターで履修する場合に限ります。

注 2) 専門演習Ⅲ・Ⅳについては合計で 4 単位までしか履修できません。

東アジア研究学域 東洋史学専攻

科目区分			科 目 名	配当回生	重複受講 可能	コア 科目	専攻学 生のみ 受講可	単 位 数	教育目標						履修方法	
									①	②	③	④	⑤	⑥		
専門科目	学域	入門科目 (初年次科目)	東アジア研究入門講義	1 回生のみ		○	○	2	◎	○		○			履修指定	
			東洋学のための言語入門	1 回生以上		○	○	2	○			○		◎	履修指定	
			東アジアを知るための読解と表現	1 回生のみ		○	○	2	◎	○				○	履修指定	
	小集団科目		研究入門Ⅰ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定	
			研究入門Ⅱ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定	
			基礎講読Ⅰ	2 回生のみ		○	○	2	○	○		◎	○	○	履修指定	
			基礎講読Ⅱ	2 回生のみ		○	○	2	○	○		◎	○	○	履修指定	
			専門演習Ⅰ	3 回生のみ	○	○		2		○	○	○	○	◎	履修指定	
			専門演習Ⅱ	3 回生のみ	○	○		2		○	○	○	○	◎	履修指定	
			専門演習Ⅲ	4 回生以上	○（注 1）	○		2		○	○	○	○	◎	4 単位必修 （注 2）	
			専門演習Ⅳ	4 回生以上	○（注 1）	○		2		○	○	○	○	◎		
			卒業論文	卒業論文	4 回生以上		○		4	○	○	○	○	○	◎	必修
	自専攻科目	概論	東洋史概論Ⅰ	1 回生以上		○		2	◎	○	○	○			履修指定	
			東洋史概論Ⅱ	2 回生以上		○		2	◎	○	○	○			履修指定	
			東洋史概論Ⅲ	1 回生以上		○		2	◎	○	○	○			履修指定	
			東洋史概論Ⅳ	2 回生以上		○		2	◎	○	○	○			履修指定	
		講義	漢文入門	1 回生以上		○		2	◎		○	○	○	○	履修指定	
			東洋史学史	2 回生以上				2	○	◎		○	○			
			東洋史学研究の方法	2 回生以上	○	○		2	○	◎	○	○			履修指定	
			東アジア文化史の基礎知識	2 回生以上				2	○	◎	○	○				
			東アジア民族史の基礎知識	2 回生以上				2	○	◎	○	○				
		講義・ スキル系科目	東洋学のための情報処理	2 回生以上			○	2	○			○		◎		
		講読	漢文文献読解	2 回生以上		○		2	◎	○		○			履修指定	
			東洋史資料講読	2 回生以上	○	○		2	○	○		◎		○	8 単位以上 必修	
		実習 エリアスタディ		韓国イニシエーション実習	1・2 回生の み				1		○	◎	○			
				中国イニシエーション実習	1・2 回生の み				1		○	◎	○			
				東アジア現地実習（韓国）	2 回生以上				2			○	◎	○	○	
				東アジア現地実習（中国）	2 回生以上				4			○	◎	○	○	

1 回生配当の「東アジア研究入門講義」・「研究入門Ⅰ・Ⅱ」は、学域に所属する学生のみ受講可能とします。

注1) 重複受講が可能となるのは、年度を越えて同一セメスターで履修する場合に限ります。

注2) 専門演習Ⅲ・Ⅳについては合計で4単位までしか履修できません。

東アジア研究学域 現代東アジア言語・文化専攻

科目区分			科 目 名	配当回生	重複受講 可能	コア 科目	専攻学 生のみ 受講可	単 位 数	教育目標						履修方法
									①	②	③	④	⑤	⑥	
専門科目	学域	入門科目 (初年次科目)	東アジア研究入門講義	1 回生のみ		○	○	2	◎	○		○			履修指定
			東洋学のための言語入門	1 回生以上		○	○	2	○			○		◎	履修指定
			東アジアを知るための読解と表現	1 回生のみ		○	○	2	◎	○				○	履修指定
	小集団科目		研究入門Ⅰ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			研究入門Ⅱ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			基礎講読Ⅰ	2 回生のみ		○	○	2	◎	○	○				履修指定
			基礎講読Ⅱ	2 回生のみ		○	○	2	◎	○	○				履修指定
			専門演習Ⅰ	3 回生のみ	○	○	2			○	◎	○			履修指定
			専門演習Ⅱ	3 回生のみ	○	○	2			○	◎	○			履修指定
			専門演習Ⅲ	4 回生以上	○（注 1）	○	2				○	○	◎	4 単位必修 （注 2）	
			専門演習Ⅳ	4 回生以上	○（注 1）	○	2				○	○	◎		
	卒業論文		卒業論文	4 回生以上		○		4	○	○	○	○	○	◎	必修
	自専攻科目	概論	現代東アジア言語・文化概論Ⅰ	1 回生以上		○		2	○	◎		○			履修指定
			現代東アジア言語・文化概論Ⅱ	2 回生以上		○		2	◎	○		○			履修指定
			現代東アジア言語・文化概論Ⅲ	2 回生以上		○		2	◎	○					履修指定
		講義	東アジア現代文化論Ⅰ	2 回生以上				2	◎	○					
			東アジア現代文化論Ⅱ	2 回生以上				2	◎	○					
			東アジア現代史論Ⅰ	2 回生以上				2	◎	○					
			東アジア現代史論Ⅱ	2 回生以上				2	◎	○					
			東アジア言語論	2 回生以上				2	◎	○					
			現代中国研究Ⅰ	2 回生以上				2	○	○		○	◎		
			現代中国研究Ⅱ	2 回生以上				2	○	○		○	◎		
			現代韓国研究Ⅰ	2 回生以上				2	○	○		○	◎		
			現代韓国研究Ⅱ	2 回生以上				2	○	○		○	◎		
			アジアの文学	2 回生以上				2	○	◎	○	○			
		講義・ スキル系科目	東洋学のための情報処理	2 回生以上			○	2	○			○		◎	
		講読	現代東アジア言語・文化講読演習	2 回生以上	○	○	○	2	◎			○			6 単位以上 必修
		特殊講義	現代東アジア言語・文化特殊講義	2 回生以上	○			2	◎			○	○		
		実習 エリアスタディ	韓国イニシエーション実習	1・2 回生のみ				1		○	◎	○			
			中国イニシエーション実習	1・2 回生のみ				1		○	◎	○			
			東アジア現地実習（韓国）	2 回生以上				2			○	◎	○	○	
			東アジア現地実習（中国）	2 回生以上				4			○	◎	○	○	

1 回生配当の「東アジア研究入門講義」・「研究入門Ⅰ・Ⅱ」は、学域に所属する学生のみ受講可能とします。

注 1) 重複受講が可能となるのは、年度を越えて同一セメスターで履修する場合に限ります。

注 2) 専門演習Ⅲ・Ⅳについては合計で 4 単位までしか履修できません。

国際文化学域 英米文学専攻

科目区分			科 目 名	配当回生	重複受講 可能	コア 科目	専攻学 生のみ 受講可	単 位 数	教育目標						履修方法
									①	②	③	④	⑤	⑥	
専門科目	学域	入門科目 (初年次科目)	国際文化入門講義	1 回生のみ		○	○	2	◎	○	○	○			履修指定
			イスラーム学入門	1 回生のみ				2	◎	○		○			
	小集団科目		研究入門Ⅰ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			研究入門Ⅱ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			基礎講読Ⅰ	2 回生のみ		○	○	2		○	○	◎	○		履修指定
			基礎講読Ⅱ	2 回生のみ		○	○	2		○	○	◎	○		履修指定
			専門演習Ⅰ	3 回生のみ	○	○	2		○	○	○	◎		履修指定	
			専門演習Ⅱ	3 回生のみ	○	○	2		○	○	○	◎		履修指定	
			専門演習Ⅲ	4 回生以上	○（注 1）	○	2			○	○	○	◎	4 単位必修 （注 2）	
			専門演習Ⅳ	4 回生以上	○（注 1）	○	2			○	○	○	◎		
	卒業論文		卒業論文	4 回生以上		○		4	○	○	○	○	○	◎	必修
	自専攻科目	概論	英米文学概論Ⅰ	1 回生以上		○		2	◎	○	○				履修指定
			英米文学概論Ⅱ	2 回生以上		○		2	◎	○	○				履修指定
		講義	英文学史Ⅰ	2 回生以上		○		2	○	◎	○				履修指定
			英文学史Ⅱ	2 回生以上		○		2	○	◎	○				履修指定
			米文学史Ⅰ	2 回生以上		○		2	○	◎	○				履修指定
			米文学史Ⅱ	2 回生以上		○		2	○	◎	○				履修指定
		講読	英書講読（Intermediate）	1 回生のみ			○ 学域学生	2	○	◎	○				
			英書講読（Advanced）	2 回生以上	○		○	2		○	◎	○			4 単位以上 必修
		演習	英作文法	2 回生以上			○（注3）	2		○	◎	○	○		必修
			英文演習	2 回生以上			○（注3）	2		○	◎	○	○		必修
			英会話Ⅰ	2 回生以上			○（注3）	2		○	◎	○	○		
			英会話Ⅱ	2 回生以上			○（注3）	2		○	◎	○	○		
			英語論文演習	3 回生以上	○		○	2		○	○	◎	○		
			翻訳演習	3 回生以上			○	2	○		○	◎	○		
			文芸翻訳演習	3 回生以上			○	2	○		○	◎	○		
	特殊講義	英米文学特殊講義	2 回生以上	○			2	○	◎			○			

1 回生配当の「国際文化入門講義」・「研究入門Ⅰ・Ⅱ」は、学域に所属する学生のみ受講可能とします。

注1) 重複受講が可能となるのは、年度を越えて同一セメスターで履修する場合に限ります。

注2) 専門演習Ⅲ・Ⅳについては合計で4単位までしか履修できません。

注3) 英語圏文化専攻および国際英語専攻を除く各専攻の英語免許取得希望者については、英米文学専攻以外でも履修を許可します。

国際文化学域 ヨーロッパ・イスラーム史専攻

科目区分			科 目 名	配当回生	重複受講 可能	コア 科目	専攻学 生のみ 受講可	単 位 数	教育目標						履修方法	
									①	②	③	④	⑤	⑥		
専門科目	学域	入門科目 (初年次科目)	国際文化入門講義	1 回生のみ		○	○	2	◎	○	○	○			履修指定	
			イスラーム学入門	1 回生のみ				2	◎	○		○				
	小集団科目	研究入門Ⅰ	1 回生のみ			○	○	2	○	◎		○		○	履修指定	
		研究入門Ⅱ	1 回生のみ			○	○	2	○	◎		○		○	履修指定	
		基礎講読Ⅰ	2 回生のみ			○	○	2	○	◎		○		○	履修指定	
		基礎講読Ⅱ	2 回生のみ			○	○	2	○	◎		○		○	履修指定	
		専門演習Ⅰ	3 回生のみ	○		○		2		○	○	○	◎	○	履修指定	
		専門演習Ⅱ	3 回生のみ	○		○		2		○	○	○	◎	○	履修指定	
		専門演習Ⅲ	4 回生以上	○（注 1）	○		2			○	○	○	◎		4 単位必修 （注 2）	
		専門演習Ⅳ	4 回生以上	○（注 1）	○		2			○	○	○	◎			
	卒業論文		卒業論文	4 回生以上		○		4	○	○	○	○	○	◎	必修	
	自専攻科目	概論	ヨーロッパ史概論Ⅰ	1 回生以上		○		2	◎	○	○					履修指定
			ヨーロッパ史概論Ⅱ	2 回生以上		○		2	◎	○		○				履修指定
			イスラーム史概論Ⅰ	1 回生以上		○		2	◎	○	○					履修指定
			イスラーム史概論Ⅱ	2 回生以上		○		2	◎	○		○				履修指定
		講義	ヨーロッパ古代史研究	2 回生以上					2	○	○		◎	○		
			ヨーロッパ中世史研究	2 回生以上					2	○	○		◎	○		
			ヨーロッパ近代史研究Ⅰ	2 回生以上					2	○	○		◎	○		
			ヨーロッパ近代史研究Ⅱ	2 回生以上					2	○	○		◎	○		
			ヨーロッパ現代史研究Ⅰ	2 回生以上					2	○	○		◎	○		
			ヨーロッパ現代史研究Ⅱ	2 回生以上					2	○	○		◎	○		
			イスラーム前近代史研究Ⅰ	2 回生以上					2	○	○		◎	○		
			イスラーム前近代史研究Ⅱ	2 回生以上					2	○	○		◎	○		
			イスラーム近現代史研究Ⅰ	2 回生以上					2	○	○		◎	○		
			イスラーム近現代史研究Ⅱ	2 回生以上					2	○	○		◎	○		
			ヨーロッパ・イスラーム関係史	2 回生以上					2	○	◎		○	○		
			アラビア語入門	2 回生以上					2	○	○	◎		○	○	
		講読	ヨーロッパ・イスラーム史基礎文献講読	1 回生以上					2	◎	○	○	○		○	
			ヨーロッパ・イスラーム史文献講読Ⅰ	2 回生以上	○			○	2	○	◎	○	○		○	履修指定
			ヨーロッパ・イスラーム史文献講読Ⅱ	2 回生以上	○			○	2	○	◎	○	○		○	
			アラビア語文献講読	3 回生以上	○				2	○	○	○		◎	○	
		演習	デジタル歴史研究	2 回生以上					2	○	○			◎		

1 回生配当の「国際文化入門講義」「研究入門Ⅰ・Ⅱ」は、学域に所属する学生のみ受講可能とします。

注1) 重複受講が可能となるのは、年度を越えて同一セメスターで履修する場合に限ります。

注2) 専門演習Ⅲ・Ⅳについては合計で4単位までしか履修できません。

国際文化学域 文化芸術専攻

科目区分			科 目 名	配当回生	重複受講 可能	コア 科目	専攻学 生のみ 受講可	単 位 数	教育目標						履修方法
									①	②	③	④	⑤	⑥	
専門科目	学域	入門科目 (初年次科目)	国際文化入門講義	1 回生のみ		○	○	2	◎	○	○	○			履修指定
			イスラーム学入門	1 回生のみ				2	◎	○		○			
	小集団科目	研究入門Ⅰ	1 回生のみ			○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
		研究入門Ⅱ	1 回生のみ			○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
		基礎講読Ⅰ	2 回生のみ			○	○	2	○	○			◎	○	履修指定
		基礎講読Ⅱ	2 回生のみ			○	○	2	○	○			◎	○	履修指定
		専門演習Ⅰ	3 回生のみ	○				2	○			○	○	◎	履修指定
		専門演習Ⅱ	3 回生のみ	○				2	○			○	○	◎	
		専門演習Ⅲ	4 回生以上	○（注 1）				2	○			○	○	◎	4 単位必修 （注 2）
		専門演習Ⅳ	4 回生以上	○（注 1）				2	○			○	○	◎	
卒業論文		卒業論文	4 回生以上				4	○	○	○	○	○	◎	必修	
専門科目	自専攻科目	概論	文化芸術概論	1 回生以上				2	◎	○		○	○		
			講義	現代ヨーロッパ論	2 回生以上				2	○	○	○		◎	
		説話文学論		2 回生以上				2	○	○	◎	○			
		比較文学論		2 回生以上				2	○	○	◎	○			
		日本・東洋美術史		2 回生以上		○		2	◎	○	○	○			
		仏教と美術		2 回生以上				2	○	○	◎	○			
		西洋美術史		2 回生以上		○		2	◎	○	○	○			
		ヨーロッパの建築・デザイン		2 回生以上				2	○	○	◎	○			
		西洋音楽史		2 回生以上		○		2	◎	○	○	○			
		ポストコロニアル文化論		2 回生以上				2	○	○	○		◎		
		グローバルヒストリー		2 回生以上				2	○	◎	○		○		
		宗教とイメージ		2 回生以上				2	○	○	◎	○			
		テクノロジーと文化変容		2 回生以上				2	○	○	◎	○			
		言語と社会		2 回生以上				2	○	◎	○		○		
		民族と芸術		2 回生以上				2	○	○	◎	○			
		文化交流論		2 回生以上		○		2	◎	○	○	○			
		ジェンダーと文化		2 回生以上				2	○	◎	○		○		
		地域と移動		2 回生以上				2	○	◎	○		○		
		音楽と社会		2 回生以上				2	○	○	◎	○			
		現代美術論		2 回生以上				2	○	○	◎	○			
		表象とメディア		2 回生以上				2	○	○	○		◎		
		ヨーロッパ文化史		2 回生以上				2	○	○	◎	○			
		キリスト教文化史		1 回生以上				2	○	◎	○		○		
		フランス語圏の文学		2 回生以上				2	○	○	◎	○			
		ドイツ語圏の文学		2 回生以上				2	○	○	◎	○			
		パフォーミングアーツ論		2 回生以上				2	○	○	◎	○			
		文化人類学		2 回生以上				2	○	◎	○		○		
		翻訳と文化		2 回生以上				2	○	◎	○		○		
		色彩文化論	2 回生以上				2	○	○	◎	○				
	自専攻科目	講読	英書リーディングⅠ	2 回生以上				2	○	○		◎	○		4 単位履修 指定
			英書リーディングⅡ	2 回生以上				2	○	○		◎	○		
			外国語文献リーディングⅠ	1 回生以上	○			2	○	○		◎	○		
			外国語文献リーディングⅡ	1 回生以上	○			2	○	○		◎	○		
			英書リーディングⅢ	3 回生以上				2	○	○		◎	○		
			英書リーディングⅣ	3 回生以上				2	○	○		◎	○		
			外国語文献リーディングⅢ	2 回生以上	○			2	○	○		◎	○		
			外国語文献リーディングⅣ	2 回生以上	○			2	○	○		◎	○		
			特殊講義	文化芸術特殊講義	2 回生以上	○			2	○			◎	○	

科目区分			科目名	配当回生	重複受講 可能	コア 科目	専攻学 生のみ 受講可	単 位 数	教育目標						履修方法
									①	②	③	④	⑤	⑥	
専門科目	エリア スタ ディ イタ リ ア	講義	イタリアの文化とエクспRESSION I	2 回生以上				2	○	○		◎		○	
			イタリアの文化とエクспRESSION II	2 回生以上				2	○	○		◎		○	
			イタリアの文化とエクспRESSION III	3 回生以上				2	○	○		◎		○	
			イタリアの文化とエクспRESSION IV	3 回生以上				2	○	○		◎		○	
			イタリアの文化とコミュニケーション I	2 回生以上				2	○	○		◎		○	
			イタリアの文化とコミュニケーション II	2 回生以上				2	○	○		◎		○	
			イタリアの文化とコミュニケーション III	3 回生以上				2	○	○		◎		○	
			イタリアの文化とコミュニケーション IV	3 回生以上				2	○	○		◎		○	
			イタリア文化研究	2 回生以上				2	○			◎	○	○	
			イタリア文化講義 I	2 回生以上				2	○			◎	○	○	
			イタリア文化講義 II	2 回生以上				2	○			◎	○	○	

1 回生配当の「国際文化入門講義」・「研究入門Ⅰ・Ⅱ」は、学域に所属する学生のみ受講可能とします。

注 1) 重複受講が可能となるのは、年度を越えて同一セメスターで履修する場合に限ります。

注 2) 専門演習Ⅲ・Ⅳについては合計で 4 単位までしか履修できません。

地域研究学域 地理学専攻

科目区分			科目名	配当回生	重複受講可能	コア科目	専攻学生のみ受講可	単位数	教育目標						履修方法
									①	②	③	④	⑤	⑥	
専門科目	学域	入門科目 (初年次科目)	地域研究入門講義	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			地域調査入門	1 回生以上		○	○	2	○	◎		○		○	必修
	小集団科目		研究入門Ⅰ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			研究入門Ⅱ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			基礎講読Ⅰ	2 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			基礎講読Ⅱ	2 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			専門演習Ⅰ	3 回生のみ	○	○		2		○	○	○	○	◎	履修指定
			専門演習Ⅱ	3 回生のみ	○	○		2		○	○	○	○	◎	履修指定
			専門演習Ⅲ	4 回生以上	○ (注1)	○		2		○	○	○	○	◎	4 単位必修 (注2)
			専門演習Ⅳ	4 回生以上	○ (注1)	○		2		○	○	○	○	◎	
			卒業論文	卒業論文	4 回生以上		○	4	○	○	○	○	○	◎	必修
	自専攻科目	概論	自然地理学概論	1 回生以上		○		2	○	◎	○				履修指定
			人文地理学概論	1 回生以上		○		2	○	◎	○				履修指定
			地域観光学概論Ⅰ	1 回生以上		○		2	○	◎	○				履修指定
		講義	地誌 (世界)	1 回生以上				2	◎	○	○				
			地誌 (日本)	1 回生以上				2	◎	○	○				
			環境地理学	2 回生以上				2		◎			○		
			歴史地理学	2 回生以上				2	○	◎	○				
			村落地理学	2 回生以上				2	○	◎	○				
			都市地理学	2 回生以上				2	○	◎	○				
			経済地理学	2 回生以上				2	○	◎	○				
			文化地理学	2 回生以上				2	○	◎	○	○			
			リモートセンシング学	2 回生以上			○	2		○			◎		
			地域統計学	2 回生以上				2		◎			○		
			地理情報学	2 回生以上				2		◎			○		
		実習	地理学調査法	2 回生以上			○	2		○		○	○	◎	
			地理学フィールドワークⅠ	2 回生以上			○	2				◎	○	○	
			地理学フィールドワークⅡ	2 回生以上			○	2				◎	○	○	
			製図学および実習Ⅰ	2 回生以上			○	2				○		◎	
			製図学および実習Ⅱ	2 回生以上			○	2				○		◎	
			GIS 理論および実習Ⅰ	2 回生以上			○	2				○	○	◎	
			GIS 理論および実習Ⅱ	2 回生以上			○	2				○	○	◎	
			測量学および実習Ⅰ	3 回生以上			○	3				○		◎	
			測量学および実習Ⅱ	3 回生以上			○	3				○		◎	
	特殊講義		地理学特殊講義	3 回生以上	○			2	○	◎	○		○		

1 回生配当の「地域研究入門講義」・「研究入門Ⅰ・Ⅱ」は、学域に所属する学生のみ受講可能とします。

注1) 重複受講が可能となるのは、年度を越えて同一セメスターで履修する場合に限ります。

注2) 専門演習Ⅲ・Ⅳについては合計で4単位までしか履修できません。

地域研究学域 地域観光学専攻

科目区分			科目名	配当回生	重複受講可能	コア科目	専攻学生のみ受講可	単位数	教育目標						履修方法
									①	②	③	④	⑤	⑥	
専門科目	学域	入門科目 (初年次科目)	地域研究入門講義	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			地域調査入門	1 回生以上		○	○	2	○	◎		○		○	必修
	小集団科目		研究入門Ⅰ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			研究入門Ⅱ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			基礎講読Ⅰ	2 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			基礎講読Ⅱ	2 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			専門演習Ⅰ	3 回生のみ	○	○		2		○	○	○	○	◎	履修指定
			専門演習Ⅱ	3 回生のみ	○	○		2		○	○	○	○	◎	履修指定
			専門演習Ⅲ	4 回生以上	○ (注1)	○		2		○	○	○	○	◎	4 単位必修 (注2)
			専門演習Ⅳ	4 回生以上	○ (注1)	○		2		○	○	○	○	◎	
			卒業論文	卒業論文	4 回生以上		○	4	○	○	○	○	○	◎	必修
	自専攻科目	概論	自然地理学概論	1 回生以上		○		2	○	◎	○				履修指定
			人文地理学概論	1 回生以上		○		2	○	◎	○				履修指定
			地域観光学概論Ⅰ	1 回生以上		○		2	○	◎	○				履修指定
			地域観光学概論Ⅱ	2 回生以上		○		2		◎	○		○		履修指定
		講義	地誌 (世界)	1 回生以上				2	◎	○	○				
			地誌 (日本)	1 回生以上				2	◎	○	○				
			ツーリズム地域論	2 回生以上				2		○			◎		
			地域観光文化論	2 回生以上				2		○			◎		
			リモートセンシング学	2 回生以上			○	2		○			◎		
		実習	GIS 理論および実習Ⅰ	2 回生以上			○	2				○	○	◎	
			GIS 理論および実習Ⅱ	2 回生以上			○	2				○	○	◎	
			地域観光学フィールドワーク (日本)	2 回生以上			○	2		○		◎	○	○	
			地域観光学フィールドワーク (世界)	2 回生以上			○	2		○		◎	○	○	
			地域観光学フィールドワーク (発展)	3 回生以上			○	2		○		○	◎	○	
			地域観光学調査法	2 回生以上			○	2		○		○	○	◎	
			地域観光学のための製図	2 回生以上			○	2				○		◎	
		特殊講義	地域観光学特殊講義	3 回生以上	○			2		◎	○		○		

1 回生配当の「地域研究入門講義」・「研究入門Ⅰ・Ⅱ」は、学域に所属する学生のみ受講可能とします。

注1) 重複受講が可能となるのは、年度を越えて同一セメスターで履修する場合に限ります。

注2) 専門演習Ⅲ・Ⅳについては合計で4単位までしか履修できません。

国際コミュニケーション学域 英語圏文化専攻

科目区分			科 目 名	配当回生	重複受講 可能	コア 科目	専攻学 生のみ 受講可	単 位 数	教育目標						履修方法
									①	②	③	④	⑤	⑥	
専門科目	学域	入門科目 (初年次科目)	国際コミュニケーション入門講義	1 回生のみ		○		2	◎	○	○	○			履修指定
		小集団科目	研究入門Ⅰ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
	研究入門Ⅱ		1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定	
	基礎講読Ⅰ		2 回生のみ		○	○	2	○	◎		○	○		履修指定	
	基礎講読Ⅱ		2 回生のみ		○	○	2	○	◎		○	○		履修指定	
	専門演習Ⅰ		3 回生のみ	○	○		2		○		○	◎	○	履修指定	
	専門演習Ⅱ		3 回生のみ	○	○		2		○		○	◎	○	履修指定	
	専門演習Ⅲ		4 回生以上	○（注 1）	○		2		○		○	◎	○	4 単位必修 （注 2）	
	専門演習Ⅳ		4 回生以上	○（注 1）	○		2		○		○	◎	○		
	卒業論文		卒業論文	4 回生以上		○		4	○	○	○	○	○	◎	必修
	自専攻科目	概論	Introduction to the Culture of English-Speaking Regions and Societies	1 回生以上		○		2	◎	○		○			4 単位以上 履修指定
			Introduction to Multicultural Society in English-Speaking Regions	1 回生以上		○		2	◎	○		○			
			Cultural History of the English Language	1 回生以上		○		2	◎	○		○			
		講義	日米関係史	2 回生以上				2	○	○	◎	○			
			大西洋世界の文化移動と展開	2 回生以上				2	○	○		◎	○		
			ブリテン諸島周辺文化の多様性	2 回生以上				2	○	◎		○	○		
			英語圏文化探究Ⅰ	2 回生以上				2		○	◎	○	○		
			英語圏文化探究Ⅱ	2 回生以上				2		○	◎	○	○		
			Popular Culture in English- Speaking Regions	2 回生以上				2	○	◎		○	○		
			Dynamism of the Pacific World	2 回生以上				2	○	○		◎	○		
			Culture and History of English Speaking Regions	2 回生以上				2	○	○		◎	○		
			Introduction to Vernacular Culture	2 回生以上				2		○	◎	○	○		
		講読	英語文献講読	2 回生以上	○		○	2	○	○				◎	履修指定
		実習	国際コミュニケーション実習	2 回生以上			○	4		○	○	○	○	◎	
		演習	翻訳研究	3 回生以上			○	2			○		○	◎	
			通訳研究	3 回生以上			○	2			○		○	◎	
		E A P 科目	運用のための文法活用	1 回生以上			○	2	◎					○	
			Academic PresentationⅠ	2 回生以上		○	○	1		○		○		◎	履修指定
			Academic PresentationⅡ	2 回生以上		○	○	1		○		○		◎	履修指定
			Academic Reading & DiscussionⅠ	2 回生以上		○	○	1		○		○		◎	履修指定
			Academic Reading & DiscussionⅡ	2 回生以上		○	○	1		○		○		◎	履修指定
			Academic WritingⅠ	2 回生以上		○	○	1		○		○		◎	必修
			Academic WritingⅡ	2 回生以上		○	○	1		○		○		◎	必修
			Thesis Writing	3 回生以上		○	○	2		○		○		◎	必修

1 回生配当の「国際コミュニケーション入門講義」・「研究入門Ⅰ・Ⅱ」は、学域に所属する学生のみ受講可能とします。

注1) 重複受講が可能となるのは、年度を越えて同一セメスターで履修する場合に限ります。

注2) 専門演習Ⅲ・Ⅳについては合計で4単位までしか履修できません。

国際コミュニケーション学域 国際英語専攻

科目区分			科目名	配当回生	重複受講可能	コア科目	専攻学生のみ受講可	単位数	教育目標						履修方法
									①	②	③	④	⑤	⑥	
専門科目	学域	入門科目 (初年次科目)	国際コミュニケーション入門講義	1 回生のみ		○		2	◎	○	○	○			履修指定
	小集団科目	研究入門Ⅰ	研究入門Ⅰ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
		研究入門Ⅱ	研究入門Ⅱ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
		基礎講読Ⅰ	基礎講読Ⅰ	2 回生のみ		○	○	2	○	◎		○	○		履修指定
		基礎講読Ⅱ	基礎講読Ⅱ	2 回生のみ		○	○	2	○	◎		○	○		履修指定
		専門演習Ⅰ	専門演習Ⅰ	3 回生のみ	○	○		2		○		○	◎	○	履修指定
		専門演習Ⅱ	専門演習Ⅱ	3 回生のみ	○	○		2		○		○	◎	○	履修指定
		専門演習Ⅲ	専門演習Ⅲ	4 回生以上	○ (注1)	○		2		○		○	◎	○	4 単位必修 (注2)
		専門演習Ⅳ	専門演習Ⅳ	4 回生以上	○ (注1)	○		2		○		○	◎	○	
	卒業論文		卒業論文	4 回生以上		○		4	○	○	○	○	○	◎	必修
	自専攻科目	概論	Introduction to Multilingualism	1 回生以上		○		2	○	○	◎	○			4 単位以上 履修指定
			Introduction to Language Studies	1 回生以上		○		2	◎	○		○			
			英語学概論	2 回生以上		○		2	◎	○		○			
		講義	英語教育リサーチ入門	2 回生以上		○	○	2	○	◎		○			履修指定
			英語文法論	2 回生以上				2	◎	○		○			
			英語科教育概論	2 回生以上			○	2	◎	○		○	○		
			英語科指導法Ⅰ	2 回生以上			○	2	◎	○		○	○		
			英語音声学	2 回生以上				2	◎	○		○			
			第二言語習得論	2 回生以上		○	○	2	◎	○		○			履修指定
			Englishes in Contact	2 回生以上		○		2	○	○	○	○	◎		履修指定
			English in Society	2 回生以上				2	○	○	○	○	◎		
			Issues in Language Education	2 回生以上				2	○	○	○	◎	○		
			Innovations in Language Teaching	2 回生以上				2	○			○	◎		
			Language and Technology	2 回生以上				2	○		◎	○			
			Teaching English to Young Learners	2 回生以上				2	○	○	○	○	◎		
			英語科指導法Ⅱ	3 回生以上			○	2				○	◎	○	
		実習	国際コミュニケーション実習	2 回生以上			○	4		○	○	○	○	◎	
		演習	英語科授業発展演習	3 回生以上			○	2				○	◎	○	
			英語科授業法	3 回生以上			○	2				○	◎	○	
		E A P 科目	運用のための文法活用	1 回生以上			○	2	◎					○	
			Academic PresentationⅠ	2 回生以上		○	○	1		○		○		◎	履修指定
			Academic PresentationⅡ	2 回生以上		○	○	1		○		○		◎	履修指定
			Academic Reading & DiscussionⅠ	2 回生以上		○	○	1		○		○		◎	履修指定
			Academic Reading & DiscussionⅡ	2 回生以上		○	○	1		○		○		◎	履修指定
			Academic WritingⅠ	2 回生以上		○	○	1		○		○		◎	必修
			Academic WritingⅡ	2 回生以上		○	○	1		○		○		◎	必修
			Thesis Writing	3 回生以上		○	○	2		○		○		◎	必修

1 回生配当の「国際コミュニケーション入門講義」・「研究入門Ⅰ・Ⅱ」は、学域に所属する学生のみ受講可能とします。

注1) 重複受講が可能となるのは、年度を越えて同一セメスターで履修する場合に限ります。

注2) 専門演習Ⅲ・Ⅳについては合計で4単位までしか履修できません。

言語コミュニケーション学域 コミュニケーション表現専攻

科目区分			科目名	配当回生	重複受講可能	コア科目	専攻学生のみ受講可	単位数	教育目的						履修方法
									①	②	③	④	⑤	⑥	
専門科目	学域	入門科目 (初年次科目)	言語コミュニケーション入門講義	1 回生のみ		○	○	2	◎	○	○		○		履修指定
	小集団科目	研究入門Ⅰ	研究入門Ⅰ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
		研究入門Ⅱ	研究入門Ⅱ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
		基礎講読Ⅰ	基礎講読Ⅰ	2 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
		基礎講読Ⅱ	基礎講読Ⅱ	2 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
		専門演習Ⅰ	専門演習Ⅰ	3 回生のみ	○	○		2		○	○	○	○	◎	履修指定
		専門演習Ⅱ	専門演習Ⅱ	3 回生のみ	○	○		2		○	○	○	○	◎	履修指定
		専門演習Ⅲ	専門演習Ⅲ	4 回生以上	○ (注1)	○		2		○	○	○	○	◎	4 単位必修 (注2)
		専門演習Ⅳ	専門演習Ⅳ	4 回生以上	○ (注1)	○		2		○	○	○	○	◎	
	卒業論文		卒業論文	4 回生以上		○		4	○	○	○	○	○	◎	必修
	自専攻科目	概論	言語表現メディア概論	1 回生以上		○		2	◎	○	○	○			
			コミュニケーション学概論	1 回生以上		○		2	◎	○	○	○			
		講義	コミュニケーション論	2 回生以上				2	◎	○		○	○		
			コミュニケーション表現リサーチデザイン	2 回生以上				2		○		○	◎	○	履修指定
			コミュニケーション分析	2 回生以上			○	2		○		◎	○	○	
			言語表現メディア作品研究	2 回生以上				2	○	◎	○	○			
			マルチモーダルコミュニケーション	2 回生以上				2			◎	○	○		
			文章表現基礎研究	2 回生以上		○		2	◎	○		○			
			コミュニケーション探究Ⅰ	2 回生以上				2	○		○	◎	○		
			コミュニケーション探究Ⅱ	2 回生以上				2	○		○	○	◎		
			言語表現メディア探究	2 回生以上				2	○	○	○	◎	○		
		演習	コミュニケーション表現法基礎Ⅰ	1 回生以上		○	○	2		○		○		◎	
			コミュニケーション表現法基礎Ⅱ	1 回生以上		○	○	2		○		○		◎	
			コミュニケーション表現法応用Ⅰ	2 回生以上			○	2		○		○		◎	
			コミュニケーション表現法応用Ⅱ	2 回生以上			○	2		○		○		◎	
			共生コミュニケーション演習	2 回生以上				2			◎	○	○	○	
			音声表現実践演習	2 回生以上			○	2	○	○		○		◎	
			ライティングの技法	2 回生以上		○	○	2		○		○		◎	履修指定
			文章表現の編集技法	2 回生以上			○	2	○			○		◎	

1 回生配当の「言語コミュニケーション入門講義」・「研究入門Ⅰ・Ⅱ」は、学域に所属する学生のみ受講可能とします。

注1) 重複受講が可能となるのは、年度を越えて同一セメスターで履修する場合に限ります。

注2) 専門演習Ⅲ・Ⅳについては合計で4単位までしか履修できません。

言語コミュニケーション学域 言語学・日本語教育専攻

科目区分			科目名	配当回生	重複受講可能	コア科目	専攻学生のみ受講可	単位数	教育目的						履修方法
									①	②	③	④	⑤	⑥	
専門科目	学域	入門科目 (初年次科目)	言語コミュニケーション入門講義	1 回生のみ		○	○	2	◎	○	○		○		履修指定
	小集団科目		研究入門Ⅰ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			研究入門Ⅱ	1 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			基礎講読Ⅰ	2 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			基礎講読Ⅱ	2 回生のみ		○	○	2	○	◎		○		○	履修指定
			専門演習Ⅰ	3 回生のみ	○	○		2		○	○	○	○	◎	履修指定
			専門演習Ⅱ	3 回生のみ	○	○		2		○	○	○	○	◎	履修指定
			専門演習Ⅲ	4 回生以上	○ (注1)	○		2		○	○	○	○	◎	4 単位必修 (注2)
			専門演習Ⅳ	4 回生以上	○ (注1)	○		2		○	○	○	○	◎	
	卒業論文		卒業論文	4 回生以上		○		4	○	○	○	○	○	◎	必修
	自専攻科目	概論	言語学概論	1 回生以上		○		2	◎	○		○			
			日本語教育学概論	1 回生以上		○		2	◎	○		○	○		
		講義	異文化間コミュニケーション	2 回生以上				2	○	◎	○		○		
			応用言語学	2 回生以上				2	◎				○	○	
			対照言語学	2 回生以上				2	◎	○		○	○		
			言語学探究Ⅰ	2 回生以上				2	◎	○		○	○		
			言語学探究Ⅱ	2 回生以上				2	◎	○		○	○		
			言語科学特論	2 回生以上				2	◎		○	○			
		演習	日本語教育事情演習	2 回生以上				2	○	○	○		◎		
			日本語教育のための日本語文法演習	2 回生以上			○	2	◎	○		○	○		
			共生コミュニケーション演習	2 回生以上				2			◎	○	○	○	
			日本語教授法演習Ⅰ	2 回生以上				2	○	◎		○	○		
			日本語教授法演習Ⅱ	2 回生以上				2	○	◎		○	○		
			日本語教授法演習Ⅲ	3 回生以上			○	2	○	○		◎	○		
			日本語教育研修Ⅰ	3 回生以上	○		○	2	○	○		◎	○		
			日本語教育研修Ⅱ	3 回生以上			○	2		○	○	◎	○		
			言語学・日本語教育リサーチデザイン	2 回生以上		○	○	2		○		○		◎	履修指定

1 回生配当の「言語コミュニケーション入門講義」・「研究入門Ⅰ・Ⅱ」は、学域に所属する学生のみ受講可能とします。

注1) 重複受講が可能となるのは、年度を越えて同一セメスターで履修する場合に限ります。

注2) 専門演習Ⅲ・Ⅳについては合計で4単位までしか履修できません。

履修方法

人間研究学域 哲学・倫理学専攻

【必修科目】卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

科目区分	科目名	単位数	配当回生	履修条件
講 読	哲学・倫理学文献講読	2	2回生以上	2単位以上必修
	哲学・倫理学外書講読	2	2回生以上	4単位以上必修
小集団科目	専門演習Ⅲ	2	4回生以上	4単位必修
	専門演習Ⅳ	2	4回生以上	
卒業論文	卒業論文	4	4回生以上	4単位必修

【履修指定科目】必ず登録・受講しなければならない科目

科目区分	科目名	単位数	配当回生	履修条件
入門科目 (初年次科目)	人間研究入門講義	2	1回生のみ	2単位
小集団科目	研究入門Ⅰ	2	1回生のみ	2単位
	研究入門Ⅱ	2	1回生のみ	2単位
	基礎講読Ⅰ	2	2回生のみ	2単位
	基礎講読Ⅱ	2	2回生のみ	2単位
	専門演習Ⅰ	2	3回生のみ	2単位
	専門演習Ⅱ	2	3回生のみ	2単位
概 論	哲学概論Ⅰ	2	1回生以上	2科目4単位以上選択
	哲学概論Ⅱ	2	1回生以上	
	哲学概論Ⅲ	2	2回生以上	
	倫理学概論Ⅰ	2	1回生以上	
	倫理学概論Ⅱ	2	1回生以上	
講 義	哲学史Ⅰ	2	2回生以上	2科目4単位以上選択
	哲学史Ⅱ	2	2回生以上	
	哲学史Ⅲ	2	2回生以上	
	哲学史Ⅳ	2	2回生以上	
	哲学史Ⅴ	2	2回生以上	
	哲学史Ⅵ	2	2回生以上	
	倫理思想史Ⅰ	2	2回生以上	2科目4単位以上選択
	倫理思想史Ⅱ	2	2回生以上	
	応用倫理Ⅰ	2	2回生以上	
	応用倫理Ⅱ	2	2回生以上	
	身体論	2	2回生以上	
	現象学	2	2回生以上	
	正義論	2	2回生以上	
	現代哲学特殊講義	2	2回生以上	2科目4単位以上選択
特殊講義	哲学特殊講義	2	2回生以上	
	倫理学特殊講義	2	2回生以上	

【必修科目】卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

科目区分	科 目 名	単位数	配当回生	履修条件
講 読	教育人間学外書講読	2	2 回生以上	2 単位以上必修
実験実習	教育人間学実習Ⅰ	1	2 回生以上	1 単位必修
	教育人間学実習Ⅱ	1	2 回生以上	1 単位必修
小集団科目	専門演習Ⅲ	2	4 回生以上	4 単位必修
	専門演習Ⅳ	2	4 回生以上	
卒業論文	卒業論文	4	4 回生以上	4 単位必修

【履修指定科目】必ず登録・受講しなければならない科目

科目区分	科 目 名	単位数	配当回生	履修条件
入門科目 (初年次科目)	人間研究入門講義	2	1 回生のみ	2 単位
小集団科目	研究入門Ⅰ	2	1 回生のみ	2 単位
	研究入門Ⅱ	2	1 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅰ	2	2 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅱ	2	2 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅰ	2	3 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅱ	2	3 回生のみ	2 単位
概 論	教育人間学概論（人間形成）Ⅰ	2	1 回生以上	2 科目 4 単位以上選択
	教育人間学概論（臨床教育）Ⅱ	2	1 回生以上	
	教育人間学概論（心理健康）Ⅲ	2	1 回生以上	
	教育人間学概論（人間形成）Ⅳ	2	2 回生以上	2 科目 4 単位以上選択
	教育人間学概論（臨床教育）Ⅴ	2	2 回生以上	
	教育人間学概論（心理健康）Ⅵ	2	2 回生以上	
講 義	教育人間学研究法Ⅰ	2	2 回生以上	2 科目 4 単位以上選択
	教育人間学研究法Ⅱ	2	2 回生以上	
	教育人間学研究法Ⅲ	2	2 回生以上	
	教育人間学研究法Ⅳ	2	2 回生以上	
	教育人間学研究法Ⅴ	2	2 回生以上	
	教育人間学研究法Ⅵ	2	2 回生以上	
	文化の人間学	2	2 回生以上	2 科目 4 単位以上選択
	意識の人間学	2	2 回生以上	
	自己の人間学	2	2 回生以上	
	変容の人間学	2	2 回生以上	
	超越の人間学	2	2 回生以上	
	教育臨床の人間学	2	2 回生以上	
実験実習	教育人間学実習Ⅲ	1	3 回生のみ	1 単位
	教育人間学実習Ⅳ	1	3 回生のみ	1 単位

履修方法（続き）

日本文学研究学域 日本文学専攻

【必修科目】卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

科目区分	科目名	単位数	配当回生	履修条件
講 読	日本文学作品研究	2	2 回生以上	6 単位以上必修
小集団科目	専門演習Ⅲ	2	4 回生以上	4 単位必修
	専門演習Ⅳ	2	4 回生以上	
卒業論文	卒業論文	4	4 回生以上	4 単位必修

【履修指定科目】必ず登録・受講しなければならない科目

科目区分	科目名	単位数	配当回生	履修条件
入門科目 (初年次科目)	日本文学研究入門講義	2	1 回生のみ	2 単位
	日本文献学入門	2	1 回生のみ	2 単位
小集団科目	研究入門Ⅰ	2	1 回生のみ	2 単位
	研究入門Ⅱ	2	1 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅰ	2	2 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅱ	2	2 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅰ	2	3 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅱ	2	3 回生のみ	2 単位
概 論	日本文学概論Ⅰ	2	1 回生以上	1 科目 2 単位以上選択
	日本文学概論Ⅱ	2	1 回生以上	
講 読	日本文学作品研究	2	2 回生以上	上記必修科目として受講したクラス以外で、1 クラス 2 単位以上選択

日本文学研究学域 日本語情報学専攻

【必修科目】卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

科目区分	科目名	単位数	配当回生	履修方法
講 読	日本語情報学文献講読	2	2 回生以上	4 単位以上必修
小集団科目	専門演習Ⅲ	2	4 回生以上	4 単位必修
	専門演習Ⅳ	2	4 回生以上	
卒業論文	卒業論文	4	4 回生以上	4 単位必修

【履修指定科目】必ず登録・受講しなければならない科目

科目区分	科目名	単位数	配当回生	履修方法
入門科目 (初年次科目)	日本文学研究入門講義	2	1 回生のみ	2 単位
	日本文献学入門	2	1 回生のみ	2 単位
小集団科目	研究入門Ⅰ	2	1 回生のみ	2 単位
	研究入門Ⅱ	2	1 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅰ	2	2 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅱ	2	2 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅰ	2	3 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅱ	2	3 回生のみ	2 単位
概 論	日本語学概論	2	1 回生以上	2 単位
	日本語史概論	2	2 回生以上	2 単位
	図書館司書課程 図書館概論	2	2 回生以上	2 単位
	図書館サービス概論	2	2 回生以上	2 単位
講 義	コーパス日本語学入門	2	2 回生以上	2 単位

【必修科目】卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

科目区分	科 目 名	単位数	配当回生	履修条件
講 読	日本古代史料講読演習	2	2 回生以上	4 単位以上必修
	日本中世史料講読演習	2	2 回生以上	
	日本近世史料講読演習	2	2 回生以上	
	日本近代史料講読演習	2	2 回生以上	
	日本現代史料講読演習	2	2 回生以上	
小集団科目	専門演習Ⅲ	2	4 回生以上	4 単位必修
	専門演習Ⅳ	2	4 回生以上	
卒業論文	卒業論文	4	4 回生以上	4 単位必修

【履修指定科目】必ず登録・受講しなければならない科目

科目区分	科 目 名	単位数	配当回生	履修方法
入門科目 (初年次科目)	日本史研究入門講義	2	1 回生のみ	2 単位
小集団科目	研究入門Ⅰ	2	1 回生のみ	2 単位
	研究入門Ⅱ	2	1 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅰ	2	2 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅱ	2	2 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅰ	2	3 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅱ	2	3 回生のみ	2 単位
概 論	日本史概論Ⅰ	2	1 回生以上	2 単位
	日本史概論Ⅱ	2	1 回生以上	2 単位
講 義	古文書学	2	2 回生以上	4 単位以上

日本史研究学域 考古学・文化遺産専攻

【必修科目】卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

科目区分	科 目 名	単位数	配当回生	履修方法
実 習	考古学実習Ⅰ	1	2 回生以上	1 単位必修
	考古学実習Ⅱ	1	2 回生以上	1 単位必修
小集団科目	専門演習Ⅲ	2	4 回生以上	4 単位必修
	専門演習Ⅳ	2	4 回生以上	
卒業論文	卒業論文	4	4 回生以上	4 単位必修

【履修指定科目】必ず登録・受講しなければならない科目

科目区分	科 目 名	単位数	配当回生	履修方法
入門科目 (初年次科目)	日本史研究入門講義	2	1 回生のみ	2 単位
小集団科目	研究入門Ⅰ	2	1 回生のみ	2 単位
	研究入門Ⅱ	2	1 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅰ	2	2 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅱ	2	2 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅰ	2	3 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅱ	2	3 回生のみ	2 単位
概 論	考古学・文化遺産概論Ⅰ	2	1 回生以上	2 単位
	考古学・文化遺産概論Ⅱ	2	1 回生以上	2 単位
実 習	考古学実習Ⅲ	2	2 回生以上	2 単位
講 義	考古学・文化遺産総説Ⅰ	2	2 回生以上	2 科目 4 単位以上選択
	考古学・文化遺産総説Ⅱ	2	2 回生以上	
	考古学・文化遺産総説Ⅲ	2	2 回生以上	
講 読	考古学・文化遺産外書講読	2	3 回生以上	2 単位

履修方法（続き）

東アジア研究学域 中国文学・思想専攻

【必修科目】卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

科目区分	科目名	単位数	配当回生	履修条件
講 読	中国文学・思想講読演習	2	2回生以上	8単位以上必修
小集団科目	専門演習Ⅲ	2	4回生以上	4単位必修
	専門演習Ⅳ	2	4回生以上	
卒業論文	卒業論文	4	4回生以上	4単位必修

【履修指定科目】必ず登録・受講しなければならない科目

科目区分	科目名	単位数	配当回生	履修条件
入門科目 (初年次科目)	東アジア研究入門講義	2	1回生のみ	2単位
	東洋学のための言語入門	2	1回生以上	2単位
	東アジアを知るための読解と表現	2	1回生のみ	2単位
小集団科目	研究入門Ⅰ	2	1回生のみ	2単位
	研究入門Ⅱ	2	1回生のみ	2単位
	基礎講読Ⅰ	2	2回生のみ	2単位
	基礎講読Ⅱ	2	2回生のみ	2単位
	専門演習Ⅰ	2	3回生のみ	2単位
	専門演習Ⅱ	2	3回生のみ	2単位
概 論	中国文学概論Ⅰ	2	1回生以上	2単位
	中国文学概論Ⅱ	2	2回生以上	2単位
	中国思想概論Ⅰ	2	1回生以上	2単位
	中国思想概論Ⅱ	2	2回生以上	2単位
講 義	漢文入門	2	1回生以上	2単位
	中国文学史Ⅰ	2	2回生以上	2単位
	中国文学史Ⅱ	2	2回生以上	2単位
	中国文献学	2	2回生以上	2単位
講 読	漢文文献読解	2	2回生以上	2単位

【必修科目】卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

科目区分	科 目 名	単位数	配当回生	履修条件
講 読	東洋史資料講読	2	2 回生以上	8 単位以上必修
小集団科目	専門演習Ⅲ	2	4 回生以上	4 単位必修
	専門演習Ⅳ	2	4 回生以上	
卒業論文	卒業論文	4	4 回生以上	4 単位必修

【履修指定科目】必ず登録・受講しなければならない科目

科目区分	科 目 名	単位数	配当回生	履修条件
入門科目 (初年次科目)	東アジア研究入門講義	2	1 回生のみ	2 単位
	東洋学のための言語入門※	2	1 回生以上	2 単位
	東アジアを知るための読解と表現	2	1 回生のみ	2 単位
小集団科目	研究入門Ⅰ	2	1 回生のみ	2 単位
	研究入門Ⅱ	2	1 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅰ	2	2 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅱ	2	2 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅰ	2	3 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅱ	2	3 回生のみ	2 単位
概 論	東洋史概論Ⅰ	2	1 回生以上	2 単位
	東洋史概論Ⅱ	2	2 回生以上	2 単位
	東洋史概論Ⅲ	2	1 回生以上	2 単位
	東洋史概論Ⅳ	2	2 回生以上	2 単位
講 義	漢文入門※	2	1 回生以上	2 単位
	東洋史学研究の方法	2	2 回生以上	2 単位
講 読	漢文文献読解※	2	2 回生以上	2 単位

※「東洋学のための言語入門」は1回生春学期に、「漢文入門」は1回生秋学期に、「漢文文献読解」は2回生春学期にそれぞれ履修するようにしてください。

東アジア研究学域 現代東アジア言語・文化専攻

【必修科目】卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

科目区分	科 目 名	単位数	配当回生	履修条件
講 読	現代東アジア言語・文化講読演習	2	2 回生以上	6 単位以上必修
小集団科目	専門演習Ⅲ	2	4 回生以上	4 単位必修
	専門演習Ⅳ	2	4 回生以上	
卒業論文	卒業論文	4	4 回生以上	4 単位必修

【履修指定科目】必ず登録・受講しなければならない科目

科目区分	科 目 名	単位数	配当回生	履修条件
入門科目 (初年次科目)	東アジア研究入門講義	2	1 回生のみ	2 単位
	東洋学のための言語入門	2	1 回生以上	2 単位
	東アジアを知るための読解と表現	2	1 回生のみ	2 単位
小集団科目	研究入門Ⅰ	2	1 回生のみ	2 単位
	研究入門Ⅱ	2	1 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅰ	2	2 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅱ	2	2 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅰ	2	3 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅱ	2	3 回生のみ	2 単位
概 論	現代東アジア言語・文化概論Ⅰ	2	1 回生以上	2 単位
	現代東アジア言語・文化概論Ⅱ	2	2 回生以上	2 単位
	現代東アジア言語・文化概論Ⅲ	2	2 回生以上	2 単位

履修方法（続き）

国際文化学域 英米文学専攻

【必修科目】卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

科目区分	科目名	単位数	配当回生	履修条件
講 読	英書講読 (Advanced)	2	2 回生以上	4 単位以上必修
演 習	英作文法	2	2 回生以上	2 単位必修
	英文演習	2	2 回生以上	2 単位必修
小集団科目	専門演習Ⅲ	2	4 回生以上	4 単位必修
	専門演習Ⅳ	2	4 回生以上	
卒業論文	卒業論文	4	4 回生以上	4 単位必修

【履修指定科目】必ず登録・受講しなければならない科目

科目区分	科目名	単位数	配当回生	履修条件
入門科目 (初年次科目)	国際文化入門講義	2	1 回生のみ	2 単位
小集団科目	研究入門Ⅰ	2	1 回生のみ	2 単位
	研究入門Ⅱ	2	1 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅰ	2	2 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅱ	2	2 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅰ	2	3 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅱ	2	3 回生のみ	2 単位
概 論	英米文学概論Ⅰ	2	1 回生以上	2 単位
	英米文学概論Ⅱ	2	2 回生以上	2 単位
講 義	英文学史Ⅰ	2	2 回生以上	2 単位
	英文学史Ⅱ	2	2 回生以上	2 単位
	米文学史Ⅰ	2	2 回生以上	2 単位
	米文学史Ⅱ	2	2 回生以上	2 単位

国際文化学域 ヨーロッパ・イスラーム史専攻

【必修科目】卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

科目区分	科目名	単位数	配当回生	履修方法
小集団科目	専門演習Ⅲ	2	4 回生以上	4 単位必修
	専門演習Ⅳ	2	4 回生以上	
卒業論文	卒業論文	4	4 回生以上	4 単位必修

【履修指定科目】必ず登録・受講しなければならない科目

科目区分	科目名	単位数	配当回生	履修方法
入門科目 (初年次科目)	国際文化入門講義	2	1 回生のみ	2 単位
小集団科目	研究入門Ⅰ	2	1 回生のみ	2 単位
	研究入門Ⅱ	2	1 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅰ	2	2 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅱ	2	2 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅰ	2	3 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅱ	2	3 回生のみ	2 単位
概 論	ヨーロッパ史概論Ⅰ	2	1 回生以上	2 単位
	ヨーロッパ史概論Ⅱ	2	2 回生以上	2 単位
	イスラーム史概論Ⅰ	2	1 回生以上	2 単位
	イスラーム史概論Ⅱ	2	2 回生以上	2 単位
講 読	ヨーロッパ・イスラーム史文献講読Ⅰ	2	2 回生以上	2 単位

【必修科目】卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

科目区分	科目名	単位数	配当回生	履修方法
小集団科目	専門演習Ⅲ	2	4回生以上	4単位必修
	専門演習Ⅳ	2	4回生以上	
卒業論文	卒業論文	4	4回生以上	4単位必修

【履修指定科目】必ず登録・受講しなければならない科目

科目区分	科目名	単位数	配当回生	履修方法
入門科目 (初年次科目)	国際文化入門講義	2	1回生のみ	2単位
	リテラシー入門	2	1回生のみ	2単位
小集団科目	研究入門Ⅰ	2	1回生のみ	2単位
	研究入門Ⅱ	2	1回生のみ	2単位
	基礎講読Ⅰ	2	2回生のみ	2単位
	基礎講読Ⅱ	2	2回生のみ	2単位
	専門演習Ⅰ	2	3回生のみ	2単位
	専門演習Ⅱ	2	3回生のみ	2単位
講 読	外国語文献リーディングⅠ	2	1回生以上	2科目4単位以上選択
	外国語文献リーディングⅡ	2	1回生以上	
	英書リーディングⅠ	2	2回生以上	
	英書リーディングⅡ	2	2回生以上	

地域研究学域 地理学専攻

【必修科目】卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

科目区分	科目名	単位数	配当回生	履修条件
入門科目 (初年次科目)	地域調査入門	2	1回生以上	2単位必修
小集団科目	専門演習Ⅲ	2	4回生以上	4単位必修
	専門演習Ⅳ	2	4回生以上	
卒業論文	卒業論文	4	4回生以上	4単位必修

【履修指定科目】必ず登録・受講しなければならない科目

科目区分	科目名	単位数	配当回生	履修条件
入門科目 (初年次科目)	地域研究入門講義	2	1回生のみ	2単位
	リテラシー入門	2	1回生のみ	2単位
小集団科目	研究入門Ⅰ	2	1回生のみ	2単位
	研究入門Ⅱ	2	1回生のみ	2単位
	基礎講読Ⅰ	2	2回生のみ	2単位
	基礎講読Ⅱ	2	2回生のみ	2単位
	専門演習Ⅰ	2	3回生のみ	2単位
	専門演習Ⅱ	2	3回生のみ	2単位
概 論	自然地理学概論	2	1回生以上	2単位
	人文地理学概論	2	1回生以上	2単位
	地域観光学概論Ⅰ	2	1回生以上	2単位

履修方法（続き）

地域研究学域 地域観光学専攻

【必修科目】卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

科目区分	科 目 名	単位数	配当回生	履修条件
入門科目 (初年次科目)	地域調査入門	2	1 回生以上	2 単位必修
小集団科目	専門演習Ⅲ	2	4 回生以上	4 単位必修
	専門演習Ⅳ	2	4 回生以上	
卒業論文	卒業論文	4	4 回生以上	4 単位必修

【履修指定科目】必ず登録・受講しなければならない科目

科目区分	科 目 名	単位数	配当回生	履修条件
入門科目 (初年次科目)	地域研究入門講義	2	1 回生のみ	2 単位
	リテラシー入門	2	1 回生のみ	2 単位
小集団科目	研究入門Ⅰ	2	1 回生のみ	2 単位
	研究入門Ⅱ	2	1 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅰ	2	2 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅱ	2	2 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅰ	2	3 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅱ	2	3 回生のみ	2 単位
概 論	地域観光学概論Ⅰ	2	1 回生以上	2 単位
	地域観光学概論Ⅱ	2	2 回生以上	2 単位
	自然地理学概論	2	1 回生以上	2 単位
	人文地理学概論	2	1 回生以上	2 単位

【必修科目】卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

科目区分	科目名	単位数	配当回生	履修条件
E A P 科目	Academic Writing I	1	2 回生以上	1 単位必修
	Academic Writing II	1	2 回生以上	1 単位必修
	Thesis Writing	2	3 回生以上	2 単位必修
小集団科目	専門演習Ⅲ	2	4 回生以上	4 単位必修
	専門演習Ⅳ	2	4 回生以上	
卒業論文	卒業論文	4	4 回生以上	4 単位必修

【履修指定科目】必ず登録・受講しなければならない科目

科目区分	科目名	単位数	配当回生	履修条件
入門科目 (初年次科目)	国際コミュニケーション入門講義	2	1 回生のみ	2 単位
小集団科目	研究入門Ⅰ	2	1 回生のみ	2 単位
	研究入門Ⅱ	2	1 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅰ	2	2 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅱ	2	2 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅰ	2	3 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅱ	2	3 回生のみ	2 単位
概 論	Introduction to the Culture of English-Speaking Regions and Societies	2	1 回生以上	2 科目 4 単位以上選択
	Introduction to Multicultural Society in English-Speaking Regions	2	1 回生以上	
	Cultural History of the English Language	2	1 回生以上	
講 読	英語文献講読	2	2 回生以上	2 単位
E A P 科目	Academic Presentation I	1	2 回生以上	1 単位
	Academic Presentation II	1	2 回生以上	1 単位
	Academic Reading & Discussion I	1	2 回生以上	1 単位
	Academic Reading & Discussion II	1	2 回生以上	1 単位

履修方法（続き）

国際コミュニケーション学域 国際英語専攻

【必修科目】卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

科目区分	科目名	単位数	配当回生	履修条件
E A P 科目	Academic Writing I	1	2 回生以上	1 単位必修
	Academic Writing II	1	2 回生以上	1 単位必修
	Thesis Writing	2	3 回生以上	2 単位必修
小集団科目	専門演習Ⅲ	2	4 回生以上	4 単位必修
	専門演習Ⅳ	2	4 回生以上	
卒業論文	卒業論文	4	4 回生以上	4 単位必修

【履修指定科目】必ず登録・受講しなければならない科目

科目区分	科目名	単位数	配当回生	履修条件
入門科目 (初年次科目)	国際コミュニケーション入門講義	2	1 回生のみ	2 単位
小集団科目	研究入門Ⅰ	2	1 回生のみ	2 単位
	研究入門Ⅱ	2	1 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅰ	2	2 回生のみ	2 単位
	基礎講読Ⅱ	2	2 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅰ	2	3 回生のみ	2 単位
	専門演習Ⅱ	2	3 回生のみ	2 単位
概 論	Introduction to Multilingualism	2	1 回生以上	2 科目 4 単位以上選択
	Introduction to Language Studies	2	1 回生以上	
	英語学概論	2	2 回生以上	
講 義	英語教育リサーチ入門	2	2 回生以上	2 単位
	第二言語習得論	2	2 回生以上	2 単位
	Englishes in Contact	2	2 回生以上	2 単位
E A P 科目	Academic Presentation I	1	2 回生以上	1 単位
	Academic Presentation II	1	2 回生以上	1 単位
	Academic Reading & Discussion I	1	2 回生以上	1 単位
	Academic Reading & Discussion II	1	2 回生以上	1 単位

【必修科目】卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

科目区分	科 目 名	単位数	配当回生	履修条件
小集団科目	専門演習Ⅲ	2	4回生以上	4単位必修
	専門演習Ⅳ	2	4回生以上	
卒業論文	卒業論文	4	4回生以上	4単位必修

【履修指定科目】必ず登録・受講しなければならない科目

科目区分	科 目 名	単位数	配当回生	履修条件
入門科目 (初年次科目)	言語コミュニケーション入門講義	2	1回生のみ	2単位
小集団科目	研究入門Ⅰ	2	1回生のみ	2単位
	研究入門Ⅱ	2	1回生のみ	2単位
	基礎講読Ⅰ	2	2回生のみ	2単位
	基礎講読Ⅱ	2	2回生のみ	2単位
	専門演習Ⅰ	2	3回生のみ	2単位
	専門演習Ⅱ	2	3回生のみ	2単位
講 義	コミュニケーション表現リサーチデザイン	2	2回生以上	2単位
演 習	ライティングの技法	2	2回生以上	2単位

言語コミュニケーション学域 言語学・日本語教育専攻

【必修科目】卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

科目区分	科 目 名	単位数	配当回生	履修条件
小集団科目	専門演習Ⅲ	2	4回生以上	4単位必修
	専門演習Ⅳ	2	4回生以上	
卒業論文	卒業論文	4	4回生以上	4単位必修

【履修指定科目】必ず登録・受講しなければならない科目

科目区分	科 目 名	単位数	配当回生	履修条件
入門科目 (初年次科目)	言語コミュニケーション入門講義	2	1回生のみ	2単位
小集団科目	研究入門Ⅰ	2	1回生のみ	2単位
	研究入門Ⅱ	2	1回生のみ	2単位
	基礎講読Ⅰ	2	2回生のみ	2単位
	基礎講読Ⅱ	2	2回生のみ	2単位
	専門演習Ⅰ	2	3回生のみ	2単位
	専門演習Ⅱ	2	3回生のみ	2単位
演 習	言語学・日本語教育リサーチデザイン	2	2回生以上	2単位

Ⅱ - 10. 2 回生以降に所属する専攻選択

専攻の決定方法

1 回生時は学域に所属していますが、2 回生以降は専攻に所属することになります。所属専攻の決定方法は以下の通りです。

専攻ごとに設定されている「最大受け入れ人数」までは、第一志望の学生をすべて受け入れます。各専攻の「最大受け入れ人数」を超過した場合については、選考基準をもとに選考をおこないます。「最大受け入れ人数」を超過した場合の選考基準は、manaba+R の文学部生のページに掲載します。

スケジュール

スケジュールは新入生オリエンテーションで配付される資料や manaba+R の文学部生のページに掲載していますので、確認してください。

注意

- ・ 本申請は入学した年度に必ず全員おこなってください。休学中の学生も申請対象です。
- ・ 学籍状態にかかわらず、入学した年度中に、2 回生以降所属する専攻が決定します。
- ・ 専攻選択に関する案内は manaba+R でおこないますので、必ず各自で確認するようにしてください。

Ⅲ. 文学部の特色ある学び

1. 文学部における学び
2. 小集団科目
3. クロスメジャー
4. 英語アドヴァンスト・コース
5. エリアスタディ
6. 人文学特別研修
7. 卒業論文

Ⅲ - 1. 文学部における学び

文学部では、1～4 回生までの各回生に小集団授業を設置しています。小集団授業とは、少人数（20～35 名）のクラス単位で実施されるゼミ形式の授業で、文学部ではそれを通して学生一人一人に丁寧な指導を行い、基礎から応用まで学習レベルを着実に高めていきます。小集団授業の内容は、回生や専攻によって異なります。1 回生では「研究入門」、2 回生では「基礎講読」、3・4 回生では「専門演習」がそれに該当します。

文学部は、小集団授業において問題発見力・調査力・理解力・思考力・表現力を養い、主体的に問題を解決することができる能動的な人材を育成していくことを目指しています。そして、小集団授業で身に付けた各種能力の仕上げの場として、卒業論文・卒業制作を重視しています。

各回生の小集団授業が4 年間の時系列の学びであるのに対し、学問領域の広がりを実現するものとして、文学部は8 学域・18 専攻から成る学域・専攻制度を取っています。「学域」とは、複数の専攻で構成される教育の枠組みです。1 回生は学域での初年次教育を通じて2 回生以降に所属する「専攻」を決定します。学域における1 回生の学びは、少人数で専門教育への導入を行う「研究入門」（春セメスター・秋セメスター）と「リテラシー入門」（春セメスター）との2 科目が中心となります。「研究入門」は、「学域」を構成する各「専攻」の学びに学生が触れることを通して、自身の志望・適性を理解し、「専攻」を選択できるようにすることを目的とした授業です。「リテラシー入門」は、大学で学ぶために最低限必要となる知識・技能を身に付けるための授業です。この授業は、〈文章作成〉〈情報処理〉〈キャリア教育〉〈学修上・生活上の倫理〉の四つの要素から成り立っています。

各「専攻」は、受入れ可能な最大人数（最大受入れ人数）と最大受入れ人数を超過した場合の選考基準とを設けています。専攻決定では、最大受入れ人数まで第1 志望の学生を受け入れます。最大受入れ人数を超過した場合、選考基準によって専攻を決定していきますが、これまでの専攻決定では、90% 以上の学生が第1 希望の専攻に進んでいます。

2 回生以上は「専攻」に分属しますが、そこに所属してからも複数領域の学問に触れつつ新たな知の創造に参加します。人文学では、一つの分野だけに特化して学ぶのではなく、幅広い分野の学修を通じて形成された教養を基盤に研究課題に取り組むことが望めます。そのため、立命館大学文学部のカリキュラムでは、一つの専攻に所属しながら、実習などの一部科目を除く他専攻科目を受講することができます。例えば、日本語学を専攻しながら、中国語学や朝鮮語学に関する授業を受講し、中国語や朝鮮語との対照を通して日本語の特徴を研究するなど、18 専攻の多様な科目群を履修しながら、自由に発想を広げることができます。文学部の開講科目の約80% が全専攻の学生に開かれています。

また、文学部には全国でも類を見ない「ゼミの複数受講制度」があります。これによって、例えば東洋史学専攻に所属して東洋史学のゼミを主にしながらも、日本史学専攻のゼミにも所属して同じ時代の日本の動向を学び、東洋史の研究を更に深めるといったことができます。

さらに、文学部には所属する学域・専攻での学びを基盤として新しい研究領域を学ぶための「クロスメジャー」があります。「クロスメジャー」には、「京都学」「デジタル人文学」の2 コースがあります。

所属専攻以外の専門科目の受講、「ゼミの複数受講制度」といった文学部の特色ある学びの制度を活用して、所属専攻の枠にとらわれない幅広い研究に取り組んでみてください。このことが、新たな知の発見、創造につながっていきます。

もちろん「教養科目」で専門以外の知識の幅を広げ、「外国語科目」で現代社会に必須の外国語を学びます。それらを学びつつ、文学部の各学域・各専攻の専門科目で専門の学びをさらに深めます。また、そのほかに文学部における幅広い学びのための「人文学共通科目」、企業などの現場において教育プログラムとして実際の業務を行う「人文学特別研修」、教職や図書館司書などの資格を取得するための資格課程など、様々な科目やコースがあります。

この『学修要覧』の「文学部における学び」「文学部での履修（卒業するための要件）」の一覧を見た上で、それぞれの項目を参照してください。

希望を持って文学部に入学した皆さんが、人文学の方法論を身に付け、社会で活躍することを願っています。

Ⅲ - 2. 小集団科目

「Ⅱ. 文学部の履修」の「9. 専門科目」の専門科目一覧と履修方法の項を参照してください。

Ⅲ - 3. クロスメジャー

クロスメジャーとは

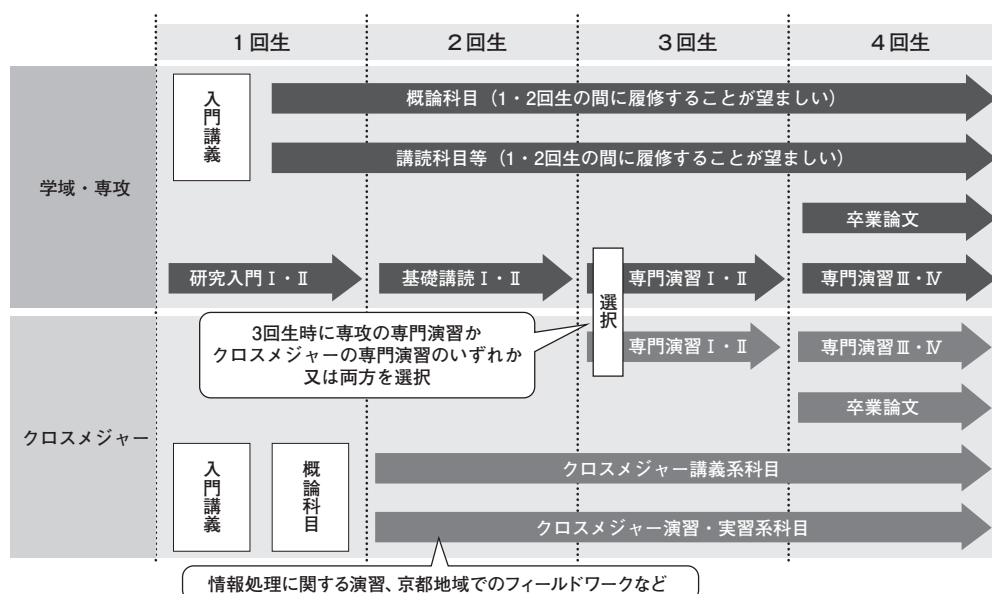
学域・専攻での学びを基盤として、新領域を応用的に学ぶためのコースです。「京都学」と「デジタル人文学」の2コースがあります。専攻の学びに加えて、クロスメジャーの専門科目、専門演習を体系的に履修し、卒業論文を執筆することができます。

所属する学域・専攻に関係なく、許可を受ければ履修することができます。既存の概念にとらわれずに、積極的に新しい分野に挑戦してください。

履修イメージ

入門講義と概論科目は、京都学、デジタル人文学の各クロスメジャーで学ぶための導入となる科目で、1回生は全員受講できます。1回生で、これらの科目を受講して、各クロスメジャーに関する基礎的な知識、研究方法などを学び、京都学、デジタル人文学それぞれの全体像をつかんでください。

2回生からは、受講許可者のみ各クロスメジャーの専門科目を履修することができます。3回生・4回生では、専攻の専門演習とクロスメジャーの専門演習のいずれか又は両方を受講します。卒業論文は、専攻、クロスメジャーのいずれかで執筆します。



履修方法

- 募集時期 1回生秋学期(11月頃)に受講希望者を募集します。
- 単位授与区分 専門科目(人文学共通科目)
- 履修方法
 - ①各コースで開講されている科目を、全て履修することを推奨します。
 - ②複数のクロスメジャーを履修することはできません。
 - ③教職課程、学芸員課程、全学副専攻などの他のプログラムとの同時履修は制限しませんが、時間割の重複などで全ての課程を同時履修できるとは限りません。
 - ④所定の要件を満たした場合、「クロスメジャー修了証」を交付します。

クロスメジャーの内容と科目一覧

【各クロスメジャーの募集人数】

名称	募集人数
京都学クロスメジャー	約 30 名
デジタル人文学クロスメジャー	約 30 名

※詳細は募集ガイダンスで配付する募集要項で確認してください。

(1) 京都学クロスメジャー

京都は平安京遷都以来、日本文化の重要な発信地の一つとしてありつづけてきました。京都には長い時を経て蓄積された、豊かな文化的価値が存在し、その価値の追究それ自体が日本文化の根源的理解につながります。

京都の多彩な文化的価値は、災害、戦乱、政変を繰り返し経験するなかで形成・維持されてきました。その裏側には、観光で訪れただけでは気付かない影の部分も継承されています。そして、現在もなお、他の地域と同様、景観問題や伝統産業の衰退、少子高齢化など、さまざまな課題を京都は抱えています。その意味で京都は、大きく変貌しつつある日本の地域社会の典型ともいえるでしょう。こうしたなかで独特の都市景観が形成・維持されてきたその背景には、京都に根ざし生活を維持してきた住民の不断の「知」の蓄積があります。

世界中の人々を魅了し、引き付ける京都の多彩で豊かな文化的価値の解明と検証には、京都の過去・現在・未来を見すえ、その空間的な広がり、膨大な史資料の再検討、地域社会に密着した史資料の発掘、現存する多彩な伝統産業の実態の認識など、さまざまな研究方法が求められます。よって、先学によって培われてきた各学問の個別進展のみならず、従来の学問分野の壁を超えた研究手法や視点の応用・融合といった、学際的視点の実践が必須となります。何よりも、京都とそこで生活を営む住民に学ぶことは多く、生活の場から不断に生まれる地域の「知」と、大学において進められる人文学の「知」とを深く連携させ、相互に往復的に学びあうことが不可欠です。

京都学クロスメジャーでは、人文学各分野の研究手法や理論の理解に基づきつつ、それら人文学の「知」を地域社会の理解へと応用するフィールドワーク型の実習、さらに地域課題にアプローチするプロジェクト型研究といった臨地型の科目から、地域の課題解決や持続性に資するアクティブな取り組みを展開します。こうした地域との協同・連携を最大限に重視した教育内容に、京都学の特色があります。

人文学における各学問分野の研究視点・手法の融合と、地域社会に蓄積された地域の「知」の探求という多角的な視野を有し、人文学の「知」と地域の「知」を自在に往還しながら、大きく変貌しつつある現代社会の諸問題に有意なかたちで切り結ぶことのできる人材を育成します。

【京都学クロスメジャー科目一覧】

科目区分	科目名	単位数	配当回生	許可者のみ 受講可能科目
入門	京都学入門（人文学の融合）	2	1 回生のみ	
概論	京都学概論（人文学と地域社会）	2	1 回生以上	
講義	京都文化論Ⅰ（京都と歴史）	2	2 回生以上	
	京都文化論Ⅱ（京都と日本文学）	2	2 回生以上	
	京都まちづくり史	2	3 回生以上	
	京都の美術	2	3 回生以上	
実習	京都学研究法	2	2 回生以上	○
	# 京都学リージョナルスタディ	2	2 回生以上	○
	京都学フィールドワークⅠ	2	2 回生以上	○
	京都学フィールドワークⅡ	2	3 回生以上	○
	京都学フィールドリサーチ	2	3 回生以上	○
	京都伝統工芸研究	2	3 回生以上	○
小集団	専門演習Ⅰ	2	3 回生のみ	○
	専門演習Ⅱ	2	3 回生のみ	○
	専門演習Ⅲ／専門演習Ⅴ	2	4 回生以上	○
	専門演習Ⅳ／専門演習Ⅵ	2	4 回生以上	○
卒業論文	卒業論文	4	4 回生以上	○

のついた科目は重複受講ができます。

クロスメジャーの内容と科目一覧（続き）

【京都学クロスメジャー修了証の交付要件】

以下の全ての要件を満たした場合、クロスメジャー修了証を交付します。

- ①科目区分が「概論」「講義」「実習」の科目から、「京都学研究法」、「京都学フィールドワークⅠ」を含む、6科目12単位を修得。
- ②京都学クロスメジャーの4回生演習（「専門演習Ⅲ・Ⅳ」）を修得。
※所属専攻とクロスメジャーの両方の専門演習を履修している学生が所属専攻で卒業論文を執筆する場合、クロスメジャーの専門演習は「専門演習Ⅴ」「専門演習Ⅵ」という科目名になります。この「専門演習Ⅴ・Ⅵ」を修得した場合も他の要件を満たしていれば修了証を交付します。
- ③「卒業論文」を、所属専攻又は京都学クロスメジャーのいずれかで修得。

（2）デジタル人文学クロスメジャー

デジタル人文学とは、広義には情報技術を用いた人文科学（人文学）のことです。文学部で学ぶ学問はコンピュータとは無縁である、と思われる方もいるかも知れませんが、決してそうではありません。ワープロソフトや表計算ソフトの操作方法の修得、情報収集や情報公開におけるインターネットの活用はもちろんのこと、人文科学の研究を進める上で身につけるべき高度な情報技術は他にも多岐にわたります。

現代は、日常生活がデジタル環境、インターネット環境の中にある現代の中にあり、デジタル技術避けて通ることはできなくなっています。デジタル人文学クロスメジャーでは、こうした現状を踏まえ、人文学のさまざまな領域が持つ研究テーマや素材、資源に対して、デジタル技術を活用・応用することで、領域を複合させたり、新たな研究領域を生むために、デジタル技術の基礎から応用までを学びます。ここでは、単に、ソフトウェアの利用技術を獲得するだけでなく、習得した技術によって、従来の手法では不可能であった大規模な情報、あるいは精密な情報を、対象から取得することによって生まれる、新たな研究素材を、どのように蓄積し、分析していくのかという手法を学びながら、そこから創造的な知見を獲得することを目的としています。

また、獲得した知見を、データベースを基礎に置きながら、可視化、分析、プレゼンツールを活用することで、効果的に発信できる能力を身につけます。

そして、個人や社会が抱える課題の究明を、情報技術を応用することで、効率よく適確に進めることのできる人材を育成していきます。獲得する知識や技術は、学術研究にとどまるものではなく、教育や博物館の現場、さらには出版、印刷、広告業界などにおいても応用可能な知識と技術でもあり、将来のキャリアのためにも役立つに違いありません。

【デジタル人文学クロスメジャー科目一覧】

科目区分	科目名	単位数	配当回生	許可者のみ 受講可能科目
入門	デジタル人文学入門	2	1回生のみ	
概論	デジタル人文学概論	2	1回生以上	
演習	WEB技術基礎演習Ⅰ	2	2回生以上	○
	WEB技術基礎演習Ⅱ	2	2回生以上	○
	コンピュータグラフィックス基礎演習Ⅰ	2	2回生以上	○
	コンピュータグラフィックス基礎演習Ⅱ	2	2回生以上	○
	テキスト情報処理演習Ⅰ	2	2回生以上	○
	テキスト情報処理演習Ⅱ	2	3回生以上	○
	空間情報処理演習	2	3回生以上	○
	デジタルアーカイブ演習Ⅰ	2	3回生以上	○
	デジタルアーカイブ演習Ⅱ	2	3回生以上	○
	コンピュータグラフィックス応用演習	2	3回生以上	○
	データベース演習	2	3回生以上	○
小集団	専門演習Ⅰ	2	3回生のみ	○
	専門演習Ⅱ	2	3回生のみ	○
	専門演習Ⅲ／専門演習Ⅴ	2	4回生以上	○
	専門演習Ⅳ／専門演習Ⅵ	2	4回生以上	○
卒業論文	卒業論文	4	4回生以上	○

【デジタル人文学クロスメジャー修了証の交付要件】

以下のすべての要件を満たした場合、クロスメジャー修了証を交付します。

- ①「WEB 技術基礎演習Ⅰ」、「WEB 技術基礎演習Ⅱ」、「コンピュータグラフィックス基礎演習Ⅰ」、「テキスト情報処理演習Ⅰ」、「空間情報処理演習」、「デジタルアーカイブ演習Ⅰ」を全て修得。
- ②デジタル人文学クロスメジャーの4回生演習（「専門演習Ⅲ・Ⅳ」）を修得。
※所属専攻とクロスメジャーの両方の専門演習を履修している学生が所属専攻で卒業論文を執筆する場合、クロスメジャーの専門演習は「専門演習Ⅴ」「専門演習Ⅵ」という科目名になります。この「専門演習Ⅴ・Ⅵ」を修得した場合も他の要件を満たしていれば修了証を交付します。
- ③「卒業論文」を、所属専攻又はデジタル人文学クロスメジャーのいずれかのゼミで修得。

Ⅲ - 4. 英語アドヴァンスト・コース

英語アドヴァンスト・コースとは

英語アドヴァンスト・コースは、1回生で学んだ英語学習を英語の実践的スキル向上に特化して、総合的、体系的にステップアップさせるための科目群（コース）です。

授業は、原則として学術英語指導を専門とする教員が担当し、最低 TOEFL iBT®80 点 (TOEFL ITP®550 点)、IELTS 6.0、TOEIC®730 点以上を目指します。人文学系の題材を教材に、高度な英語運用能力を身に付けると同時に、欧米圏の大学院へ進学できるレベルのリーディング、ライティングも学びます。修得した単位はすべて要卒単位（卒業に必要な単位）に含まれます。

受講許可者は、2回生からコース科目を受講できます。なお、国際コミュニケーション学域の学生は、類似の科目を学域・専攻の専門科目として履修するため、「英語アドヴァンスト・コース」への応募はできません。

履修方法

- ・配 当 回 生 2回生から履修します。
 - ・募 集 時 期 1回生秋学期（11月頃）に受講希望者を募集し、許可者のみ履修できます。
 - ・単位授与区分 専門科目（人文学共通科目）
- ※応募の際、TOEIC® L&R（又は TOEFL ITP®）のスコア 450 点以上を有している必要があります。詳細は募集ガイダンスで配付される募集要項で確認してください。

【科目一覧】

科目名	単位数	配当回生	開講言語	許可者のみ 受講可能科目
Academic Writing & Presentation I	1	2回生以上	英語	○
Academic Writing & Presentation II	1	2回生以上	英語	○
English Reading & Discussion I	1	2回生以上	英語	○
English Reading & Discussion II	1	2回生以上	英語	○
Academic Listening and Study Skills I	1	2回生以上	英語	○
Academic Listening and Study Skills II	1	2回生以上	英語	○

Ⅲ - 5. エリアスタディ

エリアスタディとは、人文学のさまざまな分野（地理学・文化人類学（民俗学）・歴史学・文学など）の持つ視点・方法・研究成果を利用して、世界の特定の地域を総合的、学際的にとらえ、その地域性を追究し、総合的な理解を目指すものです。

エリアスタディでは、特定地域に関する系統的な履修を進めながら、その一環として、実際に外国を訪問し、現地の大学教員による講義の受講や大学生との交流、フィールドワーク等の海外実習を行います。海外実習（「東アジア現地実習」、「海外エリアスタディ実習」、「国際コミュニケーション実習」、「地域観光学フィールドワーク（世界）」）は別途ガイダンスを行い、受講生を募集します。

実践的なエリアスタディでの学修で、多様な視点を獲得し、本格的な国際活動（留学、国際インターンシップ、海外企業への就職など）につなげてください。

エリアスタディの履修は、学域・専攻の所属を問いません。文学部の学生であれば、どこに所属していても履修することができます。各履修モデル（下記参照）に従い、指定されている科目を各自で受講登録し履修してください（実習以外の講義科目のみを履修する場合には、申請書提出等の手続きは必要ありません）。

（１）中国

【履修モデル 科目一覧】

科目名	科目分野	単位数	配当回生
現代東アジア言語・文化概論Ⅱ	専門科目（現代東アジア言語・文化専攻）	2	2回生以上
東アジア現代文化論Ⅰ	専門科目（現代東アジア言語・文化専攻）	2	2回生以上
東アジア現代史論Ⅰ	専門科目（現代東アジア言語・文化専攻）	2	2回生以上
現代中国研究Ⅰ	専門科目（現代東アジア言語・文化専攻）	2	2回生以上
現代中国研究Ⅱ	専門科目（現代東アジア言語・文化専攻）	2	2回生以上
東アジア現地実習（中国）	専門科目（東アジア研究学域）	4	2回生以上

※「東アジア現地実習（中国）」の詳細は、募集説明会にて案内します。

（２）韓国

【履修モデル 科目一覧】

科目名	科目分野	単位数	配当回生
現代東アジア言語・文化概論Ⅲ	専門科目（現代東アジア言語・文化専攻）	2	2回生以上
東アジア現代文化論Ⅱ	専門科目（現代東アジア言語・文化専攻）	2	2回生以上
東アジア現代史論Ⅱ	専門科目（現代東アジア言語・文化専攻）	2	2回生以上
現代韓国研究Ⅰ	専門科目（現代東アジア言語・文化専攻）	2	2回生以上
現代韓国研究Ⅱ	専門科目（現代東アジア言語・文化専攻）	2	2回生以上
東アジア現地実習（韓国）	専門科目（東アジア研究学域）	2	2回生以上

※「東アジア現地実習（韓国）」は、夏期休暇中に約2週間の日程で実施予定です。履修に際して特別な要件はありません。詳細は、募集説明会にて案内します。

(3) オーストラリア

【履修モデル 科目一覧】

科目名	科目分野	単位数	配当回生
Introduction to the Culture of English-Speaking Regions and Societies	専門科目（英語圏文化専攻）	2	1回生以上
Introduction to Multicultural Society in English-Speaking Regions	専門科目（英語圏文化専攻）	2	1回生以上
Introduction to Multilingualism	専門科目（国際英語専攻）	2	1回生以上
Englishes in Contact	専門科目（国際英語専攻）	2	2回生以上
海外エリアスタディ実習（長期）／国際コミュニケーション実習	専門科目（人文学共通科目）／専門科目（国際コミュニケーション学域）	4	2回生以上(注)

※「海外エリアスタディ実習（長期）／国際コミュニケーション実習」は春期休暇中に約4週間の日程で実施予定です。志望理由書、TOEIC® L&R テスト（TOEFL® テスト）、履修モデル科目の単位修得状況、GPAなどで選考を行います。詳細は、募集説明会にて案内します。また本科目は、所属専攻によって履修する科目名が異なります。英語圏文化専攻・国際英語専攻所属の学生は「国際コミュニケーション実習」、それ以外の専攻所属の学生は「海外エリアスタディ実習（長期）」を履修します。

(注) 開講期間が「冬集中」の場合、在学期間が第8学期（8セメスター）以上の学生は単位授与ができないため、「海外エリアスタディ実習（長期）／国際コミュニケーション実習」を履修することはできません。

(4) イタリア

【履修モデル 科目一覧】

科目名	科目分野	単位数	配当回生
イタリア文化研究	専門科目（文化芸術専攻）	2	2回生以上
イタリア文化講義Ⅰ	専門科目（文化芸術専攻）	2	2回生以上
イタリア文化講義Ⅱ	専門科目（文化芸術専攻）	2	2回生以上
イタリアの文化とエクスペリメンテーションⅠ・Ⅱ	専門科目（文化芸術専攻）	各2	2回生以上
イタリアの文化とエクスペリメンテーションⅢ・Ⅳ	専門科目（文化芸術専攻）	各2	3回生以上
イタリアの文化とコミュニケーションⅠ・Ⅱ	専門科目（文化芸術専攻）	各2	2回生以上
イタリアの文化とコミュニケーションⅢ・Ⅳ	専門科目（文化芸術専攻）	各2	3回生以上
海外エリアスタディ実習（短期）	専門科目（人文学共通科目）	2	1回生以上(注)

※「海外エリアスタディ実習（短期）」は隔年開講です。詳細は、募集説明会にて案内します。

(注) 開講期間が「冬集中」の場合、在学期間が第8学期（8セメスター）以上の学生は単位授与ができないため、「海外エリアスタディ実習（短期）」を履修することはできません。

(5) 東アジア・東南アジア

【履修モデル 科目一覧】

科目名	科目分野	単位数	配当回生
地域観光学概論Ⅰ	専門科目（地域観光学専攻）	2	1回生以上
地域観光学概論Ⅱ	専門科目（地域観光学専攻）	2	2回生以上
ツーリズム地域論	専門科目（地域観光学専攻）	2	2回生以上
地域観光文化論	専門科目（地域観光学専攻）	2	2回生以上
東アジア現代文化論Ⅰ	専門科目（現代東アジア言語・文化専攻）	2	2回生以上
海外エリアスタディ実習（短期）／地域観光学フィールドワーク（世界）	専門科目（人文学共通科目）／専門科目（地域観光学専攻）	2	2回生以上(注)

※「海外エリアスタディ実習（短期）／地域観光学フィールドワーク（世界）」は休暇中に約10日間の日程で実施予定です。履修に際して特別な要件はありません。詳細は、募集説明会にて案内します。また本科目は、所属専攻によって履修する科目名が異なります。地域観光学専攻所属の学生は、「地域観光学フィールドワーク（世界）」、それ以外の専攻所属の学生は「海外エリアスタディ実習（短期）」を履修します。

(注) 開講期間が「冬集中」となる場合は、在学期間が第8学期（8セメスター）以上の学生は単位授与ができないため、「海外エリアスタディ実習（短期）／地域観光学フィールドワーク（世界）」を履修することはできません。

Ⅲ - 6. 人文学特別研修

人文学特別研修とは、学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した「企業や自治体、学校などの現場」で実際の業務を行う教育プログラムです。実習を通じて自らの研究分野を深め、実践的な能力が修得できるとともに、自己理解を深め、職業の実像をつかみながら、将来の進路選択として確かな職業観を身に付けることができます。

本学で実施しているインターンシップは、大きく分けて、文学部で募集するものとキャリア教育センターで募集するものの2種類があります。単位授与区分や手続き方法など大きく異なりますので、注意してください。

人文学特別研修は、文学部の教学内容と密接に関連したものが中心となっています。専攻での学びの成果を活かしながら、実社会での職業体験に触れることができる貴重な場です。実習を通じて、単なる就職活動のひとつとしてではなく、文学部生として自身の学びとキャリアについて考える機会として、積極的に活用してください。

科目概要

- | | |
|----------|--|
| • 単位授与科目 | 人文学特別研修 |
| • 単位授与区分 | 専門科目（人文学共通科目） |
| • 授与単位数 | 2単位（単年度に認められる上限は1科目かつ2単位までです。）
※受講登録上限単位数に含まれません。 |
| • 配当回生 | プログラムによって異なります。 |

募集および受講

募集は、実施前年度から随時行います。ただし、年度途中でも新たな実習先が決定した場合は、随時募集を行います。

- | | |
|-----------|--|
| • 募集対象 | 文学部生のみ
※プログラムにより異なりますので、各プログラムの要項・ガイダンス等で確認してください。 |
| • 募集人数 | プログラムによって異なります。 |
| • 募集・受講日程 | 4月上旬 募集ガイダンスに参加
※別日程のプログラムもありますので、要項・ガイダンス等で確認してください。
(募集ガイダンスの開催については manaba+R でお知らせします。) |
| | ↓ |
| | 4月中旬 受講を希望するプログラムについて志望理由書を提出 |
| | ↓ |
| | 4月中旬～下旬 受講プログラム決定
※プログラムによっては、コーディネーターの文学部教員との面談を行った上で、受講が許可されます。 |
| | ↓ |
| | 事前学習受講 |
| | ↓ |
| | 実習 |
| | ↓ |
| | 事後学習受講および、研修レポート等の提出 |
| | ↓ |
| | 成績評価 |

※ 別日程のプログラムもありますので、manaba+R やガイダンス等で確認してください。

(参考)
過年度実習先一覧

(年度により派遣先は異なります。年度毎の派遣先は募集ガイダンス等で確認してください。)
イタリア文化会館(大阪) 子ども・青年の居場所作り
国際航業株式会社 株式会社パスコ
Penang Heritage Trust (マレーシア・ペナン) 京都歴史回廊協議会
西之京瑞饋神輿保存会 ゲーテ・インスティトゥート

Ⅲ - 7. 卒業論文

「manaba+R」
・【履修】卒業論文のページ
「履修・登録の手引き」
・卒業論文の項
を参照してください。

Ⅳ. 学部横断プログラム

1. 海外留学
2. 大学間単位互換制度
3. 全学副専攻
4. 他学部受講

IV - 1. 海外留学

海外留学を計画するにあたって

海外留学プログラムの種類

留学中の学籍・留学中に修得した単位の認定等

立命館大学は、「地球市民として活躍できる人間」を目的として、海外に多くの協定校を有し、目的やレベルに応じた多彩な海外留学プログラムを用意しています。立命館大学国際教育センターが主催する全学生が応募可能なプログラムのほか、各学部や教学機関でも独自のプログラムを用意しています。在学中に海外留学を経験することは、皆さんの大学生活を豊かなものとし、また将来の進路選択にとっても大切な機会となります。

限られた大学生活のなかで「海外留学」を成功させるためには、明確な目的意識を持ち、留学中・留学後を見通した学生生活の計画を立てる必要があります。例えば、①目的意識と動機を明確にする、②経費を含めた留学計画の情報を保護者と共有する、③留学に向けた継続的な学習を進める、④帰国後の目標・進路を考える、ことなどです。また、長期の留学では、派遣前の約1年前に募集・選考を行いますので、日々の学習はもちろん、応募条件となる語学検定試験の受験など、早めの準備を心掛けましょう。なお、長期留学に参加する場合は、その時期や期間、履修状況によって4年間での卒業ができなくなる可能性があります。事前に学部事務室または学びステーションで相談したうえで、海外留学の計画を行いましょう。

	全学募集の海外留学プログラム	文学部独自の海外留学プログラム
主催	国際教育センター	文学部
対象	全学部学生（一部を除く）	文学部生
区分	留学を通じて「経験したいこと」や「身に付けたい力」の目的・目標に沿ってプログラムを選択し参加できるよう、以下の通り、留学の「ねらい」ごとに海外留学プログラムを類型しています。 <留学の「ねらい」> ①グローバルな体験を通じ世界を知る ②アカデミックな外国語を習得する ③特定の課題について解決策を探る ④世界の地域を深く知る ⑤専門的な内容を外国語で学ぶ	文学部教学に関連した内容のプログラムが展開されています。 詳細は、Ⅲ-5.エリアスタディやmanaba+R「文学部生のページ」→「文学部の履修」→「【留学】学部独自海外留学プログラム」を確認してください。

*各プログラムの内容・募集時期・実施時期・プログラム内容・単位修得・応募方法・応募条件等の詳細は、各募集要項や海外留学プログラムホームページなどで確認してください。

*上記の留学プログラムには、給付型の奨学金（立命館大学海外留学チャレンジ奨学金）があります。詳細は各プログラムの募集要項を確認してください。

区分	学籍状態の概要	単位認定・単位授与
立命館大学の海外留学プログラムを利用して留学する場合	①派遣期間や要件に応じて学籍が「在学」から「留学」となる場合があります。 また、実際の派遣期間と学籍上の「留学」期間は一致しない場合があります。（*1） ②学籍上「留学」となる期間は、原則として本学の科目を受講登録できません。一部受講登録を認められる科目がありますので、文学部事務室に相談してください。（*2）	プログラム内容に基づいて、単位認定・単位授与が行われます。詳細は、各プログラムの募集要項で確認してください。（*3）
休学制度を利用して留学する場合（私費留学）（*4）	学籍が「休学」の期間は、在学期間には含まれません。	単位認定は行いません。

*1：「学修要覧（全学部共通編）Ⅰ.学籍 11.留学」を参照してください。

*2：「学修要覧（全学部共通編）Ⅲ.本学での履修 4.受講登録（4.1 受講登録とは【留学から帰国した場合の受講登録について】）」を参照してください（ただし、学部共同学位プログラム（DUDP）は除く）。

*3：「学修要覧（全学部共通編）Ⅲ.本学での履修 6.成績および単位授与・認定」を参照してください。

*4：休学制度を利用して留学する場合は、留学先機関の受入許可手続きや渡航に関する手続きをはじめ、自分自身で留学手続きを行います。休学する場合は、「学修要覧（全学部共通編）Ⅰ.学籍 9.休学」を参照して、事前に文学部事務室に相談してください。

大学で得られる海外留学に関する情報について

- ①全学募集の海外留学プログラムについては「海外留学プログラムホームページ」、文学部独自プログラムについては manaba+R 文学部生のページで確認してください。
- ② Beyond Borders Plaza (BBP) では、海外留学に役立つ情報発信や、企画を実施しています。詳細は、Beyond Borders Plaza のホームページから確認してください。
- ③ 国際教育センター
 - ・「Study Abroad Guide」などのパンフレットを配布しています。
 - ・「海外留学フェア」など、海外留学を支援する様々な企画を実施しています。
 - ・海外留学に関する相談は、「海外留学プログラムホームページ」の「海外留学相談」ページを確認してください。

Ⅳ - 2. 大学間単位互換制度

大学コンソーシアム 京都単位互換制度

大学コンソーシアム京都の単位互換制度とは、京都地域を中心とする他大学の科目を履修し、それを立命館大学の単位として認定する制度です。文化、芸術、政治、経済、自然科学などはほぼ全ての学問分野にわたる科目が提供されており、皆さんの幅広い関心と興味に応じて、本学にはない分野の科目を学ぶことが可能です。

(1) 主なスケジュール

- ・ 出願の詳細発表（3月下旬）：manaba+Rにて案内
※出願・受講にあたっての説明も公開するため、必ず確認のこと
- ・ 履修希望科目の出願（4月上旬のみ＜追加募集なし＞）：指定のWEB上から、毎年度合計2科目まで出願可
- ・ 履修許可発表（4月下旬）：manaba+Rで発表、履修許可された科目は受講登録制限外で登録
- ・ 科目開設大学への履修手続き（受講許可後、各大学の指示に従うこと）
- ・ 科目開設大学での履修／試験・レポート提出等（各大学の学年暦、開講日程、時間割に従うこと）
※本学の定期試験と他大学の試験や授業（夏集中科目を除く）が重複した場合は、本学追試験の受験が可能。
- ・ 成績発表（3月上旬）：CAMPUS WEBに掲載

(2) 単位認定

- ・ 認定時期：秋学期
- ・ 認定される区分：教養科目
- ・ 評価：合格の場合「T」、不合格の場合「F」

立命館アジア太平洋大学（APU）交流学生プログラム

このプログラムでは、立命館大学に所属しながら、立命館アジア太平洋大学（以下、APU）の科目を履修することができます。具体的には、以下の2つの交流プログラムを提供しています。

（１）交流学生プログラム

①制度の概要

半年（春学期／秋学期）または1年間、「特別聴講学生」として、APUの授業科目を受講できるプログラムです。

②主なスケジュール

- ・10月頃／4月頃 募集ガイダンス
- ・11月／5月頃 交流プログラムへの出願
- ・12月／7月頃 履修者許可発表および許可者ガイダンス
- ・3月下旬／9月中旬頃 出発
- ・4月／9月下旬頃 APUで履修開始

③単位認定

- ・認定時期：プログラム終了日を含む学期の末日
- ・認定される区分：科目による
- ・認定評価：T評価

（２）サマーセッションプログラム

①制度の概要

APUのサマーセッション（夏集中講義）科目を受講できるプログラムです。受講期間は立命館大学の定期試験日程と一部重複しています。重複により定期試験・追試験が受験できなかった場合でも、配慮は行いません。

②主なスケジュール

- ・6月頃 履修科目の出願（指定のWEB上から毎年度1科目出願可）
- ・7月中旬頃 履修許可発表およびガイダンス
- ・8月上旬頃 APUのサマーセッション（夏集中講義）科目受講期間
- ・9月中旬頃 APUで成績発表
- ・9月下旬頃 本学で単位認定

③単位認定

- ・認定時期：春学期
- ・認定される区分：科目による
- ・認定評価：合格の場合「T」、不合格の場合「F」

（３）詳細情報の入手について

募集ガイドや具体的な応募方法、受講にあたっての詳細は、manaba+RおよびAPU交流プログラムサイトにて案内します。

Ⅳ - 3. 全学副専攻

全学副専攻（外国語コミュニケーションコース）とは

全学副専攻の学修を開始するためには

全学副専攻（外国語コミュニケーションコース）は、外国語教育で形成された学力と問題関心をドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語の各外国語分野において、一定のまとまりを持った科目群によって構成される「コース」での学習へと発展させるものです。

学生の皆さんは、各学部で専門分野を専攻し、専門科目を履修します。全学副専攻は、それらの専門科目の履修と併行して、さらに新しい分野、すなわち自己の学部専門分野以外の学問領域についての力量を培っていくために、一定のまとまりを持った科目群を履修していく制度です。

全学副専攻は、法学部・産業社会学部・文学部・国際関係学部の共通コースとして設置され、共通の問題関心を持つ他学部の学生とともに学ぶ場となっていることから、広い視野を養う条件を生み出します。

全学副専攻の学修は2回生から始まります。ただし1回生時に応募手続きを行い、許可を受けることが必要であり、応募できるのは1回生のみとなります。

全学副専攻の授業は、各学部における外国語科目の学修の積み重ねを前提として行います。したがって、当該言語を履修していることが応募条件となります。ただし、当該言語を現在必修外国語として履修していない学生で、その言語についてこれまでに一定期間の学習経験がある（その言語圏での留学・滞在経験を含む）場合は、個別に応募の可否を判断します（語学力を証明する書類の提出や教員との面談が求められることがあります）。詳細は10月下旬に発行される応募要項で確認してください。

なお、初修外国語・既修者対応プログラム履修者が、その継続学習として既修者対応プログラムで履修している言語について全学副専攻科目を履修する場合は全学副専攻「特別履修」となりますので、全学副専攻（外国語コミュニケーションコース）は履修できません（※）。

詳細は、「初修外国語既修者対応プログラム」のページを参照してください。

（※）第1、第2外国語選択において、一方は既修者対応プログラム、もう一方は初修外国語を選択している場合、初修外国語においては全学副専攻（外国語コミュニケーションコース）を履修することができます。

（1）スケジュール・開設コース・募集人数・所属学部によるコース履修の可否

詳細は言語教育センターホームページや、2025年10月頃配布予定の募集要項にて確認してください。応募時期は2025年11月を予定しています。

語種	ドイツ語	フランス語	中国語	スペイン語	朝鮮語
募集人数(予定)	70名	105名	175名	105名	105名

参加予定の プログラム等による 応募の可否	DUDP	UBC-AIP	文学部 クロスメジャー	文学部 英語アドヴァンスト コース
	×	○	○	○

※「DUDP」派遣者は全学副専攻を履修できません。

※全学副専攻を履修する場合は、母語のコースは選択できません（留学生含む）。

（2）全学副専攻の学修について

全学副専攻科目は、1年次配当科目（2回生以上）と2年次配当科目（3回生以上）によって編成されています。2回生から履修を開始し、卒業までに必要な単位を修得できるよう計画的、系統的に履修を進めます。全学副専攻科目の登録単位数は、学部で定められている「受講登録上限単位数」に含まれます。

（3）単位未修得の場合

全学副専攻科目では、単位回復科目は設置していません。単位を修得できなかった場合には、次年度同一科目または未履修の別の科目を履修してください。

(4) 修得が必要な単位数とその取り扱い

卒業に必要な単位として 認定されるのに必要な 最低修得単位数	卒業に必要な単位として認定 される最大修得単位数
16 単位	20 単位

選択したコースに設置されている科目の中から、必要な単位数を修得した場合に限り、卒業に必要な単位として認定されます（単位認定区分についてはⅡ-2. 文学部での履修を参照してください）。

16 単位以上修得した場合、卒業時に修了証を発行します。

< Intensive Language Workshop（現地で学ぶ初修語セミナー）の単位認定 >

全学副専攻履修開始後に、該当言語に関する海外留学プログラム「Intensive Language Workshop（現地で学ぶ初修語セミナー）」に参加した場合、副専攻の単位「（副）Intensive Language workshop（現地で学ぶ初修語セミナー）」（2 単位）として認定することができます。ただし、副専攻科目として単位認定するためには、認定を希望する時点で全学副専攻コースの履修を開始している必要があります（したがって、1 回生時に参加した場合は単位認定できません）。また、複数回参加した場合も全学副専攻科目での単位認定は 1 回限りとなります。

< 海外留学（協定・個別合意）での単位認定 >

全学副専攻では、該当言語に関する海外留学（協定・個別合意）に参加し、修得した単位について、帰国後の申請により 12 単位を上限に 全学副専攻の単位として単位認定できます。申請は、留学からの帰国後速やかに行ってください。なお、一度確定した単位を遡って「単位認定申請」することはできません。

(5) 科目一覧

配当年次	科目名	授業開講期間	単位数
1 年次 (2 回生以上 配当)	(副) 専門〇〇語 I	春semester	2
	(副) 専門〇〇語 II	秋semester	2
	(副) 専門〇〇語 III	春semester	2
	(副) 専門〇〇語 IV	秋semester	2
	(副) 〇〇語コミュニケーション I	春semester	1
	(副) 〇〇語コミュニケーション II	秋semester	1
2 年次 (3 回生以上 配当)	(副) 専門〇〇語 V	春semester	2
	(副) 専門〇〇語 VI	秋semester	2
	(副) 専門〇〇語 VII	春semester	2
	(副) 専門〇〇語 VIII	秋semester	2
	(副) 〇〇語コミュニケーション III	春semester	1
	(副) 〇〇語コミュニケーション IV	秋semester	1
—	Intensive Language Workshop (現地で学ぶ初修語セミナー)	—	2

その他、詳細については、言語教育センターホームページの全学副専攻のページを確認してください。

< 言語教育センターホームの全学副専攻のページ >

(manaba+R の「文学部生のページ」→「文学部の履修」→「【外国語】既修者対応プログラム／全学副専攻プログラム（初修外国語）」をクリック)

IV - 4. 他学部受講

本学では、総合大学としてのメリットを活かすため、他学部で開講されている専門科目を受講することができます。ただし、受講が認められている科目はあらかじめ決められており、多くの科目が人数制限を設けています（抽選科目）。必ず manaba+R の「他学部受講」を確認してください。

「履修・登録の手引き」および manaba+R の文学部生のページを参照してください。

登録方法

受講条件

受講できるのは、3 回生以上です。受講登録および修得可能な上限単位数は 20 単位です。卒業に必要な単位（発展科目区分）として認定されます。

ただし、教職課程の「教科に関する専門的事項」科目に該当する一部の他学部受講科目のみ 2 回生から受講することができます。

V. 教職課程

1. 教職課程について

V - 1. 教職課程について

教職課程を学ぶにあたって

本学では、「自由と清新」を建学の精神とし、「平和と民主主義」を教学理念とする大学の学びを基礎とし、総合大学としての高度な専門性と多様性を生かすことによって教師教育（教員養成）を行ってきました。この建学の精神及び教学理念でめざしてきたものは、確かな学力と深い人間理解のもと、子供の未来を信じ、正義と倫理をもった地球市民として教育活動を行う個性豊かな教師の養成です。

本学の教職課程において養成を目指す教師像は、具体的に表現すると、以下の6つの力を身につけた教師です。

①授業力

（確かな学力のもと、深い授業観を持ち、授業を遂行する）

②児童生徒理解力

（児童生徒を理解し児童生徒と関わる）

③教師としてのコミュニケーション力

（学校における多様なコミュニケーションを行う）

④教師としてのマネジメント力

（学校における各種マネジメントを行う）

⑤教師としての自己形成力

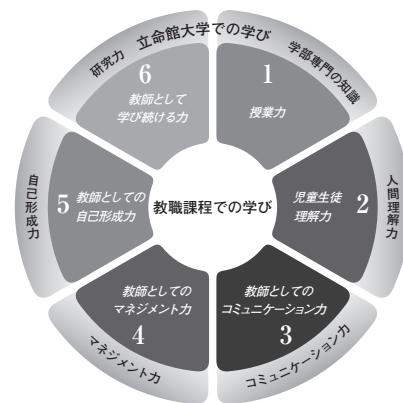
（教職に関する深い知識や倫理を身につける）

⑥教師として学び続ける力

（学校教育をめぐる問題を解決するために学び続ける）

これらの力は、立命館の学部教学において身につけられる、深い教養、教科専門知識と研究遂行力、平和と民主主義への志向、国際志向、そして各学部のディプロマポリシーに基づく資質能力が支えることによって、より豊かなものとなります。

本学では、課程認定を受けた8学部において教職課程を設置しており、教職を希望する皆さんは、所属学部設置されている教職課程を履修することができます。定められた教職課程科目を履修・単位修得すれば、各都道府県教育委員会への申請によって教員免許状を取得することができます。ただし、履修すべき教職課程科目の多くは、各学部での卒業に必要な単位とは別に修得しなければなりません。単に免許状取得だけを目的にしたような安易な気持ちでの教職課程の履修は、卒業時に希望していた教員免許状の取得ができないのみならず、学部科目の履修計画を困難にすることもありますので、しっかりと目的意識をもって履修することが必要となります。



教職課程履修計画

本学の教職課程は、1回生から4回生までの4年間を基本としたカリキュラム構成となっています。したがって、原則として1回生から履修を開始し、必要な科目を配当回生にそって4年間をかけて段階的・計画的に履修していくことが必要です。例えば2回生以降に履修を開始した場合や、留学や休学などで履修を一時中断した場合などは、4回生での卒業と同時に履修を終えることができるとは限りません。

また、教員免許状を取得するためには、教職課程科目の履修に加えて、教職課程に関する諸行事（ガイダンス・オリエンテーションなど）に必ず出席するとともに、大学が定めた所定の手続き（「教職自己分析シート」の提出、教育実習や介護等体験などの各種手続き）も行わなければなりません。諸行事への遅刻・無断欠席や所定期日内の手続き未了の場合には、その履修や実習への参加を認めません。

「教職自己分析シート」について

教育職員免許法施行規則において、皆さんの教職課程における学びの履歴を把握し、それを踏まえた指導を行うことによって不足している知識や技術等を補うため、教員による「履修カルテ」を用いた指導が求められています。本学では、この「履修カルテ」のことを「教職自己分析シート」と呼んでいます。

1 回生での履修を終えた段階から、毎年「教職自己分析シート」を作成していきます。提出方法や提出期日等詳細は、2 回生春学期に行われる教職課程ガイダンスや「(教) 学校教育総合演習」、「(教) 教育実習事前指導」および「(教) 教職実践演習 (中・高)」を通じて説明します。なお、「教職自己分析シート」の作成・提出は、必修科目（「(教) 学校教育総合演習」「(教) 教育実習事前指導」「(教) 教職実践演習 (中・高)」）の履修や単位修得の要件になっています。

文学部で取得できる教員免許状の種類

下表は、文学部が文部科学大臣より認定を受けている課程です。

なお、教員免許状は、免許状取得有資格者本人からの申請にもとづき、授与権者である都道府県教育委員会が授与します。授与された免許状は、全国の都道府県において効力を有します。

学部・学科	学域	専攻	中学校教諭一種免許状	高等学校教諭一種免許状
文学部 人文学科	人間研究学域	哲学・倫理学専攻	社会・国語・(英語)	地理歴史・公民・国語・(英語)
		教育人間学専攻	社会・国語・(英語)	地理歴史・公民・国語・(英語)
	日本文学研究学域	日本文学専攻	社会・国語・(英語)	地理歴史・公民・国語・(英語)
		日本語情報学専攻	社会・国語・(英語)	地理歴史・公民・国語・(英語)
	日本史研究学域	日本史学専攻	社会・国語・(英語)	地理歴史・公民・国語・(英語)
		考古学・文化遺産専攻	社会・国語・(英語)	地理歴史・公民・国語・(英語)
	東アジア研究学域	中国文学・思想専攻	社会・国語・(英語)	地理歴史・公民・国語・(英語)
		東洋史学専攻	社会・国語・(英語)	地理歴史・公民・国語・(英語)
		現代東アジア言語・文化専攻	社会・国語・(英語)	地理歴史・公民・国語・(英語)
	国際文化学域	英米文学専攻	社会・国語・英語	地理歴史・公民・国語・英語
		ヨーロッパ・イスラム史専攻	社会・国語・(英語)	地理歴史・公民・国語・(英語)
		文化芸術専攻	社会・国語・(英語)	地理歴史・公民・国語・(英語)
	地域研究学域	地理学専攻	社会・国語・(英語)	地理歴史・公民・国語・(英語)
		地域観光学専攻	社会・国語・(英語)	地理歴史・公民・国語・(英語)
	国際コミュニケーション学域	英語圏文化専攻	社会・国語・英語	地理歴史・公民・国語・英語
		国際英語専攻	社会・国語・英語	地理歴史・公民・国語・英語
	言語コミュニケーション学域	コミュニケーション表現専攻	社会・国語・(英語)	地理歴史・公民・国語・(英語)
		言語学・日本語教育専攻	社会・国語・(英語)	地理歴史・公民・国語・(英語)

※1 カッコ付きで(英語)と表記している専攻の学生が英語免許取得を希望する場合は、1 回生秋学期にガイダンスに出席し、「英語免許取得希望者の申請」を行うことが必要です。詳しくは、後述の「英語免許取得希望者の申請について」を参照してください。

※2 他専攻へ異動した場合は、異動後の専攻のルールによる履修となります。

英語免許取得のための履修について

・英米文学専攻、英語圏文化専攻および国際英語専攻以外の専攻に所属する英語免許取得希望学生は、あらかじめ、英語免許取得希望者として出願し、許可を得ることが必要です。許可者のみ下表の科目が受講可能となります。

【履修許可後の受講可能科目】

専攻	2 回生受講可能科目	3 回生受講可能科目
英米文学、英語圏文化、国際英語専攻を除く全専攻	英会話Ⅰ・Ⅱ、英作文法、英文演習 (教) 英語科教育概論 (教) 英語科指導法Ⅰ	(教) 英語科指導法Ⅱ (教) 英語科授業法 (教) 英語科授業発展演習

※ 各科目の受講登録方法については、履修・登録の手引きと教職課程科目時間割で詳細を確認してください。

教員採用試験受験にあたって（教職支援センターの利用について）

【英語免許取得希望者の申請について】

①英米文学専攻、英語圏文化専攻、国際英語専攻以外の専攻所属の学生

- ・ 1、2 回生を対象に英語免許取得希望者の募集を行います。希望者は志望理由書を提出してください。詳細は 11 月頃に文学部事務室が実施するガイダンスにて確認してください。
- ・ 英語免許取得希望者の提出書類：1. 志望理由書、2. 成績証明書、3. TOEFL® テストもしくは TOEIC® L&R テストなどのスコア

②英米文学専攻、英語圏文化専攻、国際英語専攻の所属学生

英語を含むすべての免許教科について、選考なしに履修することができます。英語免許の履修も許可制でないため、志望理由書等の提出は不要です。

小学校教諭免許状取得プログラム

2013 年度より、佛教大学通信教育課程と連携した「小学校教諭免許状取得プログラム（佛教大学協定方式）」が開設されました。このプログラムにより、産業社会学部子ども社会専攻以外の学生でも、文学部の教職課程（中学校教諭一種免許状）を修得することを条件として、小学校教諭一種免許状を取得することが可能となります。応募要件・プログラム内容等詳細は、1、2 回生の 11 月頃に実施するガイダンスで説明します。

教員になるには、教員免許状を取得するとともに、各都道府県等の実施する教員採用試験に合格しなければなりません。本学では、教職支援センターを設置し、教員志望者に対する対策講座の開講や、情報資料・参考書等を豊富に揃えており、教員採用に関する具体的な相談・指導助言に応じています。教員志望の人はできるだけ早い段階から積極的に利用してください。

●「教職支援センター」ホームページ

立命館大学教職支援センター



検索

<https://www.ritsumei.ac.jp/kyoshoku/>

『教職課程における学びの流れ』

教科及び教職に関する科目	教育職員免許法施行規則に規定する科目		1回生	2回生	3回生	4回生
	本学における最低必要単位数		1回生	2回生	3回生	4回生
	中学校 教諭一種 免許状	高等学校 教諭一種 免許状	1回生	2回生	3回生	4回生
教科及び教職に関する科目	免許法施行規則第66条の6	2	2	教職課程科目の履修開始 (2回生配当科目)		
	日本国憲法	2	2			
	体育	2	2			
	外国語コミュニケーション	2	2			
	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	2			
	教育の基礎的理解に関する科目 道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 教育実践に関する科目	31	27	教職課程科目の履修開始 (1回生配当科目)		
	教科及び教科の指導法に関する科目	28 ※1	24 ※2			
教科及び教職に関する科目	大学が独自に設定する科目	4	8 ※2	＜中学校教諭一種免許取得希望者＞ 〔教職自己分析シート〕の提出＜春学期＞ ※翌年度に「(教) 学校教育総合演習」を受講するための要件		
	〔教職自己分析シート〕					
	〔教職自己分析シート2〕の提出 ＜春学期＞ ※「(教) 学校教育総合演習」単位修得の要件			〔教職自己分析シート3〕の提出 ＜秋学期＞ ※「(教) 教育実習事前指導」単位修得の要件		
	〔教職自己分析シート3〕の提出 ＜秋学期＞ ※「(教) 教育実習事前指導」単位修得の要件					
教科及び教職に関する科目	〔教職自己分析シート〕の提出＜秋学期＞ ※「(教) 教職実践演習 (中・高)」単位修得の要件			〔教職自己分析シート〕の提出＜秋学期＞ ※「(教) 教職実践演習 (中・高)」単位修得の要件		
	〔教職自己分析シート〕の提出＜秋学期＞ ※「(教) 教職実践演習 (中・高)」単位修得の要件					
	〔教職自己分析シート〕の提出＜秋学期＞ ※「(教) 教職実践演習 (中・高)」単位修得の要件			〔教職自己分析シート〕の提出＜秋学期＞ ※「(教) 教職実践演習 (中・高)」単位修得の要件		
	〔教職自己分析シート〕の提出＜秋学期＞ ※「(教) 教職実践演習 (中・高)」単位修得の要件					

※1 学部や教科によって、「教科及び教科の指導法に関する科目」は28単位を超える単位修得が必要な場合があります。

※2 学部や教科によって、「教科及び教科の指導法に関する科目」は24単位を超える単位修得が必要な場合があります。その場合、「大学が独自に設定する科目」の最低必要単位数は、「教科及び教科の指導法に関する科目」24単位を超えた単位分だけ減じられます。

※3 1・2回生配当の教職基礎科目のうち20単位以上修得していない場合は、3回生以上配当の「教職基礎科目」、「教職発展科目」を受講できません。

※4 「(教) 学校教育総合演習」を受講するには「教職自己分析シート」の提出が必要です。

※5 「(教) 教育実習ⅠまたはⅡ(事後指導を含む)」、「(教) 教職実践演習 (中・高)」を受講するには要件があります。「(教) 教育実習ⅠまたはⅡ(事後指導を含む)」の受講要件の詳細は、後掲の「『(教) 教育実習ⅠまたはⅡ(事後指導を含む)』の受講資格」を確認してください。

教員免許状取得の基礎資格および必要単位

「教育職員免許法」および「教育職員免許法施行規則」により教員免許状の取得に必要な基礎資格と必要単位数が定められています。基礎資格とは、各自が所属する学部において卒業に必要な単位を修得し、学士の学位を取得することです。免許状の種類毎の必要単位数は、「教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目」、「教科及び教職に関する科目」を各自の入学年度に応じた科目表にしたがって修得する必要があります。また、小学校・中学校教諭免許状を取得する場合は、法律で定められた「介護等体験」の受講が必要となります。

本学における教員免許状の取得に必要な基礎資格と免許状の種類毎の必要単位数は下表の通りです。法定上の必要単位数はこれとは一部異なります。

(1) 基礎資格と必要単位

免許状の種類	基礎 資格	本学における最低必要単位数							合計
		免許法施行規則第 66 条の 6				教科及び教職に関する科目			
		日本国 憲法	体育	外国語 コミュニケー ション	数理、データ 活用及び人工 知能に関する 科目又は情報 機器の操作	教育の基 礎的理解 に関する 科目等 (※ 1)	教科及び 教科の指 導法に関 する科目	大学が独 自に設定 する科目	
中 学 校 教 諭 一 種 免 許 状	学士の学位を有すること	2	2	2	2	31	28	4 (※4)	71
							社会は36 (※2)		社会 は79 (※2)
高 等 学 校 教 諭 一 種 免 許 状		2	2	2	2	27	24	8 (※5)	67
							地歴は26 (※3)	地歴は6 (※3) (※5)	

- ※1 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」の各分野の合計を指します。
- ※2 中学校社会の「教科及び教科の指導法に関する科目」は28単位を超える単位修得が必要です。その場合、合計単位数は「教科及び教科の指導法に関する科目」28単位を超えた単位分だけ増えます。
- ※3 高校地理歴史の「教科及び教科の指導法に関する科目」は24単位を超える単位修得が必要です。その場合、「大学が独自に設定する科目」の最低必要単位数は、「教科及び教科の指導法に関する科目」24単位を超えた単位分だけ減じられます。
- ※4 中学校一種免許状の「大学が独自に設定する科目」における必修科目は、「(教)学校教育総合演習」(2単位)、「(教)介護等体験(事前指導)」(1単位)および「(教)介護等体験実習」(1単位)の計4単位です。
- ※5 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「教科及び教科の指導法に関する科目」のそれぞれ定められた最低修得単位数を超えて修得した単位数(余剰分)は、「大学が独自に設定する科目」としてみなすことができます。例：「(教)学校教育総合演習」(2単位)を修得し、余剰分が6単位ある場合は、「大学が独自に設定する科目」の本学における最低修得単位数8単位を満たしたことになります。

(2) 教職基礎科目と教職発展科目(本学における科目区分)

教育職員免許法施行規則における「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「教科及び教科の指導法に関する科目」および「大学が独自に設定する科目」は、本学では「教職基礎科目」と「教職発展科目」という区分を設け科目を設置しています。

①教職基礎科目

教員免許状の取得に必要な科目であり、以下の科目を指します。

- ・「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」のうち、必修科目(中一種免31単位・高一種免27単位)
- ・「各教科の指導法」のうち、「(教)〇〇授業発展演習」以外の科目
- ・「大学が独自に設定する科目」のうち、「(教)学校教育総合演習」(2単位)、「(教)介護等体験(事前指導)」(1単位)、「(教)介護等体験実習」(1単位)

②教職発展科目

教員免許状の取得上は全て選択科目ですが、将来、教員採用試験の受験や教育系大学院への進学など、「進路としての教職」に強い意欲と目標を持つ皆さんにとっては必須の科目です。教員免許状の取得に必要な教職基礎科目の履修・単位修得を踏まえ、さらにより広く、深く学ぶ意欲を持つ皆さんが受講する科目です。全て3回生以上配当で、これらの科目の修得単位は、20単位を上限に卒業に必要な単位(発展科目区分)に含めることができ、受講登録の(Semester 毎/年間)の上限単位数に含みます。なお、「各教科の指導法」の科目のうち「(教)〇〇授業発展演習」は、教職発展科目です。

「教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目」

教育職員免許法施行規則 第 66 条の 6		文学部で履修すべき科目	
科目	学科	科目名	必要 単位数
日本国憲法	人文学科	日本国憲法	2
体育	人文学科	スポーツと現代社会、スポーツのサイエンス、スポーツ方法実習Ⅰ・Ⅱ	2
外国語コミュニケーション	人文学科	学部で開講されている外国語分野の科目 ※	2
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	人文学科	リテラシー入門、情報処理入門、人文学のための情報処理Ⅰ・Ⅱ、人文学のための情報処理・応用	2

※ 必修の正規外国語が該当します。同一語種で2単位以上修得すること。英語の単位回復科目と初修外国語の単位回復科目は、外国語分野の科目に該当しません。初修外国語・既修者対応プログラムの科目は該当します。

ただし、既修者対応プログラムの科目のうち、「ドイツ語上級コミュニケーションⅢ・Ⅳ」、「フランス語上級コミュニケーションⅢ・Ⅳ」、「中国語上級コミュニケーションⅢ・Ⅳ」は該当しません。

「教育の基礎的理解に関する科目」等^{注1)}

3 回生以上配当の「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」については、1・2 回生配当の教職基礎科目^{注2)}のうち、20 単位以上修得しなければ受講できません（後述の＜3 回生配当科目を受講するための「20 単位要件」について＞参照）。

注1) 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」

注2) 「各教科の指導法」科目（2 回生配当科目）、「大学が独自に設定する科目」の「(教) 介護等体験（事前指導）」（2 回生配当科目）を含む。

教育職員免許法施行規則に規定する科目		本学で修得すべき科目					
		教職基礎科目			教職発展科目		
科 目	各科目に含めることが必要な事項	科 目 名 (丸囲みの数字は単位数)	配当 回生	履修区分	科 目 名 (丸囲みの数字は単位数)	配当 回生	履修区分
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	(教) 教育原理②	1 以上	必修			
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	(教) 教職概論②	1 以上	必修			
	教育に関する社会的、制度的又は経営の事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	(教) 教育社会学②	1 以上	必修	(教) 教育制度論②	3 以上	選択
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	(教) 教育心理学②	1 以上	必修	(教) 児童・生徒理解の心理学②	3 以上	選択
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	(教) 特別支援教育概論②	1 以上	必修			
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	(教) 教育課程論②	2 以上	必修			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	(教) 道徳教育の理論と方法②	2 以上	中学必修	(教) 道徳授業発展演習②	3 以上	中学選択
	総合的な学習の時間の指導法（中学校）	(教) 総合的な学習の時間の理論と方法②	3 以上	必修			
	総合的な探究の時間の指導法（高等学校）	(教) 特別活動の理論と方法②	2 以上	必修			
	特別活動の指導法	(教) 特別活動の理論と方法②	2 以上	必修			
	教育の方法及び技術	(教) 教育方法論（ICT 活用を含む）②	2 以上	必修			
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	(教) 教育方法論（ICT 活用を含む）②	2 以上	必修			
	生徒指導の理論及び方法	(教) 生徒指導・進路指導の理論と方法②	2 以上	必修			
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	(教) 生徒指導・進路指導の理論と方法②	2 以上	必修			
教育実践に関する科目	教育実習	(教) 教育実習事前指導①（※1） (教) 教育実習Ⅰ（事後指導を含む）② (教) 教育実習Ⅱ（事後指導を含む）④	3 以上 4 以上 4 以上	必修 中学校 4 単位、 高校 2 単位以上 選択必修（※2）			
	教職実践演習	(教) 教職実践演習（中・高）②	4 以上	必修			

※1 「(教) 教育実習事前指導」は、大学における事前指導をその内容としているため、教育実習を履修する前年度に履修し、その単位を修得しなければなりません。

※2 中学校教諭一種免許状のみ、または中学校教諭一種免許状と高等学校教諭一種免許状の両方を取得する人は「(教) 教育実習Ⅱ（事後指導を含む）」（4 単位）を履修してください。
高等学校教諭一種免許状のみを取得する人は「(教) 教育実習Ⅰ（事後指導を含む）」（2 単位）を履修してください。ただし、高等学校で3週間実習を行う人は「(教) 教育実習Ⅱ（事後指導を含む）」（4 単位）を履修してください。

< 3 回生配当科目を受講するための「20 単位要件」について >

以下の（１）～（３）の 3 回生以上配当科目を受講するためには、下表の 1・2 回生配当科目のうち、20 単位以上修得していなければなりません。

- （１）「教育の基礎的理解に関する科目」「道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」の 3 回生以上配当科目
- （２）「教科及び教科の指導法に関する科目」のうち「各教科の指導法」の 3 回生以上配当科目
- （３）「大学が独自に設定する科目」の 3 回生以上配当科目

「20 単位要件」科目名（丸囲みの数字は単位数）	
（教）教育原理②	（教）特別活動の理論と方法②
（教）教職概論②	（教）教育方法論（ICT 活用を含む）②
（教）教育社会学②	（教）生徒指導・進路指導の理論と方法②
（教）教育心理学②	（教）教育相談の理論と方法②
（教）特別支援教育概論②	（教）〇〇科教育概論② ※
（教）教育課程論②	（教）〇〇科指導法Ⅰ② ※（中学校必修）
（教）道德教育の理論と方法②（中学校必修）	（教）介護等体験（事前指導）①（中学校履修指定）

※「〇〇科」には文学部で取得できる教科名が入ります。（教）なしの科目でも可。

「教科及び教科の指導法に関する科目」

注)「教科に関する専門的事項」の科目には、一部、各学域・専攻の学生のみ履修できる科目が含まれています。要覧「Ⅱ-9 専門科目」を参照の上、所属の学域・専攻において履修が認められている科目を履修してください。

人文学科 中学校一種免許状（社会） 計 36 単位以上

教育職員免許法施行規則に規定する科目		文学部で修得すべき科目			
科目	各教科に含めることが必要な事項	科目名	単位数	配当回生	履修区分
教科に関する専門的事項	日本史・外国史	日本史学総説Ⅰ～Ⅴ	各 2	2 以上	2 科目選択必修
		東洋史概論Ⅰ・Ⅲ	各 2	1 以上	1 科目選択必修
		東洋史概論Ⅱ・Ⅳ	各 2	2 以上	
		ヨーロッパ史概論Ⅱ	2	2 以上	必修
		イスラーム史概論Ⅱ	2	2 以上	必修
		日米関係史	2	2 以上	必修
		日本史特殊講義	2	3 以上	選択
		日本史概論Ⅰ・Ⅱ	各 2	1 以上	
		考古学・文化遺産概論Ⅰ・Ⅱ	各 2	1 以上	
		東洋史学史	2	2 以上	
		東アジア現代史論Ⅰ・Ⅱ	各 2	2 以上	
		ヨーロッパ史概論Ⅰ	2	1 以上	
		イスラーム史概論Ⅰ	2	1 以上	
		史学論	2	1 以上	
	地理学（地誌を含む。）	地理学	2	1 以上	必修
		人文地理学概論	2	1 以上	必修
		自然地理学概論	2	1 以上	必修
		地誌（日本）	2	1 以上	必修
		地誌（世界）	2	1 以上	必修
		歴史地理学	2	2 以上	選択
		経済地理学	2	2 以上	
		村落地理学	2	2 以上	
		都市地理学	2	2 以上	
		文化地理学	2	2 以上	
		地理情報学	2	2 以上	
		環境地理学	2	2 以上	
	「法学、政治学」	政治学入門 ※	2	2 以上	1 科目選択必修
		政治学 ※	2	2 以上	
	「社会学、経済学」	社会学概論	2	1 以上	必修
		翻訳と文化	2	2 以上	選択
		表象とメディア	2	2 以上	
	「哲学、倫理学、宗教学」	哲学概論Ⅰ・Ⅱ	各 2	1 以上	1 科目選択必修
		哲学概論Ⅲ	2	2 以上	
		倫理学概論Ⅰ・Ⅱ	各 2	1 以上	
		宗教学	2	1 以上	
		仏教論	2	1 以上	
		倫理思想史Ⅰ・Ⅱ	各 2	2 以上	選択
		応用倫理Ⅰ	2	2 以上	
		身体論	2	2 以上	
		現象学	2	2 以上	
		正義論	2	2 以上	
		哲学史Ⅰ～Ⅵ	各 2	2 以上	
		フランス現代思想	2	2 以上	
		ドイツ現代思想	2	2 以上	
		キリスト教思想	2	1 以上	
	各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。）	教職基礎科目	(教) 社会科・地理歴史科教育概論	2	必修
			(教) 社会科・公民科教育概論	2	必修
			(教) 社会科・地理歴史科授業法	2	必修
			(教) 社会科・公民科授業法	2	必修
		教職発展科目	(教) 中等社会系授業発展演習	2	選択

※他学部受講科目

人文学科 高等学校一種免許状（地理歴史） 計 26 単位以上

教育職員免許法施行規則に規定する科目		文学部で修得すべき科目				
科目	各教科に含めることが必要な事項	科目名	単位数	配当回生	履修区分	
教科に関する専門的事項	日本史	日本史学総説Ⅰ～Ⅴ	各 2	2 以上	2 科目選択必修	
		日本史特殊講義	2	3 以上	選択	
		日本史概論Ⅰ・Ⅱ	各 2	1 以上		
		考古学・文化遺産概論Ⅰ・Ⅱ	各 2	1 以上		
		史学論	2	1 以上		
	外国史	東洋史概論Ⅰ・Ⅲ	各 2	1 以上	1 科目選択必修	
		東洋史概論Ⅱ・Ⅳ	各 2	2 以上		
		ヨーロッパ史概論Ⅱ	2	2 以上	必修	
		イスラーム史概論Ⅱ	2	2 以上	必修	
		日米関係史	2	2 以上	必修	
		東洋史学史	2	2 以上	選択	
		東アジア現代史論Ⅰ・Ⅱ	各 2	2 以上		
		ヨーロッパ史概論Ⅰ	2	1 以上		
		イスラーム史概論Ⅰ	2	1 以上		
	人文地理学・自然地理学	地理学	2	1 以上	必修	
		人文地理学概論	2	1 以上	必修	
		自然地理学概論	2	1 以上	必修	
		歴史地理学	2	2 以上	選択	
		経済地理学	2	2 以上		
		村落地理学	2	2 以上		
		都市地理学	2	2 以上		
		文化地理学	2	2 以上		
		地理情報学	2	2 以上		
		環境地理学	2	2 以上		
	地誌	地誌（日本）	2	1 以上	必修	
		地誌（世界）	2	1 以上	必修	
各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。）		教職基礎科目	（教）社会科・地理歴史科教育概論	2	2 以上	必修
			（教）社会科・地理歴史科授業法	2	3 以上	必修

人文学科 高等学校一種免許状（公民） 計 24 単位以上

教育職員免許法施行規則に規定する科目		文学部で修得すべき科目				
科目	各教科に含めることが必要な事項	科目名	単位数	配当回生	履修区分	
教科に関する専門的事項 ※1	「法学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	政治学入門 ※2	2	2以上	1科目選択必修	
		政治学 ※2	2	2以上		
	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	社会学概論	2	1以上	必修	
		翻訳と文化	2	2以上	選択	
		表象とメディア	2	2以上		
	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	哲学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1以上	1科目選択必修	
		哲学概論Ⅲ	2	2以上		
		倫理学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1以上		
		宗教学	2	1以上		
		仏教論	2	1以上		
		倫理思想史Ⅰ・Ⅱ	各2	2以上	選択	
		応用倫理Ⅰ	2	2以上		
		身体論	2	2以上		
		現象学	2	2以上		
		正義論	2	2以上		
		哲学史Ⅰ～Ⅵ	各2	2以上		
		フランス現代思想	2	2以上		
		ドイツ現代思想	2	2以上		
	キリスト教思想	2	1以上			
各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。）		教職基礎科目	（教）社会科・公民科教育概論	2	2以上	必修
			（教）社会科・公民科授業法	2	3以上	必修

※ 1 「教科に関する専門的事項」は、必修、選択科目併せて 20 単位以上の修得が必要

※ 2 他学部受講科目

人文学科 中学校一種免許状（国語） 計 28 単位以上

教育職員免許法施行規則に規定する科目		文学部で修得すべき科目				
科目	各教科に含めることが必要な事項	科目名	単位数	配当回生	履修区分	
教科に関する専門的事項 ※1	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	日本語学概論	2	1 以上	必修	
		日本語史概論	2	2 以上	選択	
		現代日本語研究	2	2 以上		
		日本語史研究	2	2 以上		
		コミュニケーション表現法基礎Ⅰ・Ⅱ ※2	各2	1 以上		
		コミュニケーション表現法応用Ⅰ・Ⅱ ※2	各2	2 以上		
	国文学（国文学史を含む。）	日本文学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1 以上	1 科目選択必修	
		日本文学概論Ⅲ・Ⅳ	各2	2 以上	選択	
		日本文学の伝統と現代Ⅰ・Ⅱ	各2	2 以上		
		日本文学の内と外Ⅰ・Ⅱ	各2	2 以上		
		日本文学の光と陰Ⅰ・Ⅱ	各2	2 以上		
		日本文化の周辺Ⅰ・Ⅱ	各2	2 以上		
		日本文学応用研究Ⅰ・Ⅱ	各2	2 以上		
	漢文学	中国文学概論Ⅰ	2	1 以上	1 科目選択必修	
		中国文学概論Ⅱ	2	2 以上	選択	
		中国文学史Ⅰ・Ⅱ	各2	2 以上		
		中国の文化Ⅰ・Ⅱ	各2	2 以上		
		中国文献学	2	2 以上		
		中国文学・思想研究の展開と課題	2	2 以上		
	書道（書写を中心とする。）	書道	2	1 以上	必修	
各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。）		教職基礎科目	（教）国語科教育概論	2	2 以上	必修
			（教）国語科指導法Ⅰ	2	2 以上	必修
			（教）国語科指導法Ⅱ	2	3 以上	必修
			（教）国語科授業法	2	3 以上	必修
		教職発展科目	（教）国語科授業発展演習	2	3 以上	選択

※ 1 「教科に関する専門的事項」は、必修、選択科目併せて 20 単位以上の修得が必要

※ 2 コミュニケーション表現専攻所属学生のみ履修可能

人文学科 高等学校一種免許状（国語） 計 24 単位以上

教育職員免許法施行規則に規定する科目		文学部で修得すべき科目			
科目	各教科に含めることが必要な事項	科目名	単位数	配当回生	履修区分
教科に関する専門的事項 ※1	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	日本語学概論	2	1 以上	必修
		日本語史概論	2	2 以上	選択
		現代日本語研究	2	2 以上	
		日本語史研究	2	2 以上	
		コミュニケーション表現法基礎Ⅰ・Ⅱ ※2	各2	1 以上	
		コミュニケーション表現法応用Ⅰ・Ⅱ ※2	各2	2 以上	
	国文学（国文学史を含む。）	日本文学概論Ⅰ・Ⅱ	各2	1 以上	1 科目選択必修
		日本文学概論Ⅲ・Ⅳ	各2	2 以上	選択
		日本文学の伝統と現代Ⅰ・Ⅱ	各2	2 以上	
		日本文学の内と外Ⅰ・Ⅱ	各2	2 以上	
		日本文学の光と陰Ⅰ・Ⅱ	各2	2 以上	
		日本文化の周辺Ⅰ・Ⅱ	各2	2 以上	
		日本文学応用研究Ⅰ・Ⅱ	各2	2 以上	
	漢文学	中国文学概論Ⅰ	2	1 以上	1 科目選択必修
		中国文学概論Ⅱ	2	2 以上	選択
		中国文学史Ⅰ・Ⅱ	各2	2 以上	
		中国の文化Ⅰ・Ⅱ	各2	2 以上	
		中国文献学	2	2 以上	
		中国文学・思想研究の展開と課題	2	2 以上	
各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。）	教職基礎科目	（教）国語科教育概論	2	2 以上	必修
		（教）国語科指導法Ⅰ	2	2 以上	選択
		（教）国語科指導法Ⅱ	2	3 以上	選択
		（教）国語科授業法	2	3 以上	必修
	教職発展科目	（教）国語科授業発展演習	2	3 以上	選択

※ 1 「教科に関する専門的事項」は、必修、選択科目併せて 20 単位以上の修得が必要

※ 2 コミュニケーション表現専攻所属学生のみ履修可能

人文学科 中学校一種免許状（英語）〔国際コミュニケーション学域以外〕 計 28 単位以上

教育職員免許法施行規則に規定する科目		文学部で修得すべき科目				
科目	各教科に含めることが必要な事項	科目名	単位数	配当回生	履修区分	
教科に関する専門的事項 ※ 1	英語学	英語学概論	2	2 以上	必修	
		英語音声学	2	2 以上	選択	
		Cultural History of the English Language	2	1 以上		
	英語文学	英米文学概論Ⅰ	2	1 以上	1 科目選択必修	
		英米文学概論Ⅱ	2	2 以上		
		英米文学特殊講義	2	2 以上	選択	
		英文学史Ⅰ・Ⅱ	各 2	2 以上		
		米文学史Ⅰ・Ⅱ	各 2	2 以上		
		英書講読（Advanced） ※ 3	2	2 以上		
		英語コミュニケーション	英会話Ⅰ・Ⅱ ※ 2	各 2		2 以上
	英作文法 ※ 2		2	2 以上	必修	
	英文演習 ※ 2		2	2 以上	必修	
	英語論文演習 ※ 3		2	3 以上	選択	
	英語文法論		2	2 以上		
	異文化理解	Englishes in Contact	2	2 以上	1 科目選択必修	
		異文化間コミュニケーション	2	2 以上		
		Introduction to the Culture of English-Speaking Regions and Societies	2	1 以上	1 科目選択必修	
Introduction to Multicultural Society in English-Speaking Regions		2	1 以上			
Introduction to Multilingualism		2	1 以上	選択		
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)		教職基礎科目	(教) 英語科教育概論	2	2 以上	必修
			(教) 英語科指導法Ⅰ	2	2 以上	必修
			(教) 英語科指導法Ⅱ	2	3 以上	必修
			(教) 英語科授業法	2	3 以上	必修
		教職発展科目	(教) 英語科授業発展演習	2	3 以上	選択

※ 1 「教科に関する専門的事項」は、必修、選択科目併せて 20 単位以上の修得が必要

※ 2 当該科目は、英米文学専攻所属学生のみ履修可能科目であるが、英語免許履修許可者に限って、他専攻所属学生にも認め、専門科目として認定する。

※ 3 英米文学専攻所属学生のみ履修可能

人文学科 中学校一種免許状（英語）〔国際コミュニケーション学域〕 計 28 単位以上

教育職員免許法施行規則に規定する科目		文学部で修得すべき科目			
科目	各教科に含めることが必要な事項	科目名	単位数	配当回生	履修区分
教科に関する専門的事項 ※ 1	英語学	英語学概論	2	2 以上	必修
		英語音声学	2	2 以上	選択
		Cultural History of the English Language	2	1 以上	
	英語文学	英米文学概論Ⅰ	2	1 以上	1 科目選択必修
		英米文学概論Ⅱ	2	2 以上	
		英米文学特殊講義	2	2 以上	
		英文学史Ⅰ・Ⅱ	各 2	2 以上	選択
		米文学史Ⅰ・Ⅱ	各 2	2 以上	
	英語コミュニケーション	Academic WritingⅠ・Ⅱ	各 1	2 以上	1 科目選択必修
		Academic Reading & DiscussionⅠ・Ⅱ	各 1	2 以上	1 科目選択必修
		英語文法論	2	2 以上	選択
		Academic PresentationⅠ・Ⅱ	各 1	2 以上	
		Thesis Writing	2	3 以上	
	異文化理解	Englishes in Contact	2	2 以上	1 科目選択必修
		異文化間コミュニケーション	2	2 以上	
		Introduction to the Culture of English-Speaking Regions and Societies	2	1 以上	1 科目選択必修
Introduction to Multicultural Society in English-Speaking Regions		2	1 以上		
Introduction to Multilingualism		2	1 以上		
				選択	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	教職基礎科目	英語科教育概論 / (教) 英語科教育概論 ※ 2	2	2 以上	必修
		英語科指導法Ⅰ / (教) 英語科指導法Ⅰ ※ 2	2	2 以上	必修
		英語科指導法Ⅱ / (教) 英語科指導法Ⅱ ※ 2	2	3 以上	必修
		英語科授業法 / (教) 英語科授業法 ※ 2	2	3 以上	必修
	教職発展科目	英語科授業発展演習 / (教) 英語科授業発展演習 ※ 2	2	3 以上	選択

※ 1 「教科に関する専門的事項」は、必修、選択科目併せて 20 単位以上の修得が必要

※ 2 国際英語専攻所属学生は（教）なしの科目、英語圏文化専攻所属学生は（教）の科目を履修してください。

人文学科 高等学校一種免許状（英語）〔国際コミュニケーション学域以外〕 計 24 単位以上

教育職員免許法施行規則に規定する科目		文学部で修得すべき科目			
科目	各教科に含めることが必要な事項	科目名	単位数	配当回生	履修区分
教科に関する専門的事項 ※ 1	英語学	英語学概論	2	2 以上	必修
		英語音声学	2	2 以上	選択
		Cultural History of the English Language	2	1 以上	
	英語文学	英米文学概論Ⅰ	2	1 以上	1 科目選択必修
		英米文学概論Ⅱ	2	2 以上	
		英米文学特殊講義	2	2 以上	選択
		英文学史Ⅰ・Ⅱ	各 2	2 以上	
		米文学史Ⅰ・Ⅱ	各 2	2 以上	
		英書講読（Advanced） ※ 3	2	2 以上	
	英語コミュニケーション	英会話Ⅰ・Ⅱ ※ 2	各 2	2 以上	1 科目選択必修
		英作文法 ※ 2	2	2 以上	必修
		英文演習 ※ 2	2	2 以上	必修
		英語論文演習 ※ 3	2	3 以上	選択
		英語文法論	2	2 以上	
	異文化理解	Englishes in Contact	2	2 以上	1 科目選択必修
		異文化間コミュニケーション	2	2 以上	
		Introduction to the Culture of English-Speaking Regions and Societies	2	1 以上	1 科目選択必修
		Introduction to Multicultural Society in English-Speaking Regions	2	1 以上	
		Introduction to Multilingualism	2	1 以上	選択
	各教科の指導法 （情報通信技術の活用を含む。）	教職基礎科目	（教）英語科教育概論	2	必修
			（教）英語科指導法Ⅰ	2	選択
			（教）英語科指導法Ⅱ	2	選択
			（教）英語科授業法	2	必修
		教職発展科目	（教）英語科授業発展演習	2	選択

※ 1 「教科に関する専門的事項」は、必修、選択科目併せて 20 単位以上の修得が必要

※ 2 当該科目は、英米文学専攻所属学生のみ履修可能科目であるが、英語免許履修許可者に限って、他専攻所属学生にも認め、専門科目として認定する。

※ 3 英米文学専攻所属学生のみ履修可能

人文学科 高等学校一種免許状（英語）〔国際コミュニケーション学域〕 計 24 単位以上

教育職員免許法施行規則に規定する科目		文学部で修得すべき科目			
科目	各教科に含めることが必要な事項	科目名	単位数	配当回生	履修区分
教科に関する専門的事項 ※1	英語学	英語学概論	2	2 以上	必修
		英語音声学	2	2 以上	選択
		Cultural History of the English Language	2	1 以上	
	英語文学	英米文学概論Ⅰ	2	1 以上	1 科目選択必修
		英米文学概論Ⅱ	2	2 以上	
		英米文学特殊講義	2	2 以上	選択
		英文学史Ⅰ・Ⅱ	各2	2 以上	
		米文学史Ⅰ・Ⅱ	各2	2 以上	
		英語コミュニケーション	Academic WritingⅠ・Ⅱ	各1	2 以上
	Academic Reading & DiscussionⅠ・Ⅱ		各1	2 以上	1 科目選択必修
	英語文法論		2	2 以上	選択
	Academic PresentationⅠ・Ⅱ		各1	2 以上	
	Thesis Writing		2	3 以上	
	異文化理解	Englishes in Contact	2	2 以上	1 科目選択必修
		異文化間コミュニケーション	2	2 以上	
		Introduction to the Culture of English-Speaking Regions and Societies	2	1 以上	1 科目選択必修
		Introduction to Multicultural Society in English-Speaking Regions	2	1 以上	
Introduction to Multilingualism		2	1 以上	選択	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	教職基礎科目	英語科教育概論 / (教) 英語科教育概論 ※2	2	2 以上	必修
		英語科指導法Ⅰ / (教) 英語科指導法Ⅰ ※2	2	2 以上	選択
		英語科指導法Ⅱ / (教) 英語科指導法Ⅱ ※2	2	3 以上	選択
		英語科授業法 / (教) 英語科授業法 ※2	2	3 以上	必修
	教職発展科目	英語科授業発展演習 / (教) 英語科授業発展演習 ※2	2	3 以上	選択

※ 1 「教科に関する専門的事項」は、必修、選択科目併せて 20 単位以上の修得が必要

※ 2 国際英語専攻所属学生は（教）なしの科目、英語圏文化専攻所属学生は（教）の科目を履修してください。

「大学が独自に設定する科目」

以下の一覧表にある科目の単位を修得した場合は、「大学が独自に設定する科目」として充当することができます。

ただし、3回生以上配当の「大学が独自に設定する科目」については、1・2回生配当の教職基礎科目^{※1)}のうち、20単位以上修得しなければ受講できません（前述の＜3回生配当科目を受講するための「20単位要件」について＞参照）。

注1）「大学が独自に設定する科目」の「(教) 介護等体験（事前指導）」(2回生配当科目)を含む。

(1) 「大学が独自に設定する科目」一覧表

本学 科目区分	科目名	単位数	免許状校種	配当 回生	備考
教職基礎 科目	(教) 学校教育総合演習	2	中・高 一種	3 以上	中学校必修、高校必修
	(教) 介護等体験(事前指導)	1	中・高 一種	2 以上	中学校履修指定
	(教) 介護等体験実習	1	中・高 一種	3 以上	中学校履修指定（※1） 「(教) 介護等体験（事前指導）」の単位を修得済みでなければ、履修不可。
	(教) 道德教育の理論と方法	2	高 一種	2 以上	中学校必修、高校選択（※2）
教職発展 科目	(教) 人間と差別の教育論	2	中・高 一種	3 以上	選択
	(教) 国際理解教育論	2	中・高 一種	3 以上	選択
	(教) 学校文化論	2	中・高 一種	3 以上	選択
	(教) 学級担任論	2	中・高 一種	3 以上	選択
	(教) 道德授業発展演習	2	高 一種	3 以上	選択（※2）
	(教) 中等社会系授業発展演習	2	高 一種 地歴・公民	3 以上	選択（※3）
	(教) 学校インターンシップⅠ	2	中・高 一種	3 以上	選択
	(教) 学校インターンシップⅡ	3	中・高 一種	3 以上	選択
	(教) 学校インターンシップⅢ	4	中・高 一種	3 以上	選択

※1 介護等体験証明書を授与されたにも関わらず「(教) 介護等体験実習」の単位を修得できない場合は、免許状一括申請の対象とはしない。後述する「介護等体験について」に示す免除対象者については履修の必要はない。

※2 中学校一種免許状取得に関해서는「道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」として扱う。

※3 中学校一種免許状（社会）取得に関해서는「教科及び教科の指導法に関する科目」として扱う。

(2) 他校種必要単位の余剰分の修得によって「大学が独自に設定する科目」としてみなすことができる「各教科の指導法」科目、「教育実践に関する科目」（※高等学校一種免許状取得者のみ）

① 当該免許状教科の「(教) ○○科指導法Ⅰ」（2回生配当、2単位）、「(教) ○○科指導法Ⅱ」（3回生配当、2単位）

② 「(教) 教育実習Ⅱ（事後指導を含む）」(4回生配当) 4単位のうち2単位分

(3) 「教育の基礎的理解に関する科目」、「道德、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」、「教育実践に関する科目」、「教科及び教科の指導法に関する科目」のそれぞれ定められた必修単位数を超えて修得した余剰分は、「大学が独自に設定する科目」としてみなすことができます。

(4) 「大学が独自に設定する科目」にそのまま充当できる学部開設科目

	科目名	単位数	免許状校種	配当 回生	備考
学部専門 科目	教育人間学概論（人間形成）Ⅰ	2	中・高 一種	1 以上	選択
	教育人間学概論（人間形成）Ⅳ	2	中・高 一種	2 以上	選択
	教育人間学研究法Ⅲ	2	中・高 一種	2 以上	選択
	教育人間学研究法Ⅳ	2	中・高 一種	2 以上	選択
	教育人間学研究法Ⅴ	2	中・高 一種	2 以上	選択
	教育人間学研究法Ⅵ	2	中・高 一種	2 以上	選択

「大学が独自に設定する科目」(の続き)

※以下の場合には、「大学が独自に設定する科目」としてみなすことができませんので注意してください。

(1) 当該教科以外の「各教科の指導法」科目

異なる教科の指導法科目「(教) ○○科教育概論」「(教) ○○科指導法Ⅰ」「(教) ○○科指導法Ⅱ」「(教) ○○科授業法」「(教) ○○科授業発展演習」は、当該教科以外の「大学が独自に設定する科目」としてみなすことができません。

【例1:「公民科」と「地理歴史科」の場合】

「(教) 社会科・地理歴史科教育概論」「(教) 社会科・地理歴史科授業法」は、公民科(高等学校一種)の「大学が独自に設定する科目」としてみなすことはできません。

また、「(教) 社会科・公民科教育概論」「(教) 社会科・公民科授業法」は、地理歴史科(高等学校一種)の「大学が独自に設定する科目」としてみなすことはできません。

【例2:「国語科」と「英語科」(ともに中学校一種)の場合】

英語科(中学校一種)の科目である「(教) 英語科教育概論」「(教) 英語科指導法Ⅰ」「(教) 英語科指導法Ⅱ」「(教) 英語科授業法」「(教) 英語科授業発展演習」は、国語科(中学校一種)の「大学が独自に設定する科目」としてみなすことはできません。

(2) 当該教科以外の「教科に関する専門的事項」に関する科目

異なる教科の「教科に関する専門的事項」に関する科目を修得しても、当該教科以外の「大学が独自に設定する科目」としてみなすことはできません。

教育実習について

教育実習とは、中学校または高等学校の実際の学校教育の現場に実習生として配属され、教育活動に参加することです。この教育実習は、教職課程履修の仕上がりというべきものであり、教壇に立って実際に授業を行う経験を得るだけでなく、教育活動の全般にわたって理解を深め、教員として必要な知識や技能、態度などを身につけることが目的です。

教育実習は、実習受入校の厚意と協力によって可能となっているものであり、大学の責任ある指導と実習生の真に教職を目指す姿勢が求められます。また、実習受入校は、あくまでも卒業後の進路に教職を第一志望として考えている人を対象に実習指導を行います。資格取得のみを目的とした安易な姿勢で教育実習を行うことは、実習受入校の先生や生徒に大きな迷惑をかけることとなります。したがって、教育実習の履修にあたっては、自らの進路計画を踏まえ、十分な心構えで臨まなければなりません。

(1) 「教育実習」の内容と実習期間

教育実習は「(教) 学校教育総合演習」、「(教) 教育実習事前指導」、直前ガイダンス、実習校での実習、事後指導からなる一貫したものです。したがって、その全てを受講し、所定の手続きを行う必要があります。教育実習の詳細については、3年生での「(教) 学校教育総合演習」および「(教) 教育実習事前指導」の授業において説明があります。また、「(教) 学校教育総合演習」の授業で、「教育実習の手引き」が配付されますので、よく読んで理解を深めてください。なお、「(教) 教育実習事前指導」を履修するためには、「(教) 学校教育総合演習」を修得していることが必要です。

実習校での実習は、教育活動全般(ホームルーム、クラブ活動含む)について、観察実習、参加実習、授業実習により構成されますが、その内容については、それぞれの実習校の実情に即した教育実習の指導計画が編成されています。教育実習期間は、各実習校により異なりますが、例年、5月～11月までの間に実施されます。

(2) 「(教) 教育実習ⅠまたはⅡ(事後指導を含む)」の受講資格

教育実習を履修するためには、以下の要件を全て満たしていることが必要です。

- ①「(教) 教育実習ⅠまたはⅡ(事後指導を含む)」受講年度の開始時点で、卒業見込みおよび実習校種・教科における教員免許状取得見込みであること

＜教員免許状取得見込みとは＞

卒業見込みがあり、下表の「教育職員免許法施行規則に規定する科目の本学必要単位数(27単位)」および「(教) 学校教育総合演習」「(大学が独自に設定する科目)・2単位」を修得している状態

- ②実習受入校や教育委員会との手続きなどが全て完了していること

「教員免許状取得見込み」関係科目

教育職員免許法施行規則に規定する科目		科目名	単位数	配当 回生	履修区分
科 目	各科目に含めることが必要な事項				
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	(教) 教育原理	2	1 以上	必修
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	(教) 教職概論	2	1 以上	必修
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	(教) 教育社会学	2	1 以上	必修
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	(教) 教育心理学	2	1 以上	必修
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	(教) 特別支援教育概論	2	1 以上	必修
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	(教) 教育課程論	2	2 以上	必修
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法(中学校) 総合的な探究の時間の指導法(高等学校)	(教) 総合的な学習の時間の理論と方法	2	3 以上	必修
	特別活動の指導法	(教) 特別活動の理論と方法	2	2 以上	必修
	教育の方法及び技術	(教) 教育方法論（ICT 活用を含む）	2	2 以上	必修
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法				
	生徒指導の理論及び方法	(教) 生徒指導・進路指導の理論と方法	2	2 以上	必修
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法				
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	(教) 教育相談の理論と方法	2	2 以上	必修	
教育実践に関する科目	教育実習	(教) 教育実習事前指導	1	3 以上	必修
教科及び教科の指導法に関する科目	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）※1	社会科：(教) 社会科・地理歴史科教育概論または (教) 社会科・公民科教育概論 地歴科：(教) 社会科・地理歴史科教育概論 公民科：(教) 社会科・公民科教育概論 国語科：(教) 国語科教育概論 英語科：(教) 英語科教育概論 ※3	2	2 以上	必修 「(教) ○○科授業法」と同一教科であること ※2
		社会科：(教) 社会科・地理歴史科授業法または (教) 社会科・公民科授業法 地歴科：(教) 社会科・地理歴史科授業法 公民科：(教) 社会科・公民科授業法 国語科：(教) 国語科授業法 英語科：(教) 英語科授業法 ※3	2	3 以上	必修 「(教) ○○科教育概論」と同一教科であること ※2
大学が独自に設定する科目		(教) 学校教育総合演習	2	3 以上	必修
合計（1 教科あたり）			29		

※1 教科の指導法は教育実習と同一教科で履修してください。教育実習は所属学科で取得できる免許状教科での履修となります。

※2 教科ごとに、同一教科の(教) ○○科教育概論および(教) ○○科授業法を履修し、合計 29 単位を満たす必要があります。異なる教科の「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」を複数履修し、結果的に合計単位数が 29 単位となっても、教員免許状取得見込みとなりませんので注意してください。

※3 国際英語専攻所属の学生は、当該専攻の専門科目である「英語科教育概論」および「英語科授業法」を履修してください。

(3) 実習校について

原則として、各自が中学校や高等学校を訪問して依頼し、承諾を受けることで実習校を確保します。ただし、教育委員会からの配当によって実習校が決定される場合もあり、また、本学附属校出身者についても取り扱いが異なります。詳細は、教育実習前年度に受講する「(教) 学校教育総合演習」で説明します。

介護等体験について

義務教育課程（小学校および中学校）の教員免許状申請時には、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」により、7日間以上の介護等体験の証明書が必要となります。介護等体験とは、18歳に達した後に行う、特別支援学校や社会福祉施設などにおいて、7日間以上にわたる介護などの体験のことを指します。

本学では、介護等体験を「大学が独自に設定する科目」の一部として単位化しており、小・中学校の免許状の取得を希望する場合は、履修指定科目となります。介護等体験の申し込み手続きの説明や事前指導については、2回生担当の「(教) 介護等体験（事前指導）」において行います。介護等体験は、3回生担当の「(教) 介護等体験実習」として履修します。したがって、「(教) 介護等体験実習」を履修するためには、原則、前年度に「(教) 介護等体験（事前指導）」の単位を修得していることが必要となります。

なお、「(教) 介護等体験（事前指導）」(2回生担当)は、「(教) 介護等体験実習」(3回生担当)と連続して受講すべき科目であることから、翌年度3回生以上担当科目の受講に必要な条件（20単位要件）を満たす見込みがない場合にはその受講を認めません。

※介護等体験の免除について

以下の(1)～(3)に該当する人は介護等体験が免除されますので、教職教育課に「免除申告書」を提出してください。なお、介護等体験が免除されるかどうか分からない場合は、事前に教職教育課の窓口で確認・相談してください。

- (1) 介護等体験特例法が施行される以前（1998(平成10)年3月31日以前）に、大学・短大に在学した者であって、卒業までの間に小学校または中学校教諭の専修、一種または二種のいずれかの免許状取得のための所要資格を得た者
- (2) 介護等に関する専門的知識及び技術を有すると認められる者
保健師、助産師、看護師、准看護師、盲・ろう・特別支援学校教員、理学療法士、作業療法士、社会福祉士、介護福祉士又は義肢装具士の免許・資格を既に有している者（取得見込みの場合は介護等体験が必要）
- (3) 身体上の障害により介護等の体験を行うことが困難な者
身体障害者手帳に、障害の程度が1級から6級であるとして記載されている者

「(教)学校インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、
「学校ボランティア」
について

本学では、近畿地区の教育委員会や小学校・中学校・高等学校・特別支援学校などと連携し、教師を目指す皆さんを対象とした「(教) 学校インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ」、「学校ボランティア」を実施しています。教師を目指すためには、教職に関する理論や教科に関する知識を身につけるだけでなく、教師の仕事の実際や児童・生徒の様子について、体験的に知ることが重要です。

3回生より受講することができる「(教) 学校インターンシップⅠ・Ⅱ・Ⅲ」は、学校での現場体験活動を含んだ科目で、授業補助や学習支援、発達障害を持つ子どもへの支援など、教師の仕事を幅広く体験し、学ぶことができます。

「(教) 学校インターンシップⅠ」(2単位)は研修時間の合計が40時間以上、「(教) 学校インターンシップⅡ」(3単位)は70時間以上、「(教) 学校インターンシップⅢ」(4単位)は100時間以上の現場体験活動を含み、いずれも事前・事後指導（講義）の受講が必須です。

また、「学校ボランティア」は、単位授与は行いませんが、学校における特定の活動を支援する中で、児童・生徒と関り、教師の仕事について理解を深めることができます。ぜひ積極的にこの制度を利用してください。

教育職員免許法等の
改正と適用カリキュ
ラムについて

2025年度入学者の皆さんは、本学修要覧に記載されたカリキュラムに沿って履修していくことになります。

2019～2021年度入学者の皆さんは、教育職員免許法の改正(2019年施行)を受け、それに対応するカリキュラムとなっています。一方、2022年度以降の入学者の皆さんは、そのつどの教育職員免許法施行規則の改正を受け、それぞれの入学年度に対応するカリキュラムとなっています。このように、入学年度により、学修要覧に記載されている教職課程のカリキュラムや履修方法、科目名称等が異なりますので、必ず、自らの入学年度の学修要覧を参照して履修するようにしてください。

VI. キャリア形成・資格取得

1. 大学院進学
2. 学芸員課程
3. 図書館司書課程
4. 学校図書館司書教諭課程
5. 地域研究学域で取得可能な資格など
6. 日本語教師養成課程
7. 日本語教育能力検定試験

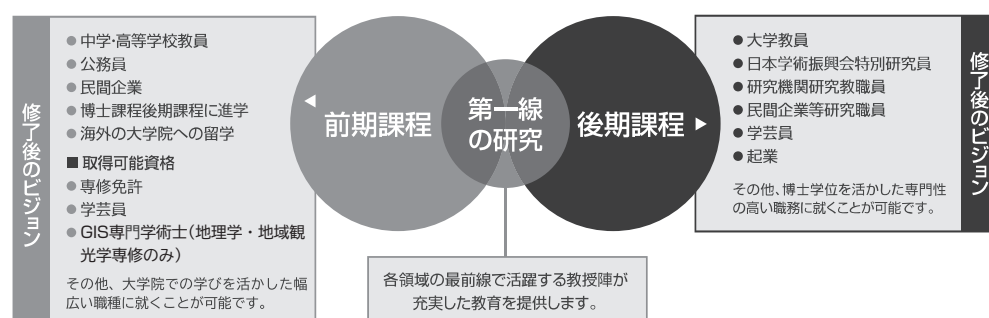
VI - 1. 大学院進学

文学研究科

文学研究科は、文学部に接続する大学院として、人文学専攻と行動文化情報学専攻の2専攻・14専修制のもとで多様かつ現代的な視点から研究を行っています（文化情報学専修は、2026年度入学生より募集を停止します）。

卒業後、文学部での学びをさらに深め、より専門的な知識を身に付けたいという場合、文学研究科への進学は選択肢のひとつとしてあげられます。文学研究科へ進学し、修士学位取得後は、人文学の学びを活かし、高度な知識基盤社会で活躍することや、博士課程後期課程へ進学し研究者を目指すことができます。

文学研究科への進学を希望する場合は、立命館大学大学院 入試情報サイトより入試要項を入手して、出願方法等を確認してください（入試方式によって、出願資格や選考方法等が異なります）。また、学内で実施される大学院進学説明会や大学院ウィーク企画に参加して必要な情報を入手してください。



大学院進学プログラム

「大学院進学プログラム」は、文学研究科への進学を希望する文学部生を対象としたプログラムです。

学部3回生時に募集・選考を行い、4回生時に文学研究科の科目（研究指導科目含む）を履修することができます。その後、入学試験に合格し文学研究科に入学した場合、修得した大学院科目の単位認定をおこなうことが可能です（上限あり）。そのため、認定された単位と大学院に入学してから修得した単位を合わせて修了に必要な単位を満たすとともに、優れた業績を上げ、修士論文の審査に合格すれば、文学研究科の許可を得られた場合、最短1年間の修士学位取得が可能となります。

毎年度秋学期に、募集ガイダンスを実施しています。希望者はガイダンスに出席してください。

大学院科目早期履修制度

「大学院科目早期履修制度」は、文学研究科への進学を希望する文学部生（4回生以上）に、大学院科目を早期に履修する機会を提供することで、大学院進学へのモチベーションを高めてもらうことを目的としたプログラムです。入学試験に合格し、文学研究科に入学した場合、修得した大学院科目の単位認定をおこなうことが可能です（上限あり）。

7月下旬～8月上旬に募集があり、出願のうえ許可された場合、4回生秋学期に6単位を上限に文学研究科の科目を履修することができます（受講できる科目に制限あり）。

大学院進学プログラムと大学院科目早期履修制度の違い

	大学院科目			
	出願時期	履修時期	科目制限	単位数登録上限
大学院進学プログラム	3回生 秋学期	4回生通年	無	15単位
大学院科目早期履修制度	4回生以上 春学期	4回生以上 秋学期	有	6単位

※この情報は、2025年4月時点のものです。今後、変更となる可能性があります。

VI - 2. 学芸員課程

学芸員課程を学ぶにあたって

博物館には、博物館法に基づき資料の収集・保管・展示と調査研究およびこれらと関連する諸事情を司る専門職として学芸員の設置が義務付けられています。また、博物館に類する事業として、美術館・資料館・動物園・水族館・植物園などにおいても学芸員の職域が開かれています。

学芸員の資格取得については「博物館法」第5条で定められており、この法律に基づいて本学では文学部・映像学部のみ学芸員課程を設置しています。ここでは本学部の履修方法を掲載しますが、これ以外にも様々な細かな手続きが必要であり、manaba+Rのお知らせ通知には常に注意を払い、必ず指示に従うようにしてください。

課程の概要

(1) 学芸員資格取得までの流れ

注意：下記の手続きは資格取得の為にはすべて必要です。

また、日程はあくまで予定ですので、manaba+Rのお知らせを必ず確認してください。

【1回生】

11月頃…………… 新規履修者ガイダンス（「学芸員課程の手引き」および「学芸員課程原簿」の配布）

12月頃…………… 「学芸員課程原簿」の提出と履修料の納入をもって学芸員課程履修の申し込み

【2回生】

4月…………… 2回生担当科目を履修開始

2回生終了時までに次頁の（3）カリキュラム※2の条件を満たさないと、3回生春学期時点で「（芸）博物館・学内実習Ⅱ～Ⅳ」の履修ができません。

【3回生】

11月頃…………… 〔博物館・館園実習〕第1回ガイダンス

3月下旬…………… 〔博物館・館園実習〕「個人概況表」の配付および実習料の納入

3回生終了時までに4回生担当の「博物館・館園実習」を除くすべての必修科目を修得できない場合、4回生時に「博物館・館園実習」の履修ができません。

【4回生】

4月…………… 受講登録時に「博物館・館園実習」を必ず登録すること

6月中旬…………… 〔博物館・館園実習〕事前ガイダンス（事前指導）

6月以降（随時）… 〔博物館・館園実習〕実習開始

11月頃…………… 〔博物館・館園実習〕事後ガイダンス（事後指導）

3月…………… 卒業式、学芸員資格証明書授与、博物館実習簿の返却

課程の概要（続き）

（2）履修方法

1 回生秋学期に「学芸員課程原簿」の提出と、課程履修料（2025年度は3,000円の予定）を納入する必要があります。この届け出をしていない場合は学芸員課程「博物館・館園実習」の受講を認めません。

（3）カリキュラム

省令科目	本学開講科目名称	必要単位数	配当 回生
博物館概論	(芸) 博物館概論／博物館概論	2	2
博物館経営論	(芸) 博物館経営論／博物館経営論	2	2
博物館資料論	(芸) 博物館資料論／博物館資料論	2	2
博物館資料保存論	(芸) 博物館資料保存論／博物館資料保存論	2	2
博物館展示論	(芸) 博物館展示論／博物館展示論	2	2
博物館教育論	(芸) 博物館教育論／博物館教育論	2	2
生涯学習概論	(芸) 生涯学習概論	2	2
博物館情報・メディア論	(芸) 博物館情報・メディア論／博物館情報・メディア論	2	2
博物館実習	博物館・学内実習Ⅰ（1単位）（※1）	2科目 2単位 選択必修	2
	(芸) 博物館・学内実習Ⅱ（1単位）（※2）		3
	(芸) 博物館・学内実習Ⅲ（1単位）（※2）		3
	(芸) 博物館・学内実習Ⅳ（1単位）（※2）		3
	(芸) 博物館・館園実習／博物館・館園実習	1	4

※1 考古学・文化遺産専攻の学生のみ受講可

※2 「(芸) 博物館・学内実習Ⅱ～Ⅳ」の受講条件は、その前学期末までに「博物館概論」、「博物館経営論」、「博物館資料論」、「博物館資料保存論」、「博物館展示論」、「博物館教育論」、「生涯学習概論」、「博物館情報・メディア論」の合計8分野のうち、5分野以上を修得していることです。

※1、※2 「博物館・学内実習Ⅰ」と「(芸) 博物館・学内実習Ⅱ～Ⅳ」のうち3科目以上受講することはできません。考古学・文化遺産専攻の学生は「(芸) 博物館・学内実習Ⅲ」を受講できません。

注) (芸) がつく科目名称は卒業に必要な単位には含まれません。

考古学・文化遺産専攻の学生は、一部科目（「(芸) 生涯学習概論」、「(芸) 博物館・学内実習Ⅱ～Ⅳ」）を除き、学芸員課程の科目は、専門科目として認定されます。専門科目として認定される科目は、科目名称の前に(芸) が付かず、受講登録のセメスター毎の登録上限単位数に含まれます。受講登録の際は授業コードも異なりますので、注意してください。

● 「博物館・学内実習」とは、博物館資料の取り扱いの基本について、学内実習と学外の博物館等施設の見学を通じて、実践的能力を身に付ける授業です。

● 「博物館・館園実習」とは、学外の諸施設において現職の学芸員から指導を受ける館園実習といわれるもので、学芸員課程の総仕上げとなる重要な実習です。「事前指導・事後指導」への出席を含め単位認定します。

● 「博物館・館園実習」の受講資格は、以下の通りです。

- ① 「博物館・館園実習」受講の前年度末までに「博物館・館園実習」を除く全ての必修科目（18単位以上）の単位を修得していること。
- ② 「博物館・館園実習」受講年度の開始時点で卒業見込みであること。
- ③ 所定の手続きを全て完了していること。

※博物館・館園実習実習料は10,000円（科目等履修生は12,000円）を徴収します。また、実習に関る交通費・宿泊費・食事代などは学生の自己負担です。

※受講資格が得られない者は、事前に文学部事務室へ相談すること。

VI - 3. 図書館司書課程

図書館司書課程を学ぶにあたって

図書館は読書センターであると同時に、情報センターであり、今日では印刷資料と電子資料やインターネット情報資源を組み合わせた高度な情報提供機能を発揮することが求められています。また、図書館司書は図書館資料の選択、発注及び受け入れから、分類、目録作成、貸出業務、読書案内などを行う専門的職員です。

図書館司書になるための資格は大学で図書館法によって定められた科目を履修し、単位を取得すれば卒業と同時に資格が得られます。

文学部では日本文学研究学域の「日本語情報学専攻」において図書館情報学の研究が行われ、最新の知見が司書課程の教育にも反映されています。

課程の概要

(1) カリキュラム

	法定科目名称	本学開講科目名称	単位数	配当 回生	履修方法
必修科目	生涯学習概論	(芸) 生涯学習概論	2	2	必修 (※ 1)
	図書館概論	(図) 図書館概論／図書館概論	2	2	必修
	図書館制度・経営論	(図) 図書館制度・経営論／図書館制度・経営論	2	2	必修
	図書館情報技術論	(図) 図書館情報技術論／図書館情報技術論	2	2	必修
	図書館サービス概論	(図) 図書館サービス概論／図書館サービス概論	2	2	必修
	情報サービス論	(図) 情報サービス論／情報サービス論	2	2	必修
	情報サービス演習	(図) 情報サービス演習Ⅰ	1	3	必修 (※ 2)
		(図) 情報サービス演習Ⅱ	1	3	必修 (※ 2)
	図書館情報資源概論	(図) 図書館情報資源概論／図書館情報資源概論	2	2	必修
	情報資源組織論	(図) 情報資源組織論／情報資源組織論	2	2	必修
	情報資源組織演習	(図) 情報資源組織演習Ⅰ	1	3	必修 (※ 2)
		(図) 情報資源組織演習Ⅱ	1	3	必修 (※ 2)
選択科目	児童サービス論	(図) 子どもの発達と読書・図書館	2	2	必修 (※ 3)
	図書館情報資源特論	(図) 図書館情報資源特論	2	2	2科目選択必修
	図書・図書館史	(図) 図書・図書館史	2	2	
	図書館施設論	(図) 図書館施設論	2	2	

注) 全て卒業に必要な単位に含まれません。ただし、日本語情報学専攻の学生は、一部科目(「(芸) 生涯学習概論」、「(図) 情報サービス演習Ⅰ・Ⅱ」、「(図) 情報資源組織演習Ⅰ・Ⅱ」、「(図) 子どもの発達と読書・図書館」、「選択科目」)を除き、図書館司書課程の科目は、専門科目として認定されます。専門科目として認定される科目は、科目名称の前に(図)が付かず、受講登録のセメスター毎の受講登録上限単位数に含まれます。受講登録の際は授業コードも異なりますので、注意してください。

※ 1 「(芸) 生涯学習概論」は学芸員課程にも共通する科目です。

※ 2 一部、3回生配当科目です。2年間で修得できるように履修計画を立ててください。

※ 3 「(図) 子どもの発達と読書・図書館」は、学校図書館司書教諭課程にも共通する科目です。

(2) 課程の修得年限

2・3回生時の2年間で履修します。時間割上、必ずしも履修の機会が保障されているわけではありません。2回生時になるべく履修を済ませるなど、各自、重複しないよう工夫して時間割を組むようにしてください。

(3) 受講登録

受講許可者は、自らの履修計画に従って受講登録期間内に登録してください。受講許可者以外の学生が受講登録してもエラーになり、受講登録が無効になります。

募集概要

図書館司書課程原簿 の提出と履修料の納 付

(1) 履修資格

- ・履修開始年度に文学部2回生であること。
- ・前年度の1回生秋学期に在学し、ガイダンスに出席していること。
- ・2回生4月に図書館司書課程原簿を提出していること。

(2) 申し込み方法

所定の志望理由書を期日までに提出してください。審査の上、選考を行います。1回生の11月頃に募集ガイダンスを行いますので、必ず出席してください。

日本語情報学専攻の学生は、書類審査はありませんが、1回生の11月頃に実施するガイダンスへ必ず出席してください。また、志望理由書は、履修の意思確認のため必ず期日までに提出してください。

本課程は、15,000円の履修料が必要です。本課程の履修者は、履修料を納入の上、所定の期日までに図書館司書課程原簿を文学部事務室へ提出してください。

VI - 4. 学校図書館司書教諭課程

課程の概要

小学校・中学校・高等学校・特別支援学校などには、図書館が設けられ学校教育に必要な図書、視聴覚教育の資料を収集・整理保存し、児童・生徒・教員に提供することによって、健全なる知的精神の高揚と自主的・個性的活動の強化を通じて学校教育の充実を目指しています。この学校図書館専門的職務を行うのが学校図書館司書教諭です。

学校図書館司書教諭は12学級以上の学校には必ず置かなければならないこと、この司書教諭は教諭をもって充てること、この教諭は司書教諭の講習を修了した者でなければならぬことが、学校図書館法に定められています。

文学部では日本文学研究学域の「日本語情報学専攻」において図書館情報学の研究が行われ、最新の知見が学校図書館司書教諭課程の教育にも反映されています。

(1) カリキュラム

法定科目名称	本学開講科目名称	単位数	配当回生	履修方法
学校経営と学校図書館	(図) 学校経営と学校図書館	2	3	必修
学校図書館メディアの構成	(図) 学校図書館メディアの構成	2	3	必修
学習指導と学校図書館	(図) 学習指導と学校図書館	2	3	必修
読書と豊かな人間性	(図) 子どもの発達と読書・図書館	2	3	必修(※1)
情報メディアの活用	(図) 情報メディアの活用	2	3	必修

注) 全て、卒業に必要な単位に含まれません。

※1 「(図) 子どもの発達と読書・図書館」は、図書館司書課程にも共通する科目です。

(2) 課程の修得年限

原則は、3回生時の1年間のみで履修します。3回生時に3回生ゼミ(専門演習Ⅰ・Ⅱ)と時間割重複した場合のみ、4回生時での特別受講が認められることもあります。必ずしも履修の機会が保障されているわけではありません。各自、重複しないよう工夫して時間割を組むようにしてください。

(3) 受講登録

受講許可者は、自らの履修計画に従って受講登録期間内に登録してください。受講許可者以外の学生が受講登録してもエラーになり、受講登録が無効になります。

募集概要

(1) 履修資格

- ・履修開始年度に文学部3回生であること。
- ・教職課程を履修中であり、かつ2回生終了時点で教職課程の「教職基礎科目」を20単位以上修得済であること。
- ・履修開始前年度の2回生秋学期に在学し、ガイダンスに出席していること。
- ・3回生4月に学校図書館司書教諭課程原簿を提出していること。

(2) 申し込み方法

所定の志望理由書を期日までに提出してください。書類選考を行います。2回生の11月頃に募集ガイダンスを行いますので、必ず出席してください。

学校図書館司書教諭 課程原簿の提出と履 修料の納付

本課程は、8,000円の履修料が必要です。本課程履修者は、履修料を納入の上、所定の期日までに学校図書館司書教諭課程原簿を文学部事務室へ提出してください。

VI - 5. 地域研究学域で取得可能な資格など

地域研究学域では、定められた科目および単位を取得することにより、測量士補、地域調査士、GIS 学術士の資格が取得できます。これらの資格は、地域を調査するに当たって現場で使える専門的な資格であり、測量や地図関係といった専門スキルを生かした分野に進む道も開かれます。

このうち測量士補は2回生で地理学専攻に所属した学生のみが対象です。地域調査士およびGIS 学術士については、地域研究学域の全ての専攻に所属する学生が対象となります。

分 類	資 格	地理学専攻	地域観光学専攻
国家資格	測量士補	○	×
民間資格	地域調査士	○	○
	GIS 学術士	○	○

○：認定科目の単位を取得すれば資格取得可能

測量士補

1. 測量士補とは

測量士補とは、土地を測るプロとして、測量・建築・土木・発掘などの実務だけではなく、都市計画や設計にも活かせる国家資格です。測量法に基づき、国土交通省国土地理院が所管しています。

2回生の進級時に地理学専攻に所属し、定められた科目および単位を取得して卒業した学生は、「測量法第51条第1号」に該当し、この資格を取得することができます。

2. 資格申請に必要な科目および単位

資格申請を行うためには、下表の科目のうち、地理学専攻必修科目2単位を含め40単位以上を取得している必要があります。ただし、下表中の○の科目を履修して測量士補の資格を取得することを強く推奨します。

区 分	科 目	配当回生	単位数	地理学専攻履修方法	測量士補取得要件単位
入門科目	地域調査入門	1回生以上	2	必修	2
小集団科目	研究入門Ⅰ	1回生のみ	2	履修指定	左記科目のうち 38以上
概論	自然地理学概論	1回生以上	2	〃	
	人文地理学概論	1回生以上	2	〃	
講義	地誌（世界）	1回生以上	2	選択	
	地誌（日本）	1回生以上	2	〃	
	環境地理学	2回生以上	2	〃	
	歴史地理学	2回生以上	2	〃	
	村落地理学	2回生以上	2	〃	
	都市地理学	2回生以上	2	〃	
	経済地理学	2回生以上	2	〃	
	文化地理学	2回生以上	2	〃	
	リモートセンシング学 ○	2回生以上	2	〃	
	地域統計学	2回生以上	2	〃	
	地理情報学 ○	2回生以上	2	〃	
実習	地理学調査法	2回生以上	2	〃	
	地理学フィールドワークⅠ	2回生以上	2	〃	
	地理学フィールドワークⅡ	2回生以上	2	〃	
	製図学および実習Ⅰ ○	2回生以上	2	〃	
	製図学および実習Ⅱ ○	2回生以上	2	〃	
	GIS理論および実習Ⅰ	2回生以上	2	〃	
	GIS理論および実習Ⅱ	2回生以上	2	〃	
	測量学および実習Ⅰ ○	3回生以上	3	〃	
	測量学および実習Ⅱ ○	3回生以上	3	〃	
				計	40以上

3. 測量士補の申請について

測量士補の資格を取得するためには、卒業したのち、各自で国土地理院へ登録申請をすることになります。申請には登録免許税が必要です。

申請方法や申請に必要な書類の詳細は、国土地理院のホームページを確認してください。（国土地理院 HP）<http://www.gsi.go.jp/LAW/SHIKEN/SHIKEN-top.htm>

地域調査士

1. 地域調査士とは

地域調査士とは、地域の総合科学である地理学をベースとし、地域調査の知識や技術を用いて地域の自然現象、社会現象、人文現象等を総合的に捉える調査能力を有する「地域調査の専門家」のことで、公益社団法人日本地理学会が認定する民間資格です。さらに、同資格取得後、大学院でさらに専門的な技術を習得し、企業等で実務経験を積むと、専門地域調査士の資格が認定されます。

この資格は2010年度より運用が開始され、立命館大学の地域研究学域では、**2011年度以降に入学した学生**について資格取得が可能になりました。地域調査士に認定されることにより、一定以上の地域調査の知識や技術を保有するものとみなされ、行政、コンサルタント、教育の分野などで活躍することが期待されます。定められた科目の単位を取得し、「地域調査士講習会」を受講したうえで、地域調査に関する卒業論文を提出した学生が日本地理学会に申請し、認定を受けることとなります。

2. 地域調査士資格申請に必要な科目

次の【A】～【F】全科目の必要科目数を取得していること。

科目の区分	必要科目数	科 目	配当回生
【A】	1	人文地理学概論	1回生以上
【B】	1	地誌（日本）	1回生以上
【C】	1	自然地理学概論	1回生以上
【D】	1	地域調査入門	1回生以上
【E】	1	地理情報学	2回生以上
【F】	1	地理学調査法 地理学フィールドワークⅠ 地理学フィールドワークⅡ 地域観光学フィールドワーク（日本）	2回生以上

※【F】科目については、2回生時に所属した専攻で開講される科目の単位を修得してください。

3. 地域調査士講習会

この講習会は、学部3～4回生時に受講することを推奨します。詳細は、公益社団法人日本地理学会資格専門委員会のページ <http://ajg-certi.jp/gr/seminar.html> をご覧ください。なお、講習会の受講には、申込書（上記URLで入手可能）の送付、ならびに受講料の払込が必要になります。

4. 地域調査士（見込み）

大学在籍期間が2年以上であり、地域調査士講習を修了した者については、次の要件を満たしていれば地域調査士（見込み）の認定手続きを行うことができます。

- ・【A】～【F】に対応した科目を全て履修した者、または【A】～【E】に対応した科目の単位を修得しており、【F】科目に相当する科目を履修中である者であること

※地域調査士（見込み）には認定料が必要になります。

5. 地域調査士の申請について

資格認定申請は、希望者が直接、公益社団法人日本地理学会に、認定手数料の払込、申請書類の送付を行います。申請時には講習修了証書番号の記載が必要ですので、申請前に必ず地域調査士講習を修了してください。専門地域調査士の資格を有する学域の教員による卒業論文の承認も別途必要です。

1. GIS 学術士とは

GIS 学術士とは、地理情報をコンピュータで取り扱う GIS（地理情報システム）の知識と技術を保有する者に対して、公益社団法人日本地理学会が認定する民間資格です。さらに、同資格取得後、大学院でさらに専門的な技術を習得した者には、GIS 専門学術士の資格が認定されます。

この資格は 2007 年度より運用が開始され、立命館大学の地域研究学域では、2003 年度以降に入学した学生について資格取得が可能になりました。GIS 学術士に認定されることにより、GIS を使いこなす知識と技術を習得しているものとみなされ、GIS を活用している行政やコンサルタント業界での活躍が期待されます。定められた科目を所定の成績で修めたうえで、GIS を利用して、各種の主題図の作成や空間分析を実施した卒業論文を提出した学生が日本地理学会に申請し、認定を受けることとなります。

2. 資格申請に必要な科目

次の全科目の単位を取得していること。

科目の区分	必要科目数	科 目	配当回生
【A】	1	情報処理入門	1 回生以上
		人文学のための情報処理 I	2 回生以上
		人文学のための情報処理 II	
		人文学のための情報処理・応用	3 回生以上
【B】	1	リモートセンシング学	2 回生以上
【C】	2	GIS 理論および実習 I	2 回生以上
		GIS 理論および実習 II	2 回生以上
【D】	1	専門演習Ⅲ、Ⅳ	4 回生以上

3. GIS 学術士（見込み）

大学在籍期間が 3 年以上であり、次の要件を満たしていれば GIS 学術士（見込み）の認定手続きを行うことができます。

- ① 【A】、【B】、【C】に対応した科目の単位を申請時まで、2 科目以上修得していること
 - ② ①の単位修得済み科目と今年度履修中の科目の合計が 3 科目以上であること
- ※ GIS 学術士（見込み）には認定料が必要になります。

4. GIS 学術士の申請について

資格認定申請は、希望者が直接、公益社団法人日本地理学会に、認定審査手数料の払込、申請書類の送付を行います。

GIS 学術士の申請の際には、卒業論文の要旨の提出が求められます。要旨には、題目、主査名を書き、GIS をどのように使用し空間分析を実施したかを 1,000 字程度でまとめます。あわせて、GIS を使用して作成した主題図の添付も必要となります。

申請の詳細は、公益社団法人日本地理学会資格専門委員会のホームページ（<http://ajg-cert.jp/>）を見て確認してください。

その他

<地域研究学域の施設・設備案内>

各施設・設備の場所については manaba+R を確認してください。

1. 地域研究学域マップライブラリー

マップライブラリーは、日本全国の地形図や土地利用図をはじめ、京阪神の住宅地図・都市計画図、空中写真、世界各地の地形図・アトラスなど、数多くの地図を収集・保管しています。文字通り「地図の図書館」であり、地域研究学域すべての学生が共有して利用できる施設です。マップライブラリー利用規程は以下の通りです。

- (1) 利用時間は、原則として午前9時30分から午前11時30分、午後0時30分から午後5時30分です。
- (2) 利用のルールは基本的に地域研究学域共同研究室のものと同じです。室内での無駄話、携帯電話の使用、あらゆる飲食、ガムを噛むことなどは禁止します。
- (3) 室内にある地形図や土地利用図などの地図は、規則通りに並べられています。次に使う人のためにも、使った後はかならず元の位置に戻してください。
- (4) 他に何か分からないことがあれば、マップライブラリーで勤務している学域スタッフに尋ねてください。

2. 地域研究学域製図室

製図室は、大学院生の教育・研究共同利用施設として、十数台のコンピュータ、スキャナ、コピー機等が設置されています。研究、講義・実習用に、GISソフトや統計ソフトによる作業を行うことができます。

3. 地域研究学域 GIS・測量室

GIS・測量室は、ArcGISなどのGISソフトや統計データが整備されており、高度な画像処理や統計処理を行うことができます。主に教員や大学院生の教育・研究共同利用施設ですが、GISを駆使した卒論に取り組む学部生は、必要に応じて利用が可能となっています。

4. 地域研究学域マルチラボ

マルチラボは、主に自然地理学の諸分野（地形学・気候学・水文学・土壌学・生物地理学など）に関わるテーマを研究している教員、許可を受けた大学院生・学部生が使用する施設で、花粉分析や粒度分析、火山灰分析、水質分析などに関する機器があります。実験・観測機器の使用、観測結果の整理、採取した各種サンプルの保管などが可能です。また、大学院生・学部生が室外で実験・観測機器を利用する場合の貸出・返却等の手続きは、指導教員の承諾を得て、学域スタッフを介して行います。

<地域研究学域スタッフ>

地域研究学域では学域スタッフがマップライブラリーに勤務しています。学域スタッフは、共同研究室、マップライブラリー、製図室など、地域研究学域諸施設の管理を行うほか、実習科目のサポートなど学域・専攻教学に関する日常業務を行っています。

<地域研究学域のホームページ>

地域研究学域ではホームページ (<https://www.ritsume.ac.jp/lt/area/>) を開設しており、学域および2つの専攻の教学理念の紹介、各専攻の教員紹介、施設案内、科目等の案内などを掲載しています。

VI - 6. 日本語教師養成課程

言語学・日本語教育専攻の学生は、文部科学省が示している基準に即した日本語教員の養成課程を受講することができます。養成課程を通し、「社会・文化・地域」、「言語と社会」、「言語と心理」、「言語と教育」、「言語」の5つの領域区分にわたって提示されている「日本語教師養成における必須の教育内容」50項目（教育実習を含む）を広く、確実に学ぶことができます。この課程には、45単位（主専攻相当）、または28単位（副専攻相当）の2種類があります。修了した学生は修了証（修了証にはいずれの課程を修了したかが明示されます）を申請することで取得できます。この修了証は日本語教育能力検定試験を合格したものと同等にみなされることが多く、日本語教育の一定水準の学習をしたことを証するものとなります。

28単位（副専攻相当）の場合は、コア科目と必修科目の13科目全て、そして選択必修科目から1科目以上を履修します。45単位（主専攻相当）の場合は、副専攻相当28単位に加え、選択必修科目、45単位推奨科目、45単位選択科目から9科目（18単位）*以上を履修します。日本語教師の資格や養成課程の履修内容は、登録日本語教員制度の創設などもあり、今後、変更の可能性があります。「登録日本語教員」に関しては専攻HPを参照してください。なお、日本語教育コア科目は、積み上げ式で2回生以上の科目から受講のために事前に履修しておく先修科目があるので、計画的に履修してください。

*副専攻相当28単位で履修した科目は、主専攻相当45単位でさらに求められる9科目（18単位）分には含まれません。

【コア科目】

	科目名	単位数	配当回生	先修条件
ア	日本語教育学概論	2	1回生以上	なし
イ	日本語教育事情演習	2	2回生以上	ア
ウ	日本語教育のための日本語文法演習	2	2回生以上	ア
エ	日本語教授法演習Ⅰ	2	2回生以上	ア
オ	日本語教授法演習Ⅱ	2	2回生以上	ア
カ	日本語教授法演習Ⅲ	2	3回生以上	ア、イ、ウ、エ、オ
キ	日本語教育研修Ⅰ（LA かLB の1つ以上）	2	3回生以上	**ア、イ、ウ、エ、オ、サ、シ、ス

**「日本語教育研修Ⅰ」（実習科目）の受講に当たっては、文部科学省で定める必須の教育内容の学習が先修条件となっています。

先修条件となる科目を事前に受講してください。

【必修科目】

	科目名	単位数	配当回生	先修条件
ク	言語コミュニケーション入門講義	2	1回生のみ	なし
ケ	言語学概論	2	1回生以上	
コ	言語学・日本語教育リサーチデザイン	2	2回生以上	
サ	異文化間コミュニケーション	2	2回生以上	
シ	応用言語学	2	2回生以上	
ス	共生コミュニケーション演習	2	2回生以上	

【選択必修科目】（全て2単位）

科目名	単位数	配当回生	先修条件
日本語教育研修Ⅱ	2	3回生以上	なし
対照言語学	2	2回生以上	
専門演習Ⅰ（日本語教育）	2	3回生のみ	
専門演習Ⅱ（日本語教育）	2	3回生のみ	
専門演習Ⅲ（日本語教育）	2	4回生以上	
専門演習Ⅳ（日本語教育）	2	4回生以上	

【45 単位推奨科目】（全て 2 単位）

科目名	科目分野	科目名	科目分野
言語学探究Ⅰ	専攻科目	コミュニケーション論	他専攻
言語学探究Ⅱ	専攻科目	コミュニケーション探究Ⅰ	他専攻
言語科学特論	専攻科目	コミュニケーション探究Ⅱ	他専攻
世界の言語と文化	全学教養	マルチモーダルコミュニケーション	他専攻
異文化間テーマ演習	全学教養	東アジア言語論	他専攻
Introduction to Linguistics	全学教養	言語と社会	他専攻
コミュニケーション学概論	他専攻		

【45 単位選択科目】（全て 2 単位）

科目名	科目分野	科目名	科目分野
専門演習Ⅰ（言語学・日本語教育）	専攻科目	Cross-cultural Studies	全学教養
専門演習Ⅱ（言語学・日本語教育）	専攻科目	Cross-cultural Seminar	全学教養
専門演習Ⅲ（言語学・日本語教育）	専攻科目	日本語学概論	他専攻
専門演習Ⅳ（言語学・日本語教育）	専攻科目	現代日本語研究	他専攻
Japan and the West	全学教養	日本語の諸問題	他専攻
Cross-cultural Encounters 1	全学教養	文化交流論	他専攻
Cross-cultural Encounters 2	全学教養		

なお、日本語教師養成課程を受講しない場合、「日本語教員試験」の基礎試験、応用試験、教員実習を別途受け、合格すれば登録日本語教員になることも可能です。詳細は文部科学省の HP を参照してください。

日本語教師になるための学びは、知識やその応用だけではなく幅広い視点が必要となります。日本語教員をめざす人は、科目履修以外にも、地域の外国人支援ボランティア、学内の留学生日本語クラスボランティア、外国語副専攻、留学などにも挑戦してみてください。

VI - 7. 日本語教育能力検定試験

日本語教師の資格として、大学や専門学校での日本語教師養成課程の修了、または日本語教育能力検定試験の合格が挙げられます。安定した日本語教師としてのキャリアにはこれらが必要となります。

本学の日本語教師養成課程は、言語学・日本語教育専攻の学生を対象としていますが、日本語教育能力検定試験は他専攻の学生も受験することができます。

※ 2024 年度からの「日本語教員の国家資格化」に伴い、資格に必要な試験および実習内容については変更が予定されています。最新の情報については、文部科学省の「日本語教育」の HP をご参照ください。

（１）日本語教育能力検定試験とは

日本語教育能力検定試験は、日本語教員となるために学習している方、日本語教育に携わっている方に必要とされる基礎的な知識・能力を検定することを目的とした試験です。試験に合格すればすぐに日本語教師になれる、というわけではありません。しかし、この試験への合格、または日本語教師養成課程を修了していることは、日本語学校などでの就職に有利になります。日本語教師に関する資格試験については、厳格化が検討されており、変更の可能性があります。文部科学省の HP など最新動向を把握するようにしてください。試験の詳細や最新情報については、以下に記載されています。

公益財団法人 日本国際教育支援協会の HP <https://jees.or.jp/jltct/index.htm>

（２）試験内容

日本語教育に必要なとされる知識は、広範囲に及ぶことから、事前準備が必要となります。出題範囲は、令和 4 年度試験より「必須の教育内容」（文化庁）に準じた出題範囲に移行しました。「必須の教育内容」の詳細は、文部科学省の HP を参照してください。ゼロから独学で受験するのは容易ではないので、文学部で開講している関連科目を受講しながら受験準備を始めることをお勧めします。

(3) 出題範囲の内容に関連する受講可能な科目

科目名	分野・学域・専攻
世界の言語と文化	教養科目
異文化間テーマ演習	
Introduction to Linguistics	
日本語学概論	日本語情報学専攻
現代日本語研究	
日本語の諸問題	
東アジア言語論	現代東アジア言語・文化専攻
言語と社会	文化芸術専攻
コミュニケーション学概論	コミュニケーション表現専攻
コミュニケーション論	
コミュニケーション探究Ⅰ	
コミュニケーション探究Ⅱ	
マルチモーダルコミュニケーション	
日本語教育学概論	言語学・日本語教育専攻
日本語教育事情演習*	
日本語教授法演習Ⅰ*	
日本語教授法演習Ⅱ*	
言語学概論	
異文化間コミュニケーション	
応用言語学	
言語学探究Ⅰ	
言語学探究Ⅱ	
言語科学特論	
対照言語学	

*日本語教育系の演習科目は、選考科目であり、言語学・日本語教育専攻の学生による受講が優先されます。また、概論以外の演習科目は積み上げ式で、受講するためには事前に別の科目の単位修得が必要な科目もありますので、シラバスで事前に履修しておくことが必要な科目を確認の上、受講してください。

VII. 学びの支援

1. オフィス・アワー
2. サブゼミ
3. 学生への援助制度

Ⅶ - 1. オフィス・アワー

文学部では、学生の皆さんに対する学修上の指導や助言のために、正課の授業のほかに、学修上の相談時間として「オフィス・アワー」を設置しています。実施方法はこれまでの慣行に従って各学域・専攻によって違います。この制度の実施方法・内容の細目については入学時の各学域・専攻のガイダンスや授業内で説明します。この貴重な時間を積極的に活用してください。

Ⅶ - 2. サブゼミ

サブゼミとは、1 回生の研究入門のクラスにおいて、定められている授業時間以外の時間で、クラス運営の方法を学生同士で話し合ったり、学習や発表の準備や打ち合わせをしたりする時間です。

最初は、1 回生の学生生活や履修の相談などをボランティアで行う先輩達（「オリター」と呼びます）の助力を得てサブゼミを運営していきます。ある程度慣れてきたら、クラスの皆さんが自身の力を合わせて自主的にサブゼミを運営することとなります。この時間を積極的に活用してください。

Ⅶ - 3. 学生への援助制度

立命館大学では、小集団クラス（※）や自主ゼミを対象として補助・援助を行っています。積極的に活用し、学習を深めるために役立ててください。

※小集団クラス…1 回生「研究入門Ⅰ・Ⅱ」、2 回生「基礎講読Ⅰ・Ⅱ」、3・4 回生「専門演習Ⅰ～Ⅳ」をいう。

小集団教育推進補助費

小集団科目では、自主的・集団的な学習活動で必要となる資料の印刷費用、フィールドワーク時の交通費などを補助する制度として、小集団教育推進補助費があります。

学びのコミュニティ 学外活動奨励奨学金 (正課授業)

授業クラス、小集団クラスにおいて学外で実施する調査、制作、他大学等との合同の取組み、学会やコンペティションへの参加、地域連携の取組みを行なう場合、学生が負担する交通費・宿泊費等の経費の一部を奨学金として給付されます。詳細は、文学部事務室に問い合わせしてください。

自主ゼミ援助制度

(1) 自主ゼミ援助制度

授業（正課）や課外で学んだことをさらに発展させ、その研究成果をまとめていくため、文学部・文学研究科に所属する学生・大学院生で組織された学習グループ（自主ゼミ）に対して、様々な援助を行う制度です。自主ゼミとして認められるには、文学部事務室に登録する必要があります。募集の詳細は、4 月・9 月に manaba+R > 文学部生のページ > 文学部の履修 > [その他] 自主ゼミに掲載します。

(2) 参加資格

自主ゼミのメンバーとして登録できるのは、文学部・文学研究科に所属する学生・大学院生に限ります。他学部生・聴講生・科目等履修生・卒業生は登録できません。

(3) 援助内容

① 経済援助としてプリントステーション ID を支給

※キャンパス内に設置されている「プリントステーション」でのプリントアウト・印刷ができる「プリントステーション ID」を、学期毎に自主ゼミ単位に配布します。使い方の詳細は P135 (1) 小集団クラスプリントステーション ID の項をご確認ください。

② 学習会・研究会のための施設貸与

(4) その他

自主ゼミ活動については学期で登録を受け付けます。登録にあたっては文学部所属の指導教員が必要です。

自主ゼミとして登録された場合は、毎年 11 月頃に行われるゼミナール大会への参加を推奨します。

小集団クラス用プリントステーション ID

(1) 小集団クラス用プリントステーション ID

小集団クラス（研究入門、基礎講読、専門演習）の教育支援補助の一環として、キャンパス内に設置されている「プリントステーション」でのプリントアウト・印刷ができる「プリントステーション ID」を、学期毎にクラス単位に配布します。この ID はクラス共有のものになりますので、担当教員の責任のもと、大切に管理・使用し、小集団クラスで使用するレジュメや資料等の印刷に活用してください。

なお、プリントステーションではカラー印刷も可能ですが、その場合の使用度数は 1 枚につき 2 カウント（白黒印刷の倍）となります。

- ・ ID の有効期間は、春学期分・秋学期分に分けてそれぞれ設定されています。有効期間後は使用することができなくなります。
- ・ もし、ID 通知書（パスワードが記載されたもの）を紛失してしまった場合は、すみやかに担当教員または文学部事務室に申し出てください。
- ・ 小集団クラス用 ID は、クラスの学習活動を対象にしたもので、クラスの共有物です。個人的な用途などクラスの学習活動以外の用途では使用しないでください。また、自分の所属クラス以外のクラス用 ID を使用することはできません。

VIII. 施設・学会・校友会

1. コモンズ（愛称：RiLICC）
2. 共同研究室と人文系文献資料室
3. Beyond Borders Plaza（BBP）
4. 立命館大学人文学会
5. 文学部校友会

VIII - 1. コモンズ (愛称: RiLICC リリック Ritsumeikan Letters International and Creative Commons)

清心館1階と啓明館1階にコモンズが設置されています。コモンズ (commons) は近代以前に「誰でも使える共有の牧草地」を指す言葉でしたが、大学や研究機関において、複数の人間がアイデアを出し合うことで高い成果を挙げる協同学習施設 (Learning Commons)、協同研究施設 (Research Commons) が普及したことで、よく使われるようになりました。衣笠キャンパスでは図書館の「ぴあら」 (Peer Learning Room)、法学部の「ろこも」 (Law Commons Square) とともに、「リリック」が授業外学習の中核的施設として作られました。専門的な研究の場となる専攻共同研究室と相互補完的な関係を持ちつつ、「リリック」が文学部の皆さんにとって、学域・専攻を超えて集い、活発な知の交流を進める場であることが期待されます。

コモンズは、文学部と文学部自治会とが「コモンズ利用申し合わせ」に基づいて共同管理しますが、日常的な運営は学生の自治に委ねています。誰もが快適に利用できる空間づくりに協力してください。

【コモンズ利用申し合わせ】

- ①机・椅子の移動や備品等を使用した場合は、元の状態に戻す。
- ②マーカー等の消耗品がなくなった場合は、文学部事務室に申し出る。
- ③机・椅子等に破損があった場合は、直ちに文学部事務室に連絡する。
- ④学生用掲示板に掲示を行う場合は、文学部自治会に相談をする。
- ⑤特定の学生・グループが長時間施設を占有することはせず、互いに譲り合って利用する。
- ⑥無許可での営利活動や各種勧誘活動は禁止する。

VIII - 2. 共同研究室と人文系文献資料室

文学部の教員・学生・院生の研究・学修の場として共同研究室と人文系文献資料室があります。文学部教学の大きな目標である専門的知識・技能の養成や、自主的・集団的な学修・研究の充実のために、この二つの場が大きな役割を果たしています。

〈学域・専攻共同研究室〉

院生・学生が教員とともに、各学域・専攻の学問研究について自主的な共同研究を行う場として共同研究室が設けられています。それぞれ違いがありますが、専攻の教学にとって基本的な辞典などの図書、また演習・講読などのテーマと直接関わりのある専門図書などが置かれています。実験実習的な研究教育が重視されている教育人間学専攻、考古学・文化遺産専攻、地理学専攻、地域観光学専攻では、機器・用具類も充実しており、専用の実験・実習室施設もあります。

これら共同研究室は、大学の休業日 (日曜日・祝日・夏期の一斉休業日・年末年始など)、および授業や卒業論文・修士論文の試問審査など、文学部の教学に関わって使用制限する場合を除いて、原則として毎日午前8時30分から午後10時00分まで利用できます。ただし、実際の時間は専攻によって異なっていますので、各専攻の規定に従ってください。利用時間以外に施設利用を希望する場合、専攻主任・指導教員の許可を受け、「文学部専攻施設等 (夜間・深夜・休日) 利用願」を文学部事務室に提出してください。

共同研究室に入室する際は、カードリーダーに学生証をかざすと開錠できます。ただし、自動的に施錠されますので、学生証を共同研究室内に置いたまま外へ出ないよう注意してください。また、共同研究室の書籍は共通の財産のため、大切に扱ってください。

各学域・専攻の共同研究室の場所は以下の通りです。

共同研究室名 (学域・専攻名)	場所
人間研究学域 哲学・倫理学専攻	清心館3階
人間研究学域 教育人間学専攻	啓明館4階
日本文学研究学域 日本文学専攻	啓明館2階
日本文学研究学域 日本語情報学専攻	啓明館2階
日本史研究学域 日本史学専攻	清心館3階
日本史研究学域 考古学・文化遺産専攻	啓明館1階
東アジア研究学域 中国文学・思想専攻	清心館3階
東アジア研究学域 東洋史学専攻	清心館3階

共同研究室名（学域・専攻名）	場所
東アジア研究学域 現代東アジア言語・文化専攻	啓明館 2 階
国際文化学域 英米文学専攻	清心館 3 階
国際文化学域 ヨーロッパ・イスラーム史専攻	清心館 3 階
国際文化学域 文化芸術専攻	清心館 3 階
地域研究学域 地理学専攻	清心館 4 階
地域研究学域 地域観光学専攻	清心館 4 階
国際コミュニケーション学域 英語圏文化専攻	啓明館 2 階
国際コミュニケーション学域 国際英語専攻	啓明館 2 階
言語コミュニケーション学域 コミュニケーション表現専攻	清心館 3 階
言語コミュニケーション学域 言語学・日本語教育専攻	清心館 3 階
キャンパスアジア・プログラム	啓明館 1 階
京都学クロスメジャー	啓明館 1 階
デジタル人文学クロスメジャー	清心館 3 階
図書館司書課程	清心館 3 階

〈人文系文献資料室〉

修学館地階にある人文系文献資料室には、主に文学部の学問・研究に関する専門図書、学会や大学が発行する学術雑誌、各種の資料（歴史学関係の史料を含む）、辞典、図録などが集中的に保管されています。それぞれの専攻に関する専門図書や資料などは、それぞれの専攻が重点をおいてきた専門分野や収書の方針によって特色をもつものとなっていますが、その中でも特に線装本や和装本など貴重な図書や、『立命館文学』との交換で寄贈された学術雑誌など、二度と収書することが至難なものについては、別置されています。しかし大部分の図書は開架閲覧方式がとられていて、書庫に入って図書を検索し、閲覧することができます。人文系文献資料室の書庫は下記の通り、各専攻関係の図書は次のように配置されています。

閲覧室	新着雑誌（和・洋・中・大学紀要）、新聞、大型製本雑誌、参考図書、地方史
書庫 A	日本文学・日本史・中国文学・東洋史・製本和雑誌（大学紀要・一般）
書庫 B	大型本
書庫 C	漢籍・和装本・視聴覚資料・埋蔵文化財
書庫 D	哲学・心理学・英米文学・教育人間（洋）
書庫 E	西洋史・地理学・文化人類学・インスティテュート・教育人間（和）等・製本中国雑誌・中国文学・東洋史別置資料

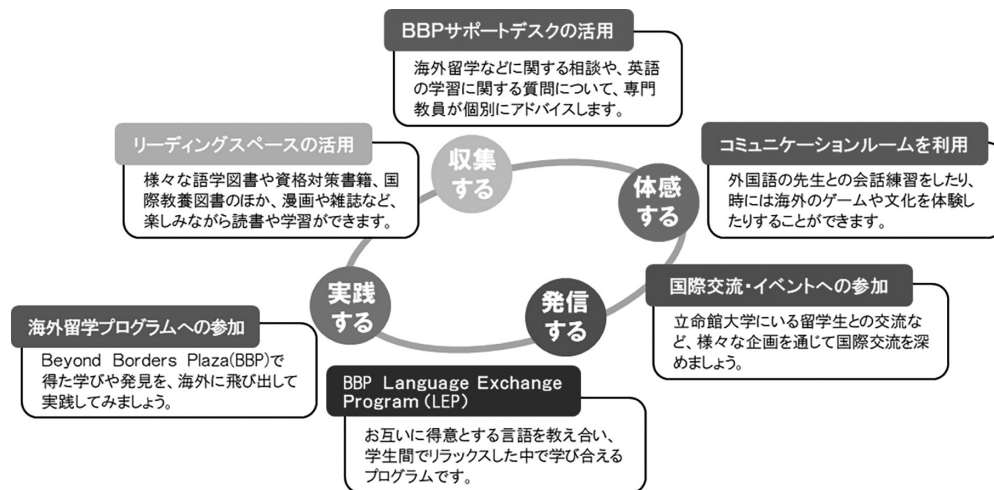
研究内容が部分的に重なり、隣接分野となっている専攻間の図書・資料を相互に利用しやすいよう同一書庫に配置しています。それによって広い基礎をもち水準の高い学修研究の発展と、新しい研究課題の発見が期待できるでしょう。

人文系文献資料室の図書は、全体として専門性の高いものが多く、したがって低回生にとって直接利用できる図書は少なく、広い教養を身につけるための啓蒙書、文学作品、一般の雑誌などについては、平井嘉一郎記念図書館の利用が望まれます。しかし上回生のレポート作成や卒業論文の作成にあたっては、人文系文献資料室に収められた図書の利用が必要となる場合があります。所定の申し込みをすれば、開架閲覧を許していない貴重図書・学術雑誌の閲覧も可能です。

VIII - 3. Beyond Borders Plaza (BBP)

BBP は、国境の壁、文化の壁、言葉の壁、価値観の壁など、様々な Border を超えて繋がりを生み出し、共に学ぶ、国際交流や言語学習をコンセプトにした空間です。学部や回生、国籍、話す言語等に関係なく誰でも利用・活用できます。

BBP では、国際交流企画や言語学習、海外留学に向けた準備を活発に行えるよう、様々な企画や取り組みを実施しています。みなさんも積極的に活用してください。



【WEB サイト】

(manaba + R の「文学部生のページ」→「学び支援サイト」→「留学・外国語学習」→「外国語での交流の場」をクリック)

<https://www.ritsumei.ac.jp/bbp/>

【Beyond Borders Plaza (BBP)】

衣笠キャンパス : Beyond Borders Plaza 1・2 階

びわこ・くさつキャンパス : セントラルアーク 2 階

大阪いばらきキャンパス : Beyond Borders Plaza (A 棟 1 階 AN 事務室内)・Room・iCommons・AN 4 階 SALL

〈QR コード〉



VIII - 4. 立命館大学人文学会

立命館大学人文学会は、立命館大学文学部における学問研究の発展・深化と普及を目的として、文学部の教員・院生・学生によって構成された学会です。

当学会の活動は、1934（昭和 9）年『立命館文學』の創刊に始まっています。この『立命館文學』は、斯界の評価も高く、月刊にて定期的に発刊されていましたが、戦争の拡大するなか、1940（昭和 15）年 10 月には、ついに第 60 号の刊行をもって一時中断のやむなきにいたりしました。しかし戦後間もない混乱期の 1947（昭和 22）年 7 月には、早くも『立命館文學』第 61 号の刊行を再開し、今日にいたっています。

1952（昭和 27）年 1 月に、学会は立命館大学「人文学会」として正式に発足し、会則を制定しました。1969（昭和 44）年には、新たに学生会が発足し、さらに充実した学会に発展しました。

『立命館文學』の発行は、2025 年 3 月現在で、第 692 号に及んでいます。

人文学会の主要な活動は、『立命館文學』の刊行と教員・院生・学生の研究・学修の助成におかれています。『立命館文學』に掲載された研究論文は、専任教員の論文をはじめ、修士論文・博士論文の概要、書評や学界動向の紹介、さらには卒業生や非専任教員の研究論文も数多く掲載されています。発表された研究論文の内容は、わが国の各分野の学界において高い評価を受けているものが多く、『立命館文學』の学会誌としての水準の高さを示しています。

『立命館文學』に掲載されている研究論文や、修士論文・博士論文（概要紹介）・書評・学会動向などは、教員の講義・演習に生かされ、また学生のグループ研究・個人研究の参考に供されていますが、今後ますますひろく活用されることを期待しています。

また「人文学会」は、院生・学生の自主的研究の助成も目的としており、そのための事業

として、ゼミナール大会の後援、優秀卒業論文を掲載した『学生論集』の発行、あるいは公開講演会の開催や学生印刷室への印刷機の設置なども行っています。院生・学生の皆さんは人文学会委員を選出し、それを通じて学会運営に参加することとなっています。学会活動に深い関心を持ち、積極的に参加してください。

VIII - 5. 文学部校友会

文学部は、今日的な意義と役割を担った「学際的な教育・研究」と、先人たちの努力によって培われてきた「伝統的な教育・研究」とを融合させながら、社会にしっかりと根をおろした学生の育成に取り組んでいます。

2007年度、文学部創設80周年を機に、卒業生が専攻やプログラムの卒業生としてだけでなく、「文学部卒業生」として、より広いネットワークを築いて交流することが大きな意義をもつと考え、多くの卒業生のご協力のもと、文学部校友会を設立しました。

文学部校友会は、「会員相互、会員と在学生、および学部・研究科構成員相互の親睦・交流を図るとともに、立命館大学校友会、専攻同窓会組織の活動と連携しつつ、母校ならびに文学部・文学研究科の発展に寄与することを目的」として、総会の開催、講演会や文化的活動・親睦会の開催、卒業生への記念品の贈呈、ゼミナール大会への支援、専攻同窓会・ゼミ同窓会活動への補助、校友会報「LETTERS」の発行などの事業を行っています。

文学部生の皆さんの加入については、4回生の学費案内の折に、大学全体の校友会費等とあわせて文学部校友会費について説明しています。ぜひ皆さんも文学部校友会に参加し、卒業後のネットワークづくりに活用してください。

Ⅸ. 文学部学部則

1. 立命館大学文学部学部則

立命館大学文学部学部則については、manaba + Rの文学部生のページに記載されています。
(manaba + R > 文学部生のページ > 文学部の履修 > 【その他】学部則)

以下の規程については、立命館大学ホームページに記載しています。
立命館大学学則、学籍に関する規程、授業に関する規程、定期試験規程
学生証規程、学費等の納付に関する規程、学生懲戒規程、学生健康診断規程、等。
(立命館大学トップページ > 在学生の方へ > 諸規程)
なお、各規程は変更されることがあります。最新のものはホームページで確認するようにしてください。

文学部人文学科						学域				専攻	フリガナ	
学生証 番 号										-	氏 名	